

平成28年度
授業改善のための学生アンケート報告書

－ 全体集計 －

第I部

平成29年3月

拓殖大学 FD委員会

はじめに

現代社会の大学教育に対する厳しい評価に対応し、斬新で充実した教育実現への要望に応えるために、我が国の多くの大学で学生アンケートを実施し、その授業改善への活用がなされております。

本学では、他大学に先駆けて全学的な「授業改善のための学生アンケート」を実施してきました。アンケート結果にもとづく学生の意見や授業効果を分析し、これらを各種の教育改善につなげ、学生の学修意欲の向上、効果的学修の推進、国際化・情報化などに対応した教育方法の工夫・改善等に積極的に取り組んでまいりました。

また、平成19年度からは、各学部の「FD委員会」に加えて、全学的な「FD委員会」を設置し、アンケート結果に基づいた授業改善の方策を検討しております。

本報告書は、平成28年度に実施した「授業改善のための学生アンケート」について、「全体集計」（第Ⅰ部）と、「科目別集計」（第Ⅱ部）の2部構成としました。第Ⅱ部には「科目別集計（個表）」の形で授業評価に参加した全教員のデータとともに、学生の主な意見、ならびにこれに対する担当教員の所見を掲載しています。さらに、「分野別集計」を加え、学部・学科目別にきめ細かな評価分析を試みております。

本報告書を活用し、教員各位が今回のデータを過去のデータと比較検討し、他の教員や他学部の状況をも参考にしながら、今後の改善に役立てて下さるようお願いいたします。

大学・学部の教育目標の達成を目指して、学生の効果的学修のため、教育方法を工夫・改善されるようお願いいたします。

平成29年3月

拓殖大学 学長
川 名 明 夫

目次

はじめに

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針	9
2. 実施状況	9
3. 集計結果の概要	9
4. 今後の課題	10

II 実施状況

1. 実施期間	13
2. 実施教員数	13
3. 実施科目数	14
4. アンケート回答数（延べ人数）	14
5. 学科目別実施科目数	14

III 全体集計

1. 学科目別（講義等科目）平均値・標準偏差値	17
2. 教員所属別（講義等科目）平均値・標準偏差値	
(1) 専任教員所属別	18
(2) 講師[非常勤]所属別	19
3. 履修登録者数別比較表	20
4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）	
(1) 学科目別平均値	
①商学部専門科目	21
②政経学部専門科目	22
③外国語学部専門科目	23
④工学部専門科目（講義等科目、実験・実習科目別）	24
⑤国際学部専門科目	26
⑥教養教育科目	27
⑦外国語科目	28
⑧スポーツ・トレーニング科目	29
⑨教職・社教・日語科目	30
⑩ゼミ・外書講読科目	31
⑪全体（講義等科目）	32
(2) 学生所属別平均値・標準偏差（講義等科目）	
①学年別	33
②学科別	34
(3) 満足度平均値	
①学科目別	36

②所属別	-----	37
③身分別	-----	38
④年齢別	-----	39
5. 学科目別 回答の分析	-----	40
6. 学部設問項目 平均値・標準偏差	-----	44

IV コース・分野・学科別集計

1. 商学部専門科目 (コース別)	-----	46
2. 政経学部専門科目 (分野別)	-----	47
3. 外国語学部専門科目 (学科別)	-----	48
4. 工学部専門科目		
(1) 実験・実習科目 (学科別)	-----	49
(2) 学科・学科目別 (講義等科目)	-----	50
5. 国際学部科目		
(1) 英語群	-----	51
(2) 地域言語群	-----	52
(3) 基礎科目群	-----	53
(4) 専門共通科目	-----	54
(5) 専門コース科目	-----	55
6. 教養教育等科目		
(1) 講義等科目 (群別)	-----	56
(2) 外国語科目 (12カ国語)	-----	57
(3) スポーツ・トレーニング科目	-----	58
(4) 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目	-----	59

V 評価及び課題

1. 商学部	-----	61
2. 政経学部	-----	68
3. 外国語学部	-----	75
4. 工学部	-----	81
5. 国際学部	-----	87
6. 教養教育	-----	94
7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目	-----	111

参考資料

アンケート様式	-----	117
---------	-------	-----

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針

拓殖大学における教育内容と方法の改善を目的とした組織的な取り組みは、1992年（平成4年）の拓殖大学自己点検評価委員会の設置から始まり、各学部到自己点検評価委員会を設置、PDCAを実施するなかで教育改革に取り組んできました。具体的には、1994年（平成6年）から始まった「学生による授業評価（現・授業改善のための学生アンケート）」の実施、全学的なFDワークショップの開催、教育・研究等業績報告書の作成、新任教員研修会の開催、教員相互の授業参観の実施などです。このうち「授業改善のための学生アンケート」は、これら一連の教育改革の柱となるものであり、次のような特色を持っています。

- (1) 大学（5学部）全体の取り組みとして実施していること。
- (2) 全教員が参加していること[平成28年度は講師（非常勤）を含め100.0%の実施率]。
- (3) 授業科目ごとの集計表には、統計処理したデータだけでなく学生からの要望・担当教員の所見及び改善に向けた取り組み方針を記載し、改善に向けて取り組んでいること。
- (4) 結果を公開し全教員が参照できるようにしていること。

商・政経学部の文京一貫教育が行われるようになった平成27年度は、事務処理の混乱を避けるため2年続けて後期に実施したが、平成28年度の「授業改善のための学生アンケート」は原則の隔年実施に基づき前期に実施した。

2. 実施状況

平成28年度「授業改善のための学生アンケート」は、専任教員では対象となる教員233名全員が実施し、講師（非常勤）についても対象者385名全員が実施した。全体の実施率は、100.0%である。

実施科目数は専任教員で492科目（前年度497科目）、講師（非常勤）で661科目（前年度710科目）、合計1,153科目（前年度1,207科目）と前年度と比べ54科目減少し、学生からの述べ回答数も37,104人と、前年度を482人下回った。

3. 集計結果の概要

全教員の「満足度」の平均は3.92で、昨年度と比べ0.07ポイント下がったが、これは前・後期の実施時期が影響していると思われる。ちなみに、同じく前期に実施した平成25年度（満足度3.91）と比較すると、わずか0.01ポイントであるが高くなっている。

満足度の数値は、学部別、学問分野別では大きく異なってくる。たとえば専任教員の

学部別では、外国語学部が最も高く 4.27、続いて国際学部が 4.10、政経学部 3.91、商学部 3.88、そして工学部 3.66 となっている。

分野別では、キャリア科目（1 科目 4.67）が最も高く、次いでゼミ・外書講読（4.40、以下外国語学部専門科目（4.13）、教職関係科目（4.11）、各学部の外国語科目（4.08）、国際学部専門科目（4.06）、政経学部専門科目（3.86）、教養・総合教育科目（3.86）、商学部専門科目（3.82）、工学部専門科目[講義科目]（3.65）と続いている。

こうした評価の差は、学問分野別に加え、授業規模や授業方法の違いによっても異なってくる。たとえば、講義科目の履修登録者数別比較表をみると、履修者数が 100 人以下では満足度 3.97 に対して、301 人以上では 3.54 と、0.43 ポイント後者の方が低くなっている。

学生の学年別「満足度」をみると、高学年になればなるほど高く、また教員の身分別では助教（1 人）が最も高く、以下特別非常勤講師、准教授、講師（非常勤）、教授の順となっている。教員の年齢別では、最も高いのが 40 歳代で、逆に最も低いのが 60 歳代である。60 の大台を超えると、加齢とともに知識や経験は豊富である一方、「満足度」が低くなっていく傾向がみられる。熟練教員には、この点も念頭において今後授業改善に取り組んでいくことが求められる。

「満足度」以外の項目については、今後の課題も含め学部別あるいは学科目別に詳細に分析されているので、本報告書「V 評価と課題」をご覧ください。

4. 今後の課題

（1）客観性が担保できる学生アンケート実施方法の継続。

平成 26 年度から始めた学生アンケート実施方法の変更がまだすべての教員に浸透していないため、引き続き継続して実施していくこと。

（2）「授業改善のための学生アンケート」結果が低い科目への対応。

拓殖大学の教育力の底上げを図るため、「授業改善のための学生アンケート」結果が 2 年連続 2.9 以下の科目については、前年度と同様学部長と各学部 F D 委員長が改善方に努める。

文京ルネサンス事業が完成し、中身の教育力の改善が求められています。本学 F D 委員会に課せられた課題は多いが、「授業改善のための学生アンケート」を中心に今後も積極的に取り組んでいきますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

拓殖大学 F D 委員会
委員長 芦田 誠

II 実施状況

1. 実施期間

平成28年6月20日（月）～7月13日（水）

予備日：平成28年7月14日（木）～20日（水）

2. 実施教員数

1) 専任教員

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
商 学 部	47	47	0	100.0%
政 経 学 部	54	54	0	100.0%
外国語学部	40	40	0	100.0%
工 学 部	51	51	0	100.0%
国 際 学 部	34	34	0	100.0%
兼 担	7	7	0	100.0%
合 計	233	233	0	100.0%

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

2) 講師（非常勤）

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
商 学 部	124	124	0	100.0%
政 経 学 部	113	113	0	100.0%
外国語学部	40	40	0	100.0%
工 学 部	52	52	0	100.0%
国 際 学 部	47	47	0	100.0%
兼 担	9	9	0	100.0%
合 計	385	385	0	100.0%

（注）講師（非常勤）：客員教授を含む

3) 全体

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
専 任 教 員	233	233	0	100.0%
講 師（非常勤）	385	385	0	100.0%
合 計	618	618	0	100.0%

3. 実施科目数

所 属	専任教員	非常勤講師	合 計
商 学 部	103	206	309
政 経 学 部	116	167	283
外 国 語 学 部	78	72	150
工 学 部	103	64	167
国 際 学 部	113	152	265
兼 担	8	17	25
合 計	521	678	1,199

4. アンケート回答数（延べ人数）

回答者の所属	1 年	2 年	3 年	4 年	無回答	合 計
商 学 部	3,729	3,555	2,492	978	15	10,769
政 経 学 部	3,701	3,346	2,844	945	34	10,870
外 国 語 学 部	1,260	1,009	515	107	17	2,908
工 学 部	2,264	2,145	2,098	219	75	6,801
国 際 学 部	3,032	2,618	1,101	357	121	7,229
無 回 答	91	121	109	40	3,450	3,811
合 計	14,077	12,794	9,159	2,646	3,712	42,388

(注) 「無回答」は、「所属学科」「学年」についての未記入を示す

5. 学科目別実施科目数

所 属	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼 担	合 計
商学部 専門科目	138	5					143
政経学部 専門科目	4	123	1		1	2	131
外国語学部 専門科目	2	2	102		2		108
工学部 講義				91			91
工学部 実験実習				35			35
国際学部 専門科目					73	2	75
教養科目・総合教育科目	27	36	11	6	22	6	108
外国語科目	114	87	28	28	161	15	433
スポーツ・トレーニング科目	7	4		4			15
教職・社教・日語科目	5	12	6	3	6		32
ゼミ・外書講読	11	14	2				27
キャリア科目	1						1
合 計	309	283	150	167	265	25	1,199

(注) 教養科目・総合教育科目：国際学部基礎科目を含む
外国語科目：英語、第2外国語、選択外国語、地域言語、留学生用の日本語

Ⅲ 全体集計

1. 学科目別（講義等科目） 平均値・標準偏差

設問項目	区分	商学部 専門科目	政経学 部専門 科目	外国語 学部 専門科 目	工学部 専門科 目（講 義）	国際学 部専門 科目	教養科 目・総 合教育 科目	外国語 科目	教職・ 社教・ 日語科 目	ゼミ・ 外書講 読	キャリ ア科目	全体
		科目数： (143)	科目数： (131)	科目数： (108)	科目数： (90)	科目数： (75)	科目数： (108)	科目数： (433)	科目数： (32)	科目数： (27)	科目数： (1)	科目数： (1153)
I-1	平均値	4.58	4.50	4.61	4.62	4.52	4.58	4.67	4.56	4.75	4.00	4.59
	標準偏差	0.70	0.78	0.67	0.67	0.76	0.73	0.64	0.66	0.54	0.00	0.71
I-2	平均値	4.05	3.97	4.04	3.76	3.84	3.73	4.11	3.97	3.67	3.67	3.94
	標準偏差	1.08	1.13	1.09	1.14	1.21	1.28	1.04	1.06	1.27	0.47	1.14
I-3	平均値	1.68	1.76	2.09	1.78	1.88	1.56	2.06	1.72	2.28	1.67	1.81
	標準偏差	1.03	1.08	1.07	1.03	1.20	1.01	1.08	1.03	1.27	0.47	1.09
I-5	平均値	1.57	1.56	1.56	1.69	1.75	1.49	1.65	1.59	2.07	2.33	1.61
	標準偏差	1.06	1.07	1.04	1.07	1.24	1.02	1.11	1.04	1.34	0.47	1.09
II-1	平均値	3.89	3.92	4.12	3.77	4.05	3.84	4.10	4.18	4.25	4.33	3.95
	標準偏差	1.02	1.03	0.99	0.99	1.04	1.08	0.94	0.92	0.91	0.94	1.02
II-3	平均値	3.97	3.99	4.18	3.88	4.07	3.94	4.11	4.16	4.20	4.33	4.01
	標準偏差	0.91	0.91	0.90	0.89	0.94	0.95	0.88	0.87	0.87	0.47	0.91
II-5	平均値	4.03	4.02	4.27	3.92	4.09	4.00	4.20	4.19	4.40	4.67	4.07
	標準偏差	1.05	1.06	0.97	1.02	1.07	1.11	0.97	1.02	0.82	0.47	1.04
II-6	平均値	3.94	3.97	4.14	3.84	4.09	3.92	4.10	4.18	4.17	4.33	3.99
	標準偏差	1.04	1.02	0.99	1.02	1.05	1.06	0.94	0.96	0.91	0.47	1.02
II-7	平均値	3.92	3.96	4.21	3.71	4.09	3.84	4.23	4.27	4.32	4.33	4.00
	標準偏差	1.02	1.04	0.95	1.01	1.02	1.06	0.88	0.88	0.89	0.47	1.01
II-8	平均値	3.73	3.70	4.05	3.70	3.80	3.62	4.09	3.86	4.17	4.33	3.81
	標準偏差	1.03	1.04	1.01	0.96	1.14	1.08	0.94	1.01	0.92	0.47	1.04
II-9	平均値	3.61	3.63	4.02	3.45	3.95	3.66	3.94	3.92	4.28	4.00	3.73
	標準偏差	1.03	1.05	0.97	1.06	1.05	1.08	0.98	0.95	0.82	0.00	1.05
II-10	平均値	3.67	3.71	3.87	3.48	4.06	3.73	3.80	4.07	4.25	4.67	3.75
	標準偏差	1.03	1.04	1.01	1.04	1.01	1.06	1.02	0.92	0.86	0.47	1.04
III	平均値	3.82	3.86	4.13	3.65	4.06	3.86	4.08	4.11	4.40	4.67	3.92
	標準偏差	1.02	1.03	0.98	1.03	1.04	1.04	0.97	0.94	0.86	0.47	1.03

○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.52	3.54	3.38	3.50	3.36	3.41	3.38	3.39	3.25	3.33	3.45
	標準偏差	0.75	0.76	0.69	0.79	0.72	0.77	0.76	0.68	0.65	0.47	0.76
II-4	平均値	3.31	3.31	3.18	3.33	3.24	3.24	3.24	3.19	3.07	3.00	3.27
	標準偏差	0.66	0.69	0.58	0.69	0.62	0.64	0.63	0.61	0.52	0.00	0.65

(注) I-4は、複数回答項目のため、「5. 回答の分布」を参照

2. 教員所属別（講義等科目）

（1）専任教員所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	専任教員全体	講師全体	全体
		科目数: (103)	科目数: (116)	科目数: (78)	科目数: (74)	科目数: (113)	科目数: (8)	科目数: (492)	科目数: (661)	科目数: (1153)
I-1	平均値	4.62	4.53	4.69	4.62	4.56	4.61	4.58	4.59	4.59
	標準偏差	0.68	0.77	0.61	0.69	0.72	0.70	0.72	0.70	0.71
I-2	平均値	4.11	4.11	4.12	3.84	3.88	3.64	4.01	3.86	3.94
	標準偏差	1.05	1.05	1.07	1.12	1.19	1.22	1.10	1.18	1.14
I-3	平均値	1.71	1.82	2.10	1.78	1.96	1.64	1.83	1.80	1.81
	標準偏差	1.05	1.12	1.10	1.04	1.21	1.06	1.11	1.05	1.09
I-5	平均値	1.58	1.59	1.56	1.66	1.81	1.56	1.64	1.57	1.61
	標準偏差	1.07	1.10	1.04	1.05	1.26	1.09	1.12	1.06	1.09
II-1	平均値	3.95	3.96	4.26	3.80	4.09	4.03	3.98	3.92	3.95
	標準偏差	0.99	1.01	0.92	1.00	1.02	1.05	1.01	1.03	1.02
II-3	平均値	4.01	4.01	4.28	3.90	4.10	3.96	4.03	4.00	4.01
	標準偏差	0.88	0.91	0.85	0.90	0.93	0.95	0.90	0.93	0.91
II-5	平均値	4.08	4.05	4.38	3.91	4.16	4.25	4.08	4.06	4.07
	標準偏差	1.00	1.04	0.89	1.05	1.02	0.96	1.02	1.06	1.04
II-6	平均値	4.01	3.99	4.26	3.87	4.17	3.97	4.03	3.95	3.99
	標準偏差	1.00	1.02	0.91	1.00	0.99	1.05	1.01	1.03	1.02
II-7	平均値	4.00	3.99	4.30	3.76	4.20	3.80	4.01	3.98	4.00
	標準偏差	0.97	1.03	0.87	0.99	0.96	1.13	1.00	1.02	1.01
II-8	平均値	3.77	3.75	4.11	3.72	3.91	3.55	3.80	3.81	3.81
	標準偏差	1.02	1.04	0.96	0.97	1.11	1.17	1.04	1.03	1.04
II-9	平均値	3.67	3.69	4.12	3.47	3.99	3.82	3.74	3.72	3.73
	標準偏差	1.02	1.03	0.92	1.06	1.02	1.01	1.04	1.05	1.05
II-10	平均値	3.73	3.75	4.02	3.48	4.06	3.92	3.79	3.71	3.75
	標準偏差	1.01	1.04	0.97	1.04	1.00	0.96	1.03	1.05	1.04
III	平均値	3.88	3.91	4.27	3.66	4.10	4.12	3.93	3.90	3.92
	標準偏差	0.99	1.03	0.92	1.03	1.01	0.94	1.02	1.03	1.03

○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.51	3.52	3.35	3.52	3.36	3.31	3.47	3.43	3.45
	標準偏差	0.73	0.76	0.65	0.78	0.73	0.71	0.74	0.77	0.76
II-4	平均値	3.30	3.30	3.18	3.35	3.23	3.18	3.28	3.25	3.27
	標準偏差	0.64	0.68	0.55	0.68	0.63	0.64	0.65	0.66	0.65

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

(2) 講師（非常勤）所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	講師全体	専任教員全体	全体
		科目数: (199)	科目数: (163)	科目数: (72)	科目数: (58)	科目数: (152)	科目数: (17)	科目数: (661)	科目数: (492)	科目数: (1153)
I-1	平均値	4.59	4.58	4.56	4.63	4.58	4.73	4.59	4.58	4.59
	標準偏差	0.71	0.72	0.71	0.66	0.71	0.53	0.70	0.72	0.71
I-2	平均値	3.83	3.84	3.88	3.70	4.01	4.38	3.86	4.01	3.94
	標準偏差	1.20	1.20	1.15	1.18	1.12	0.96	1.18	1.10	1.14
I-3	平均値	1.75	1.69	1.84	1.77	2.05	2.24	1.80	1.83	1.81
	標準偏差	1.04	1.01	1.04	1.05	1.11	1.17	1.05	1.11	1.09
I-5	平均値	1.56	1.49	1.54	1.61	1.66	2.39	1.57	1.64	1.61
	標準偏差	1.05	1.01	1.04	1.04	1.13	1.44	1.06	1.12	1.09
II-1	平均値	3.94	3.88	3.93	3.71	4.04	4.31	3.92	3.98	3.95
	標準偏差	1.03	1.05	1.05	1.03	0.96	0.87	1.03	1.01	1.02
II-3	平均値	4.01	3.98	4.01	3.85	4.08	4.15	4.00	4.03	4.01
	標準偏差	0.92	0.93	0.94	0.91	0.91	0.91	0.93	0.90	0.91
II-5	平均値	4.10	4.01	4.07	3.87	4.16	4.37	4.06	4.08	4.07
	標準偏差	1.04	1.09	1.09	1.07	0.98	0.89	1.06	1.02	1.04
II-6	平均値	3.98	3.93	3.97	3.80	4.03	4.30	3.95	4.03	3.99
	標準偏差	1.02	1.04	1.03	1.06	1.01	0.90	1.03	1.01	1.02
II-7	平均値	3.95	3.98	4.00	3.76	4.18	4.28	3.98	4.01	4.00
	標準偏差	1.04	1.02	1.02	1.03	0.93	0.87	1.02	1.00	1.01
II-8	平均値	3.82	3.72	3.87	3.66	4.01	4.12	3.81	3.80	3.81
	標準偏差	1.04	1.05	1.04	1.01	0.98	1.01	1.03	1.04	1.04
II-9	平均値	3.74	3.62	3.76	3.49	4.00	4.27	3.72	3.74	3.73
	標準偏差	1.04	1.06	1.07	1.07	0.97	0.85	1.05	1.04	1.05
II-10	平均値	3.72	3.67	3.68	3.48	3.90	4.18	3.71	3.79	3.75
	標準偏差	1.04	1.06	1.05	1.06	1.01	0.89	1.05	1.03	1.04
III	平均値	3.91	3.86	3.92	3.65	4.10	4.39	3.90	3.93	3.92
	標準偏差	1.02	1.04	1.04	1.05	0.98	0.81	1.03	1.02	1.03

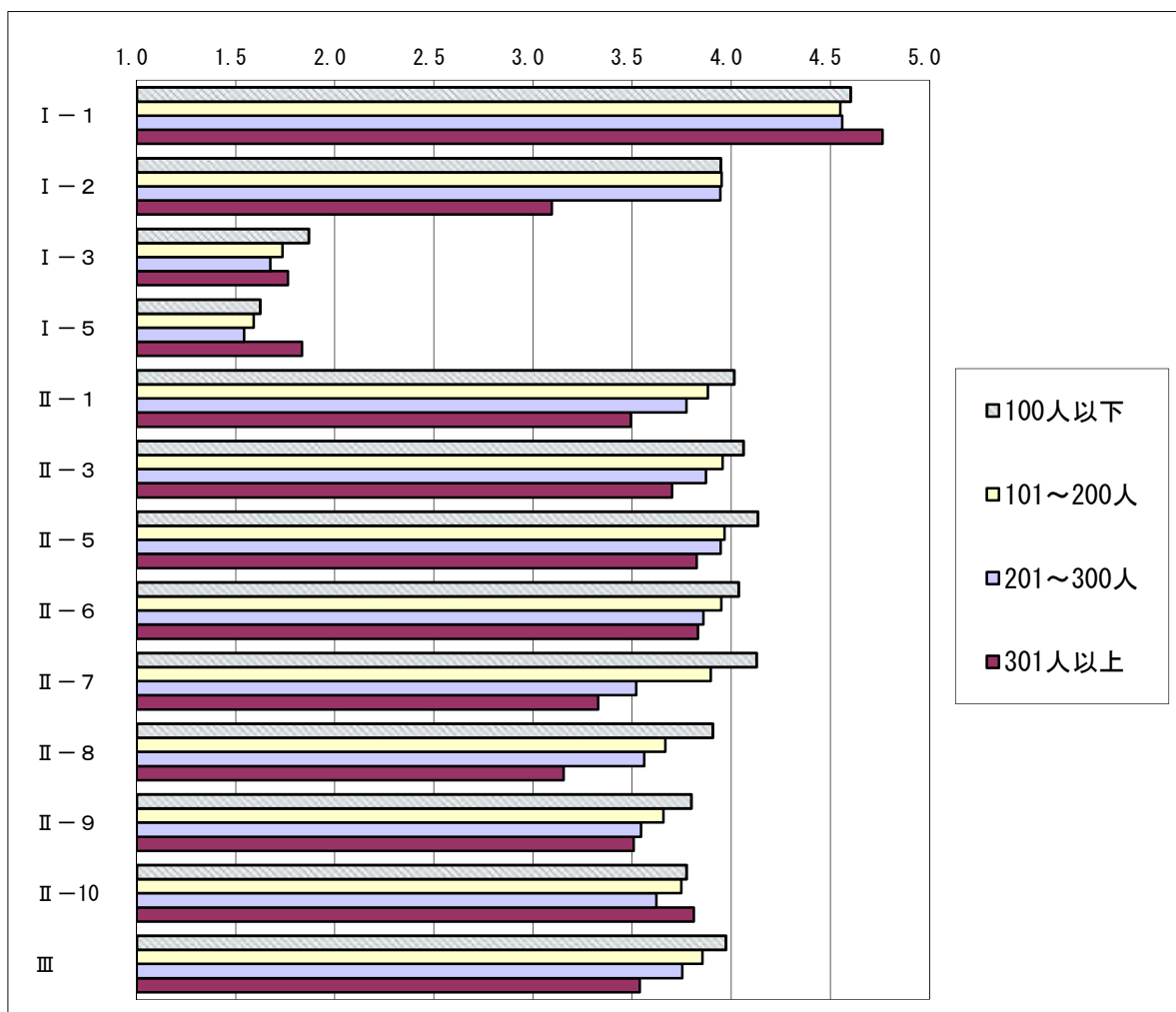
○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.43	3.49	3.46	3.43	3.34	3.22	3.43	3.47	3.45
	標準偏差	0.78	0.76	0.76	0.82	0.75	0.69	0.77	0.74	0.76
II-4	平均値	3.27	3.26	3.24	3.25	3.21	3.17	3.25	3.28	3.27
	標準偏差	0.65	0.67	0.63	0.67	0.65	0.60	0.66	0.65	0.65

(注) 講師（非常勤）：客員教授を含む

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

3. 履修登録者数別比較表（講義科目）



(注) I-4受講動機(複数回答)、II-2難易度、II-4進度(3の回答が適切)は回答の基準が異なるため、掲載していない。

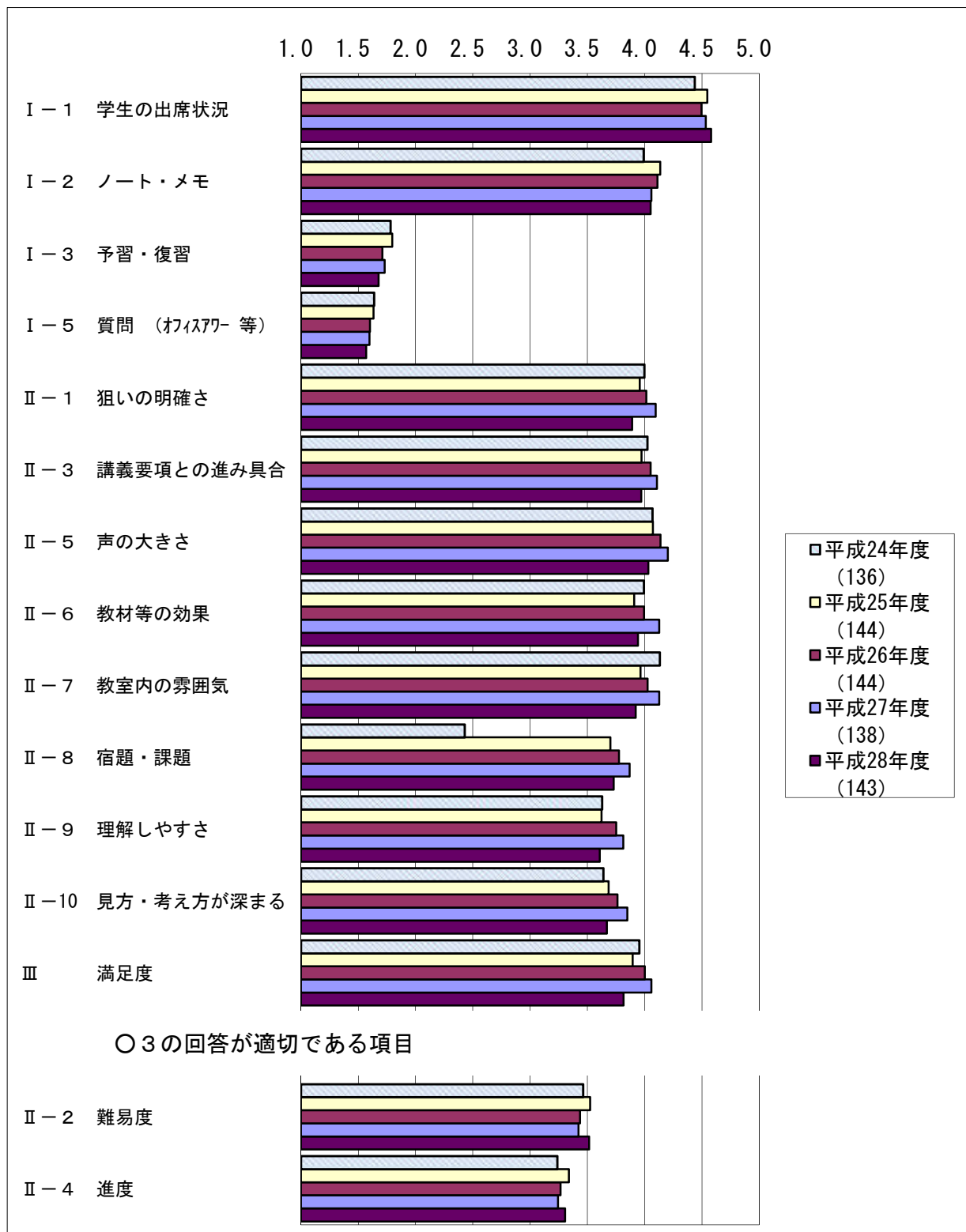
○ 平均値

区分		100人以下	101~200人	201~300人	301人以上
科目数		1,013	109	30	1
I-1	学生の出席状況	4.60	4.55	4.56	4.76
I-2	ノート・メモ	3.95	3.95	3.94	3.09
I-3	予習・復習	1.87	1.74	1.68	1.76
I-5	質問(オフィスアワー等)	1.62	1.59	1.54	1.84
II-1	狙いの明確さ	4.01	3.88	3.77	3.49
II-3	講義要項との進み具合	4.06	3.96	3.87	3.70
II-5	声の大きさ	4.13	3.97	3.95	3.82
II-6	教材等の効果	4.04	3.95	3.86	3.83
II-7	教室内の雰囲気	4.13	3.90	3.52	3.33
II-8	宿題・課題	3.91	3.67	3.56	3.15
II-9	理解しやすさ	3.80	3.66	3.55	3.51
II-10	見方・考え方が深まる	3.77	3.75	3.62	3.81
III	満足度	3.97	3.85	3.75	3.54

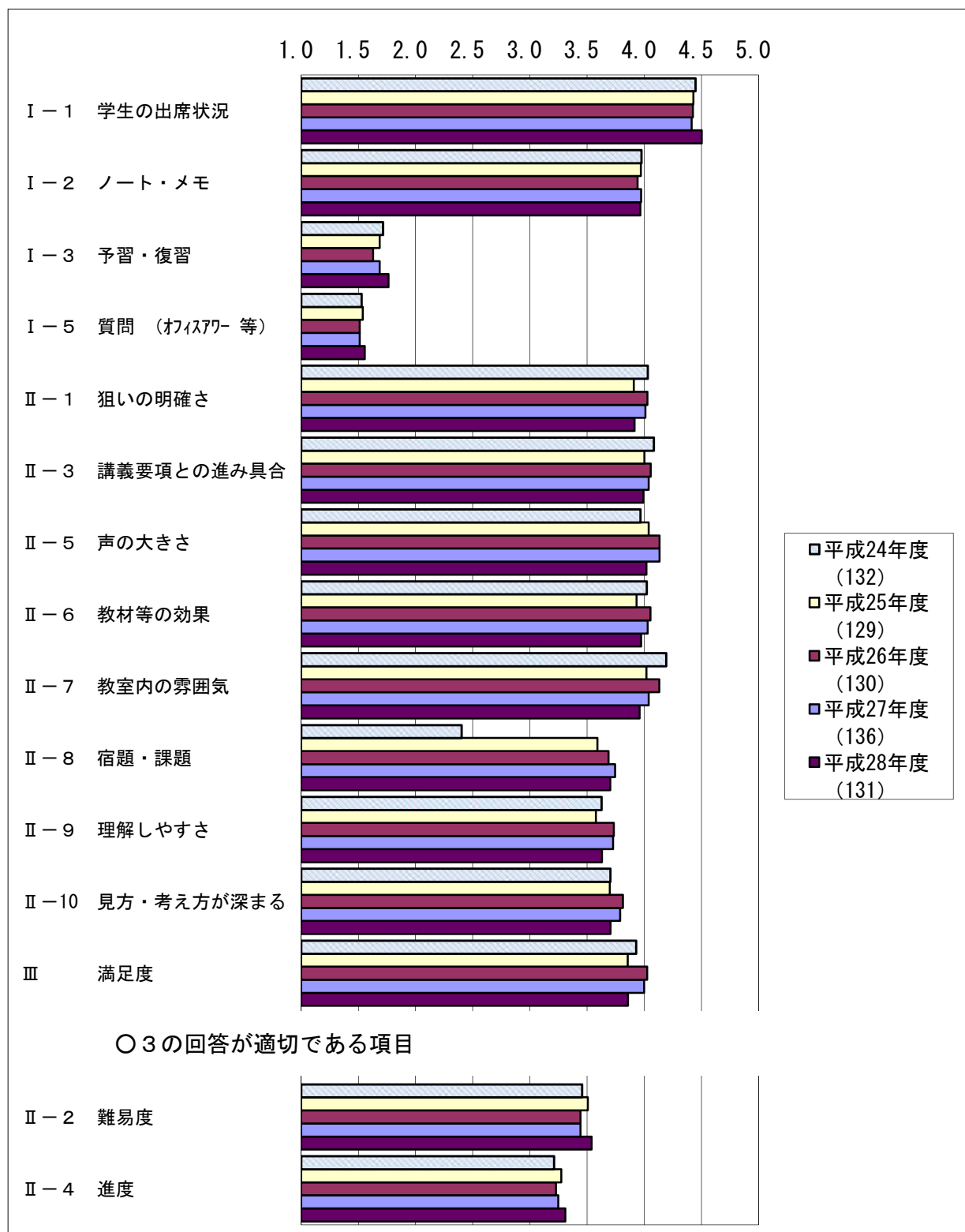
4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）

（1）学科目別平均値

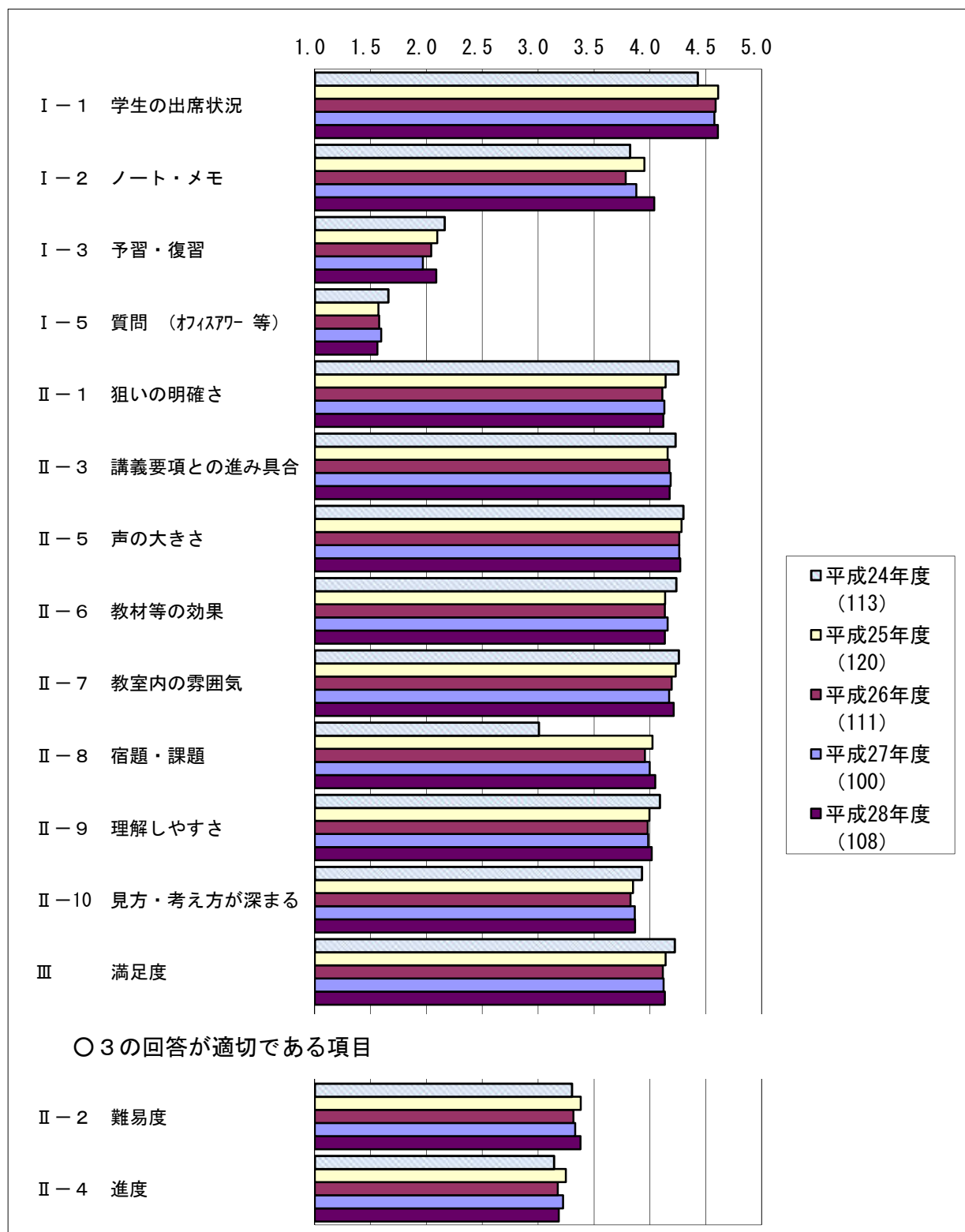
① 商学部専門科目



② 政経学部専門科目

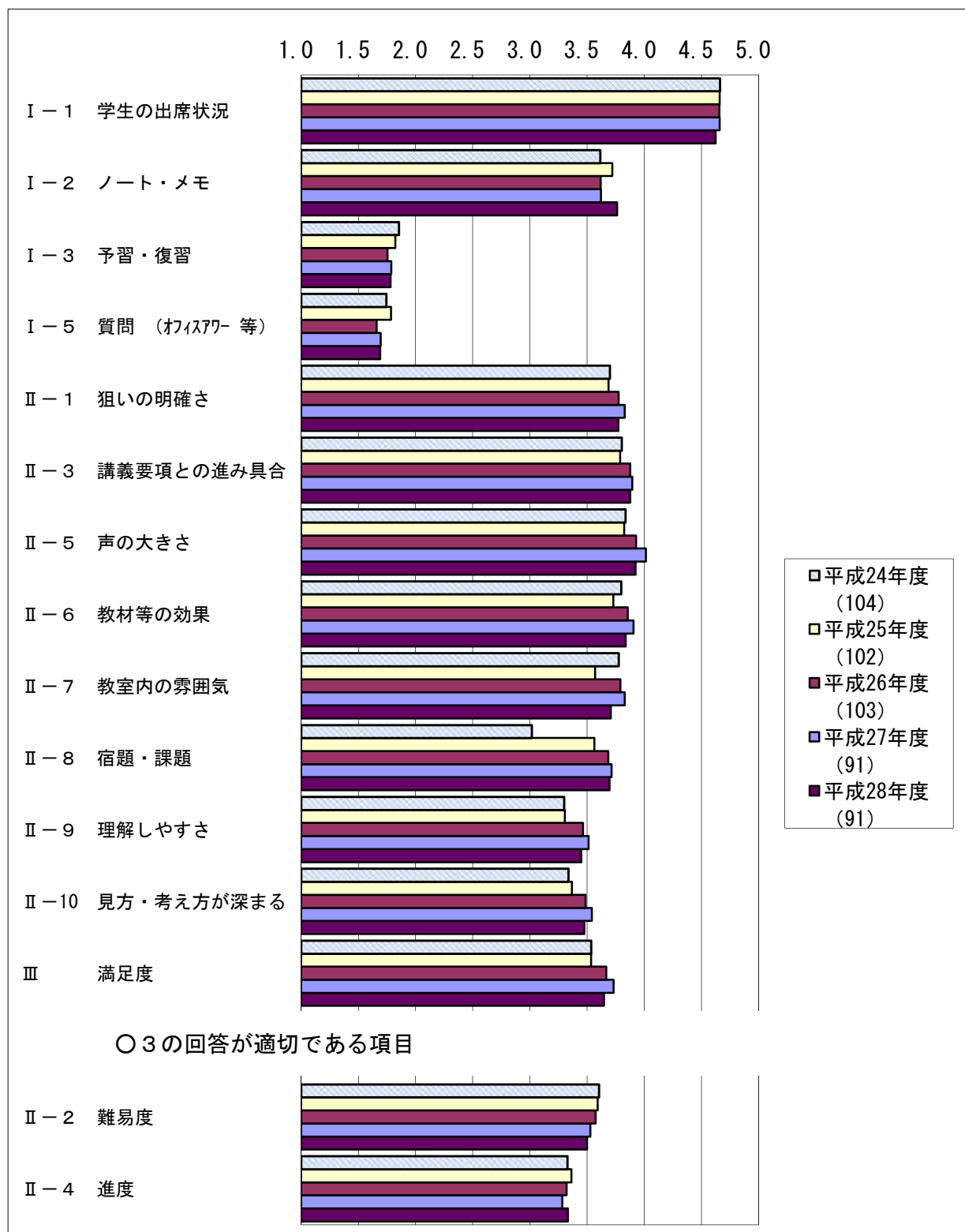


③ 外国語学部専門科目

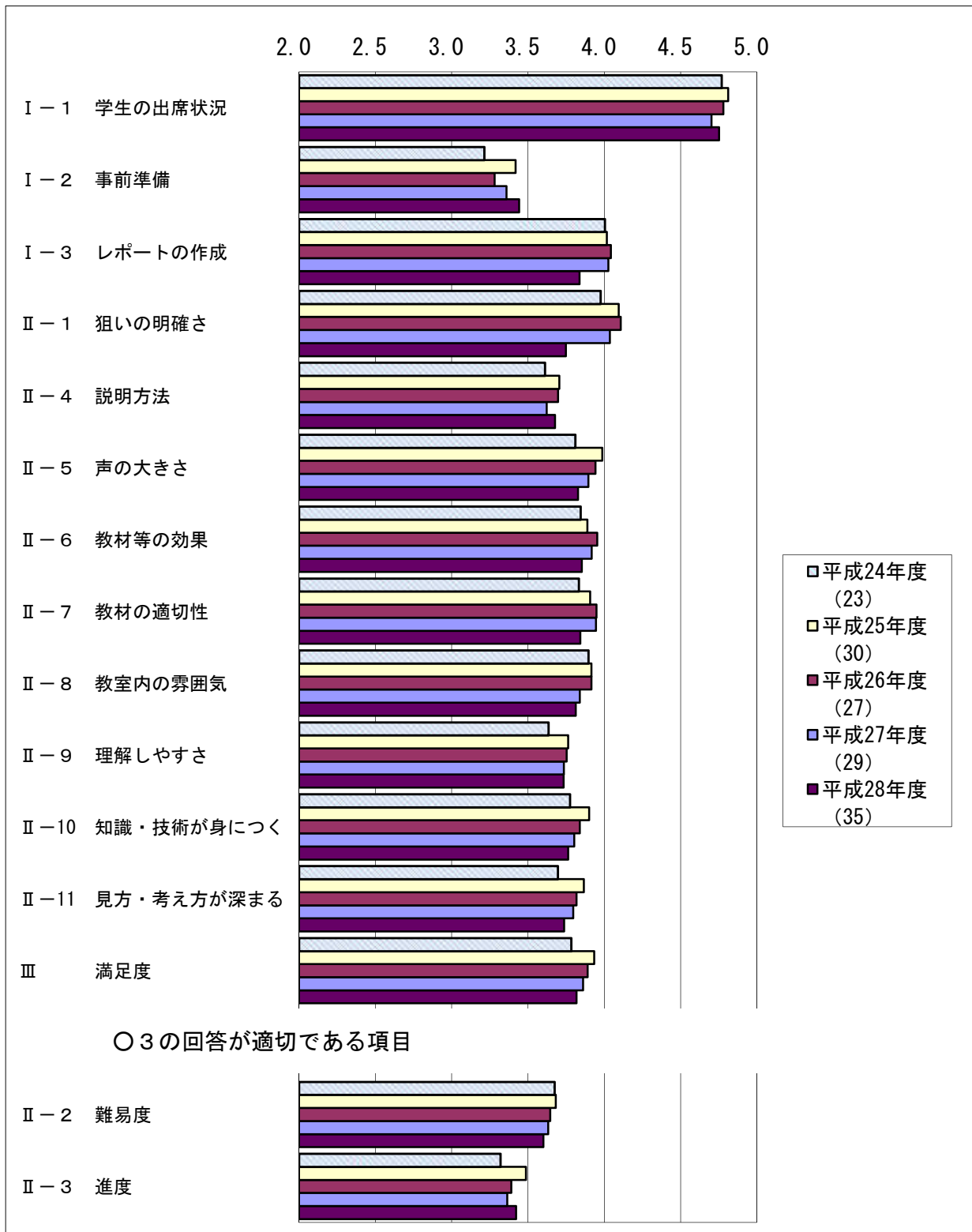


④ 工学部専門科目

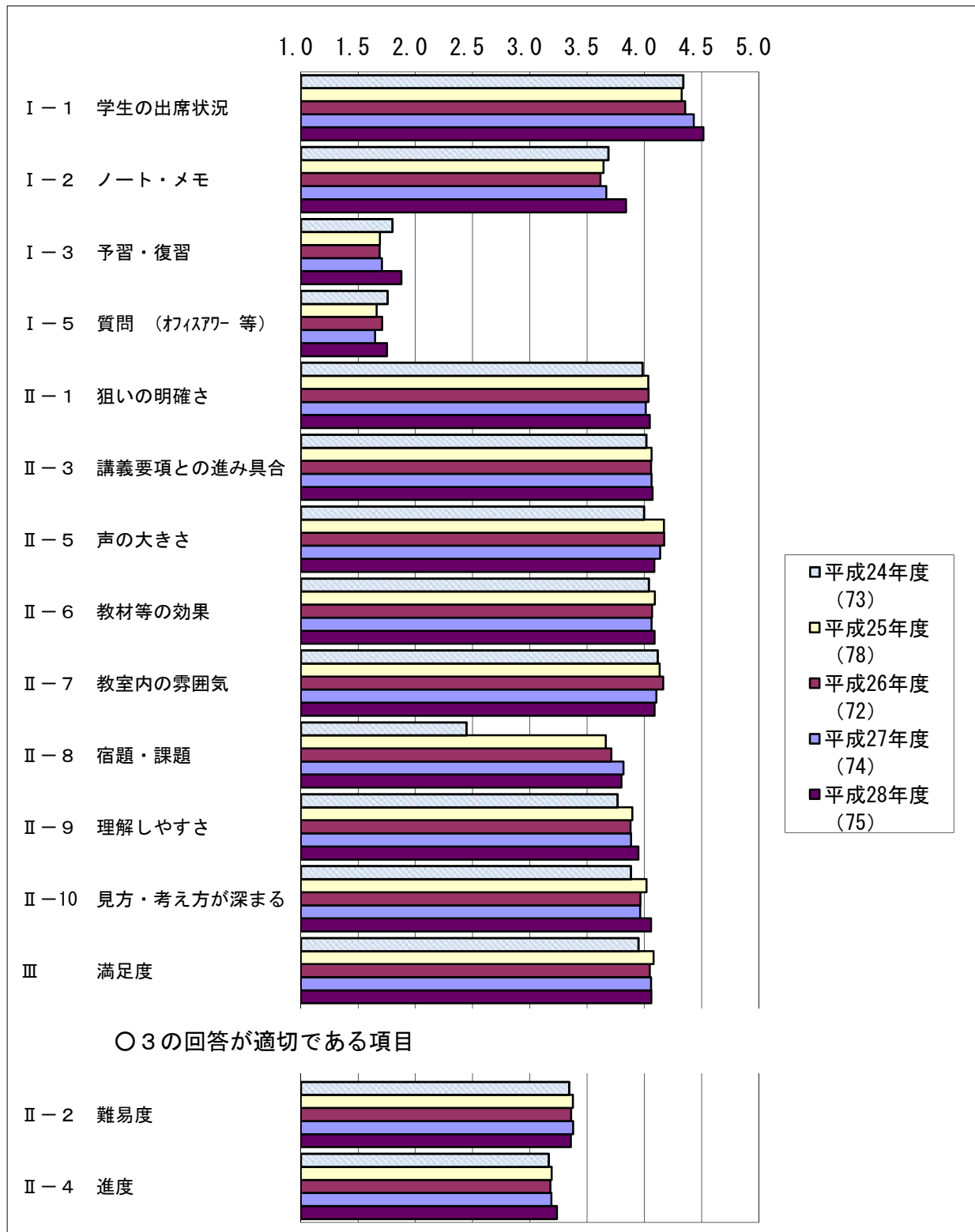
・ 講義等科目



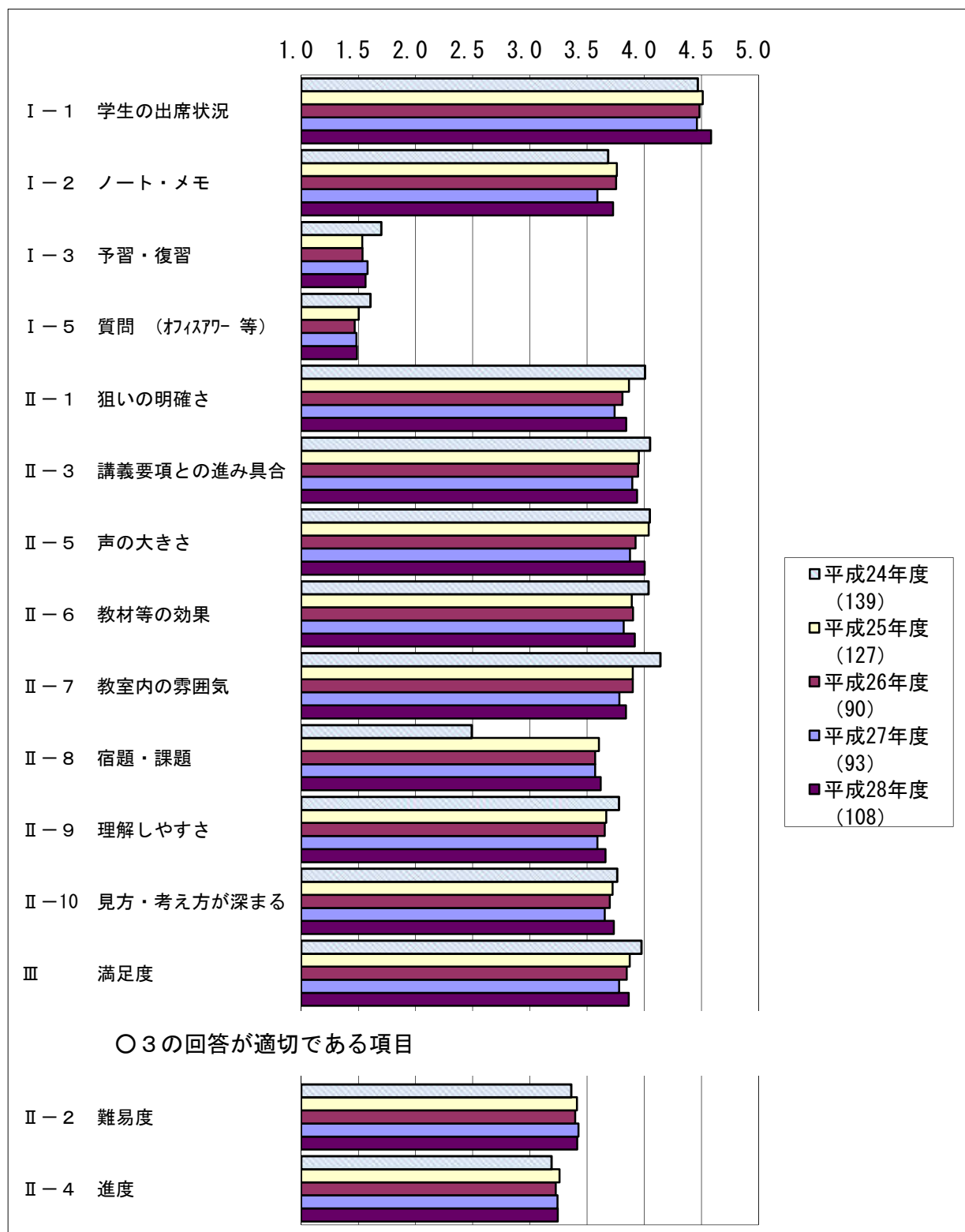
・工学部 実験・実習科目



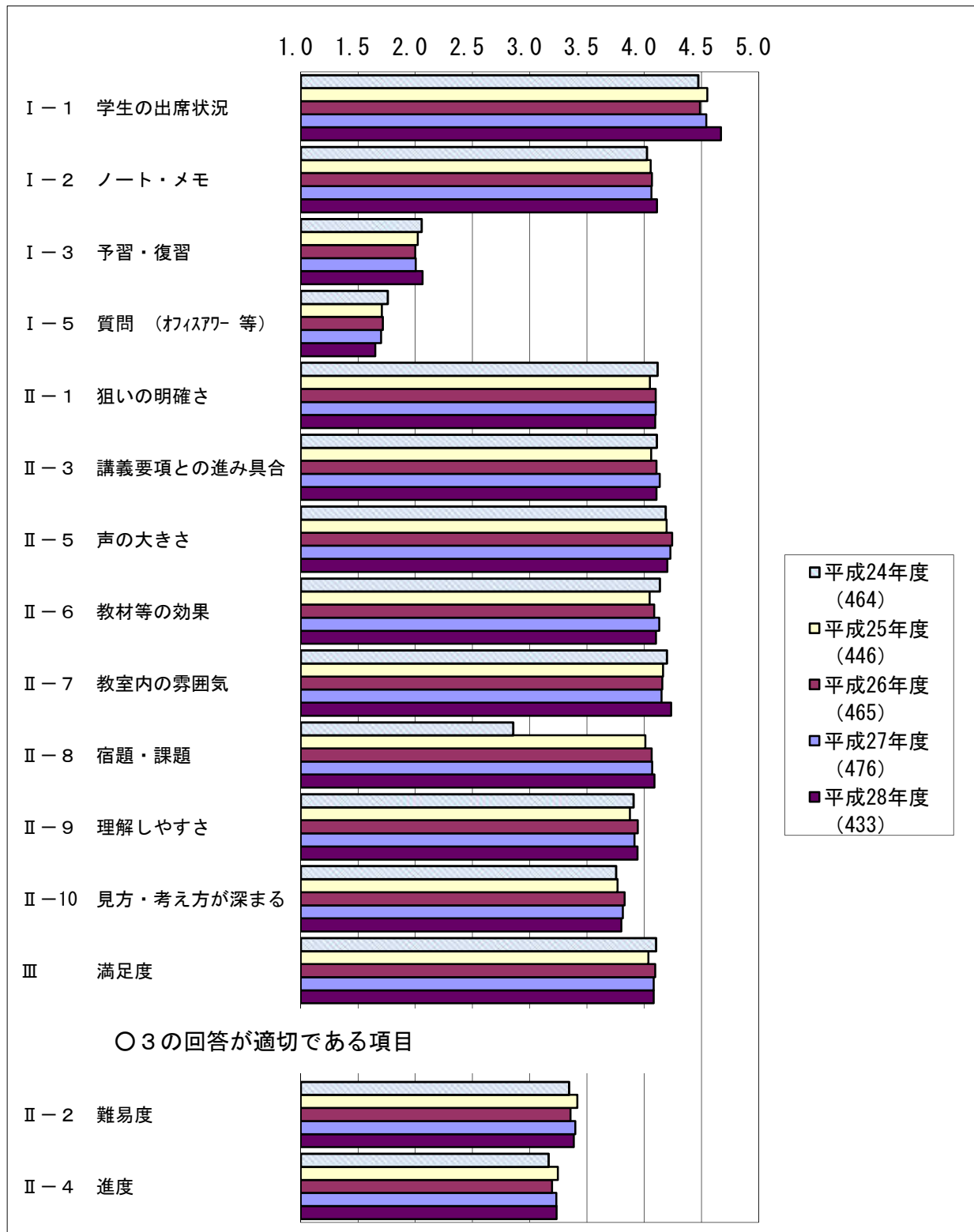
⑤ 国際学部専門科目



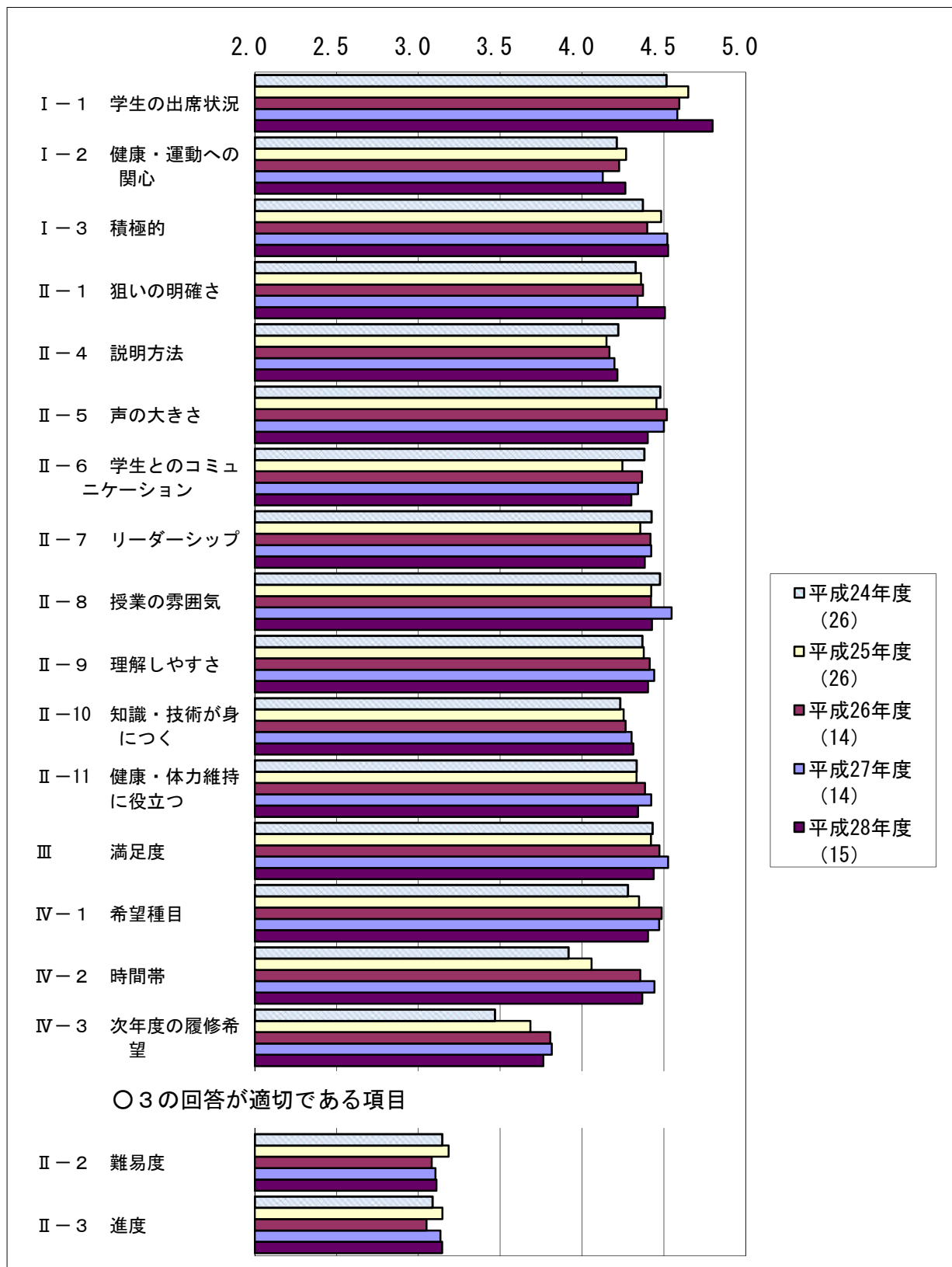
⑥ 教養教育科目



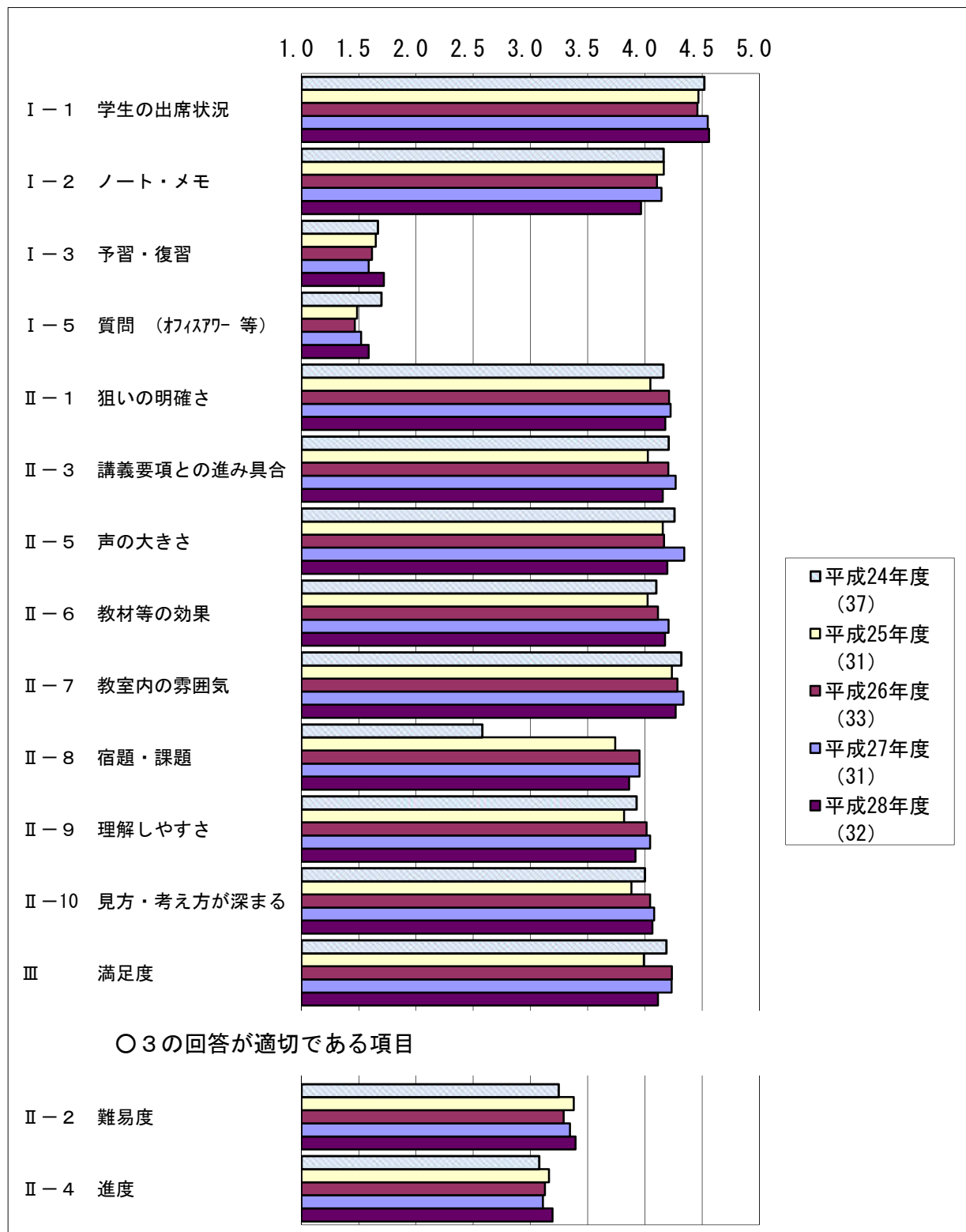
⑦ 外国語科目



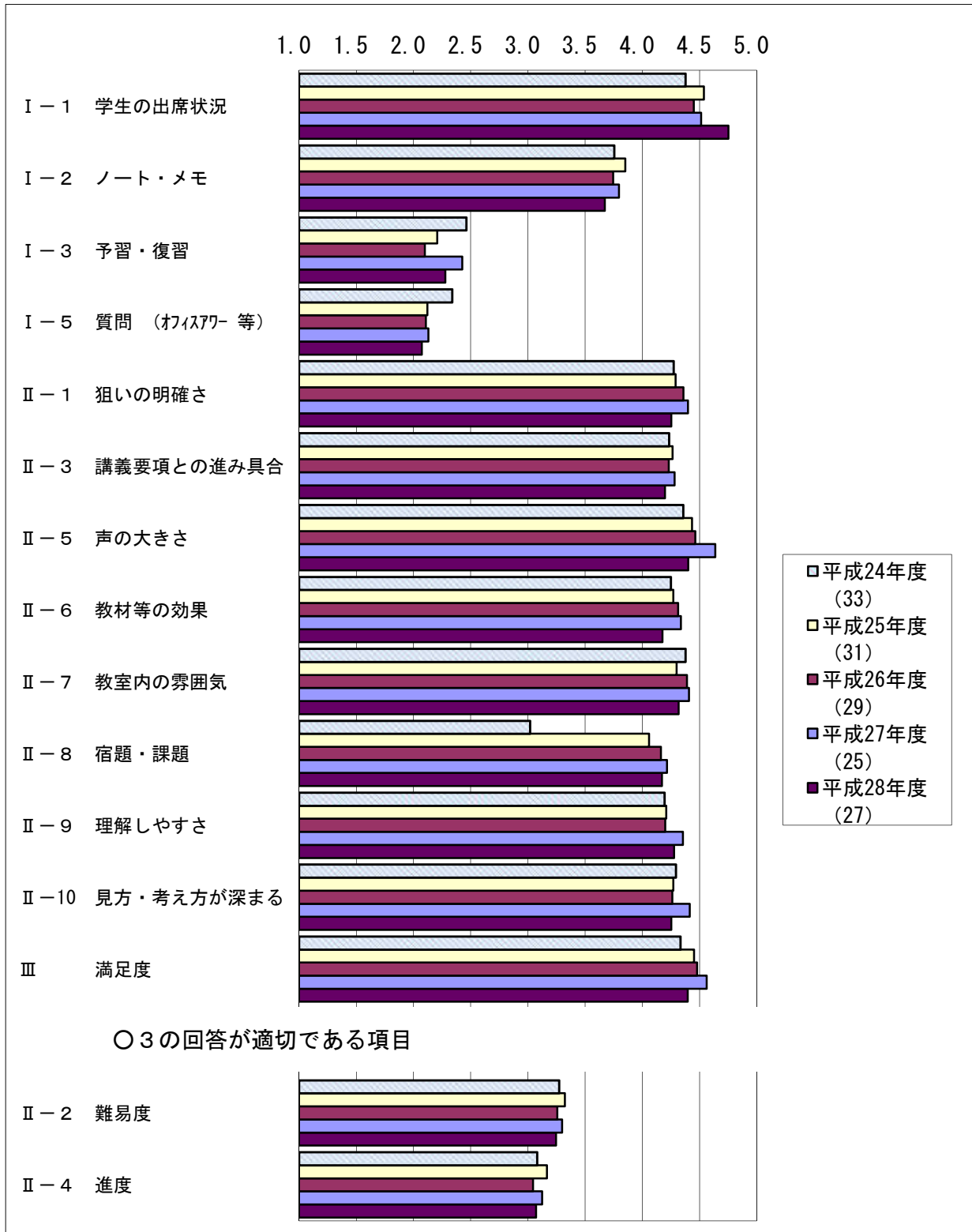
⑧ スポーツ・トレーニング科目



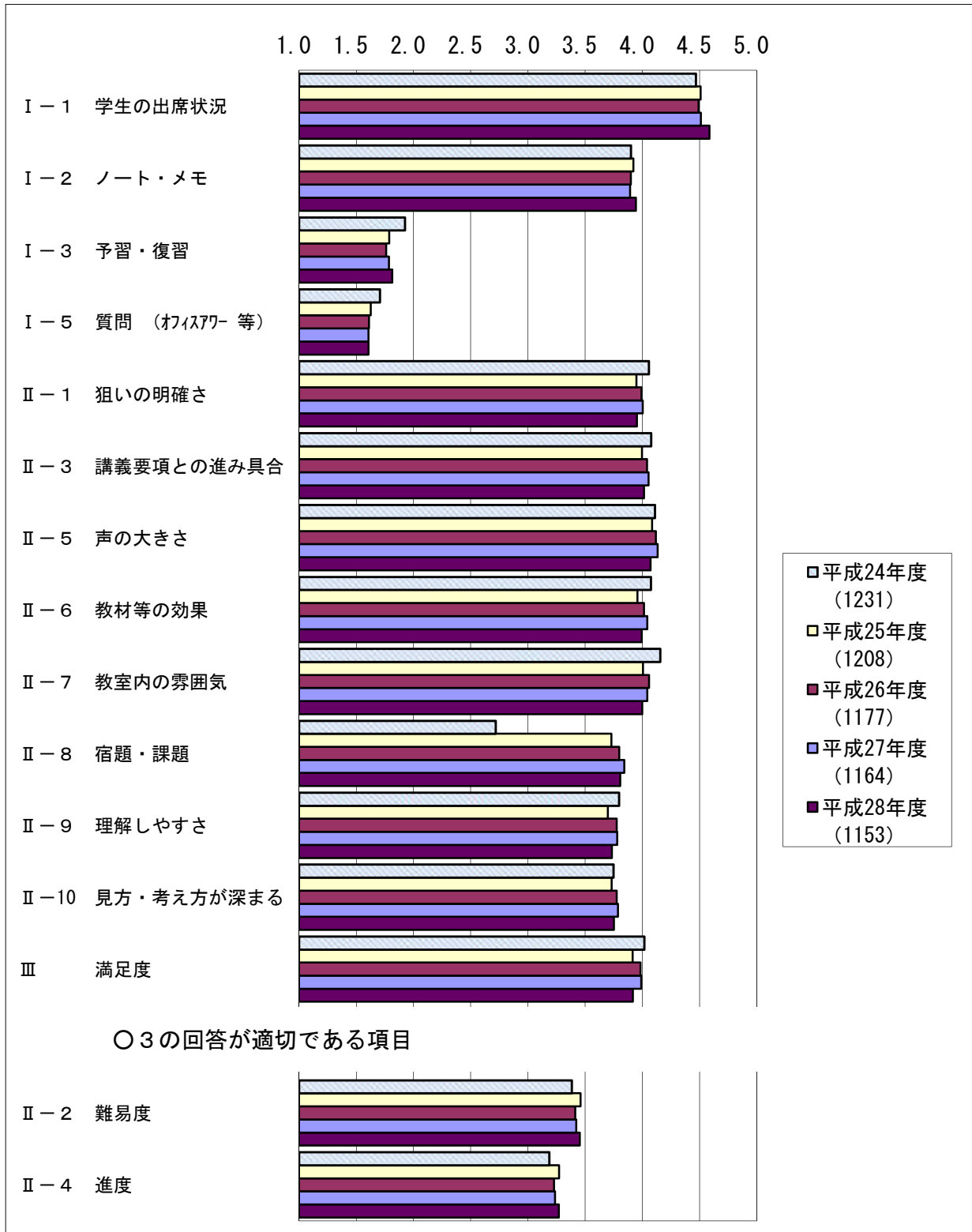
⑨ 教職・社教・日語科目



⑩ ゼミ・外書講読科目



⑪ 全体（講義等科目）



(2) 学生所属別平均値・標準偏差（講義科目）

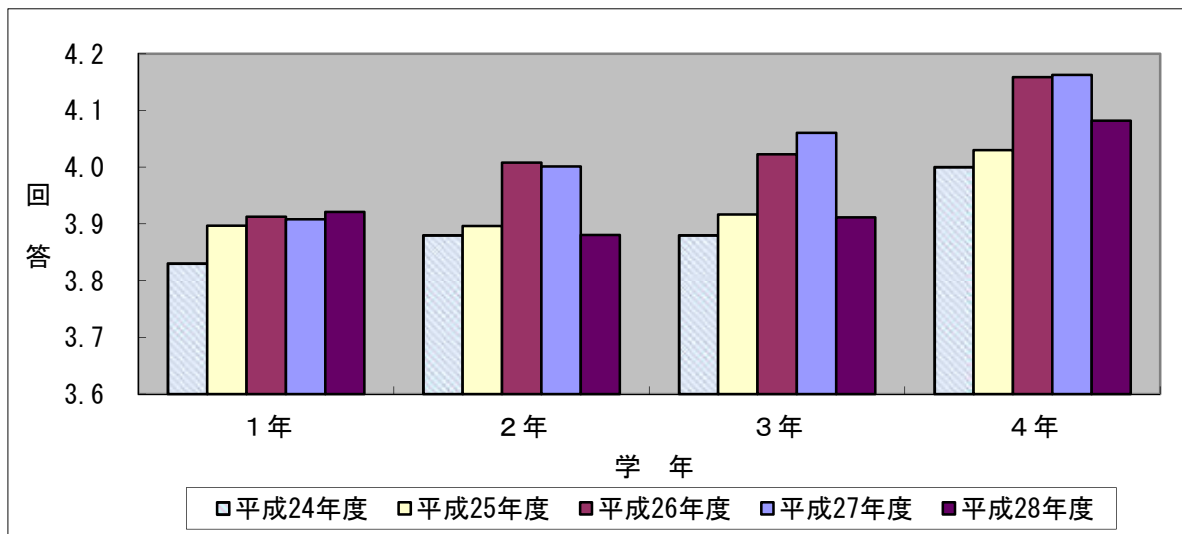
① 学年別

設問項目	区分	1年	2年	3年	4年
		回答件数：(13340)	回答件数：(12298)	回答件数：(8831)	回答件数：(2635)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.74	4.60	4.50	4.07
	標準偏差	0.58	0.69	0.73	0.94
I-2 ノート・メモ	平均値	3.97	3.90	3.97	3.94
	標準偏差	1.17	1.16	1.08	1.08
I-3 予習・復習	平均値	1.80	1.78	1.81	1.75
	標準偏差	1.06	1.07	1.08	1.04
I-5 質問(オフィスアワー等)	平均値	1.53	1.55	1.67	1.60
	標準偏差	1.03	1.05	1.12	1.08
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.96	3.92	3.95	4.08
	標準偏差	1.01	1.03	1.00	0.93
II-3 講義要項との進み具合	平均値	4.04	3.98	4.00	4.12
	標準偏差	0.90	0.92	0.91	0.88
II-5 声の大きさ	平均値	4.07	4.05	4.07	4.21
	標準偏差	1.05	1.05	1.02	0.95
II-6 教材等の効果	平均値	4.01	3.96	4.00	4.14
	標準偏差	1.01	1.04	1.02	0.94
II-7 教室内の雰囲気	平均値	4.03	3.98	3.96	4.07
	標準偏差	0.99	1.02	1.02	0.99
II-8 宿題・課題	平均値	3.83	3.77	3.78	3.90
	標準偏差	1.04	1.06	1.02	0.98
II-9 理解しやすさ	平均値	3.74	3.69	3.73	3.87
	標準偏差	1.05	1.07	1.01	0.98
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.72	3.71	3.78	3.91
	標準偏差	1.05	1.06	1.01	0.98
III 満足度	平均値	3.92	3.88	3.91	4.08
	標準偏差	1.03	1.04	1.01	0.93

○3の回答が適切である項目

II-2 難易度	平均値	3.45	3.46	3.46	3.40
	標準偏差	0.78	0.75	0.74	0.71
II-4 進度	平均値	3.28	3.27	3.26	3.22
	標準偏差	0.67	0.64	0.64	0.60

○学年別満足度（平均値）



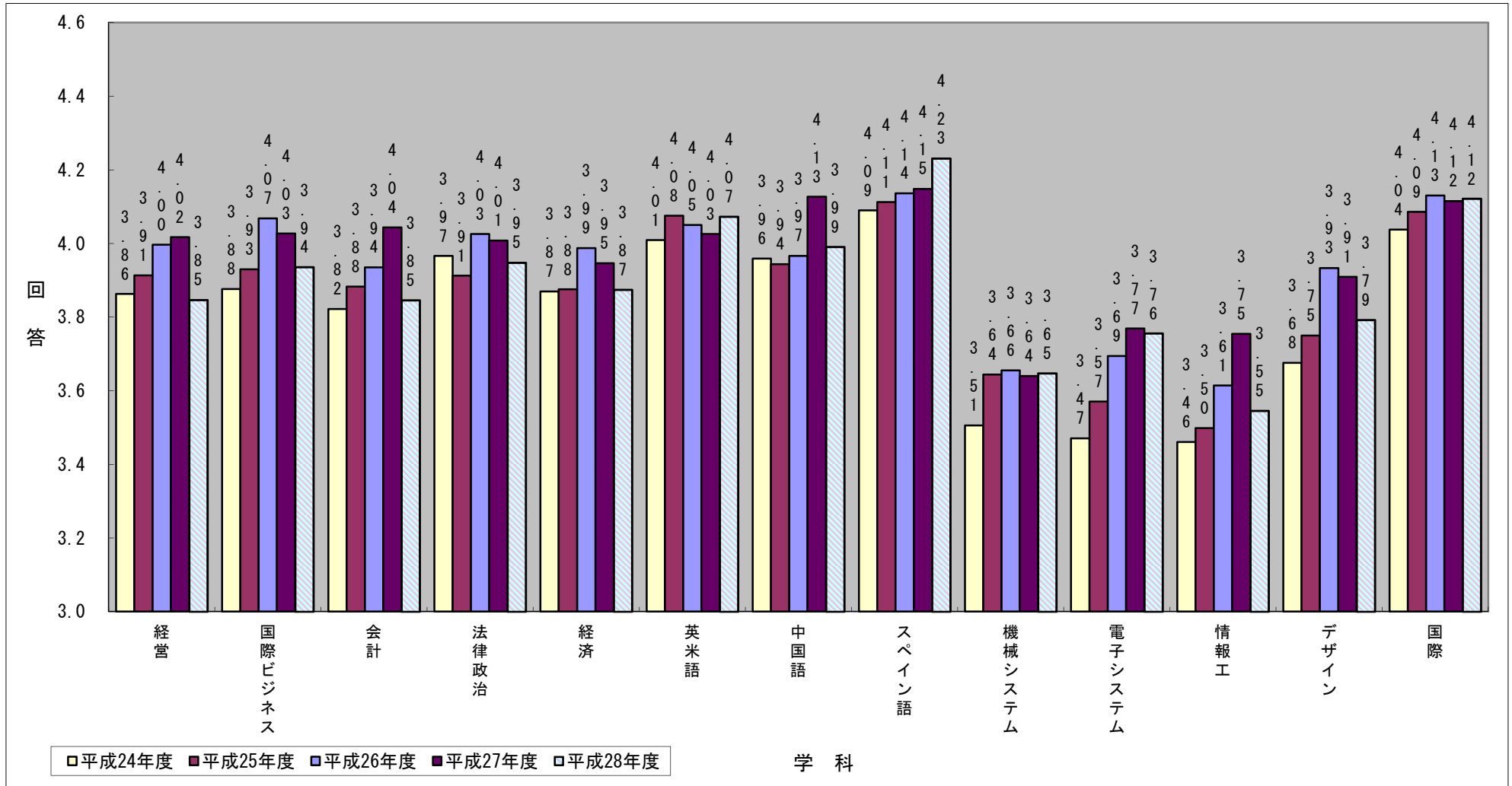
② 学科別

設問項目	区分	経営	国際ビジネス	会計	法律政治	経済	英米語	中国語	スペイン語	機械システム	電子システム	情報工	デザイン	国際
		回答件数 : (7170)	回答件数 : (2287)	回答件数 : (1309)	回答件数 : (3986)	回答件数 : (6880)	回答件数 : (1412)	回答件数 : (648)	回答件数 : (828)	回答件数 : (1489)	回答件数 : (1327)	回答件数 : (1426)	回答件数 : (1043)	回答件数 : (7203)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.61	4.59	4.68	4.56	4.54	4.71	4.54	4.59	4.69	4.74	4.50	4.55	4.57
	標準偏差	0.69	0.71	0.65	0.75	0.75	0.60	0.71	0.66	0.63	0.60	0.77	0.71	0.70
I-2 ノート・メモ	平均値	4.01	3.99	4.17	3.97	3.97	3.95	4.09	4.05	3.86	3.83	3.56	3.71	3.92
	標準偏差	1.12	1.10	0.99	1.16	1.12	1.18	1.06	1.07	1.14	1.17	1.17	1.15	1.18
I-3 予習・復習	平均値	1.69	1.79	1.72	1.73	1.78	1.88	1.84	1.89	1.77	1.69	1.62	1.87	1.95
	標準偏差	1.05	1.05	1.01	1.03	1.07	1.08	1.02	1.03	1.03	0.99	0.93	1.12	1.14
I-5 質問(オフィス等)	平均値	1.55	1.63	1.50	1.45	1.56	1.36	1.58	1.59	1.74	1.58	1.51	1.63	1.69
	標準偏差	1.05	1.06	1.00	0.97	1.06	0.85	1.02	1.08	1.09	1.01	0.95	1.09	1.18
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.89	3.98	3.94	3.97	3.94	4.08	4.00	4.21	3.77	3.87	3.64	3.79	4.09
	標準偏差	1.02	1.00	0.98	1.01	1.01	1.02	1.08	0.86	0.96	1.04	1.01	1.03	0.99
II-3 講義要項との進み具合	平均値	3.96	4.03	4.02	4.03	4.00	4.14	4.13	4.26	3.82	3.95	3.85	3.92	4.11
	標準偏差	0.91	0.91	0.87	0.89	0.91	0.91	0.94	0.83	0.88	0.94	0.87	0.91	0.91
II-5 声の大きさ	平均値	4.04	4.09	4.12	4.11	4.01	4.23	4.13	4.31	3.95	4.01	3.83	3.85	4.19
	標準偏差	1.03	1.05	1.01	1.03	1.06	1.01	1.10	0.89	1.01	1.07	1.07	1.09	1.00
II-6 教材等の効果	平均値	3.96	4.03	3.93	4.02	3.95	4.15	4.00	4.19	3.78	3.93	3.74	3.93	4.13
	標準偏差	1.03	1.02	1.01	1.00	1.02	1.00	1.06	0.92	1.00	1.07	1.02	1.03	0.99
II-7 教室内の雰囲気	平均値	3.95	4.02	4.03	4.03	3.94	4.11	4.07	4.25	3.60	3.84	3.75	3.81	4.21
	標準偏差	1.01	0.99	0.95	1.01	1.05	0.99	1.03	0.90	1.01	1.05	0.97	1.02	0.93
II-8 宿題・課題	平均値	3.77	3.83	3.75	3.72	3.77	3.93	3.95	4.04	3.56	3.78	3.66	3.65	3.96
	標準偏差	1.03	1.05	1.01	1.05	1.02	1.08	1.03	1.00	0.95	1.02	0.96	1.05	1.06
II-9 理解しやすさ	平均値	3.63	3.76	3.61	3.71	3.66	3.97	3.83	4.08	3.49	3.52	3.34	3.63	4.00
	標準偏差	1.04	1.03	1.03	1.01	1.04	1.00	1.07	0.90	1.02	1.11	1.06	1.01	1.00
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.67	3.81	3.64	3.78	3.68	3.86	3.77	3.95	3.44	3.57	3.36	3.63	4.00
	標準偏差	1.04	1.02	1.01	1.02	1.04	1.02	1.03	0.97	1.00	1.08	1.04	1.06	1.01
III 満足度	平均値	3.85	3.94	3.85	3.95	3.87	4.07	3.99	4.23	3.65	3.76	3.55	3.79	4.12
	標準偏差	1.02	1.01	0.97	1.01	1.03	1.02	1.07	0.86	1.00	1.08	1.03	0.99	0.99

○3の回答が適切である項目

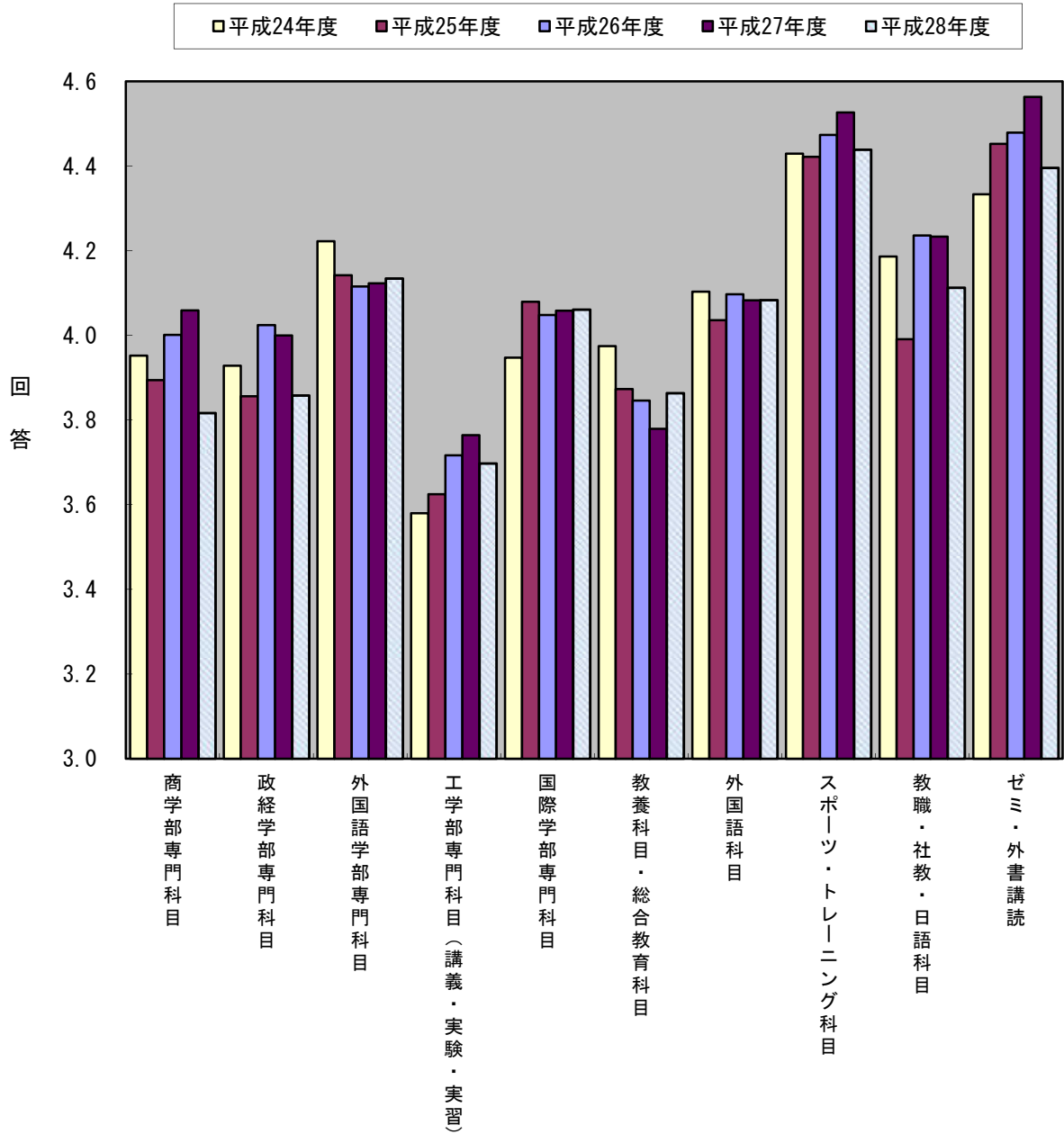
II-2 難易度	平均値	3.48	3.46	3.55	3.45	3.52	3.34	3.50	3.34	3.40	3.52	3.50	3.39	3.35
	標準偏差	0.76	0.75	0.79	0.72	0.77	0.68	0.71	0.68	0.74	0.81	0.82	0.75	0.73
II-4 進度	平均値	3.29	3.26	3.31	3.23	3.31	3.16	3.27	3.19	3.26	3.29	3.32	3.31	3.22
	標準偏差	0.66	0.61	0.66	0.62	0.69	0.58	0.60	0.57	0.64	0.69	0.68	0.65	0.63

○学科別満足度（平均値）



(3) 満足度 平均値

① 学科目別

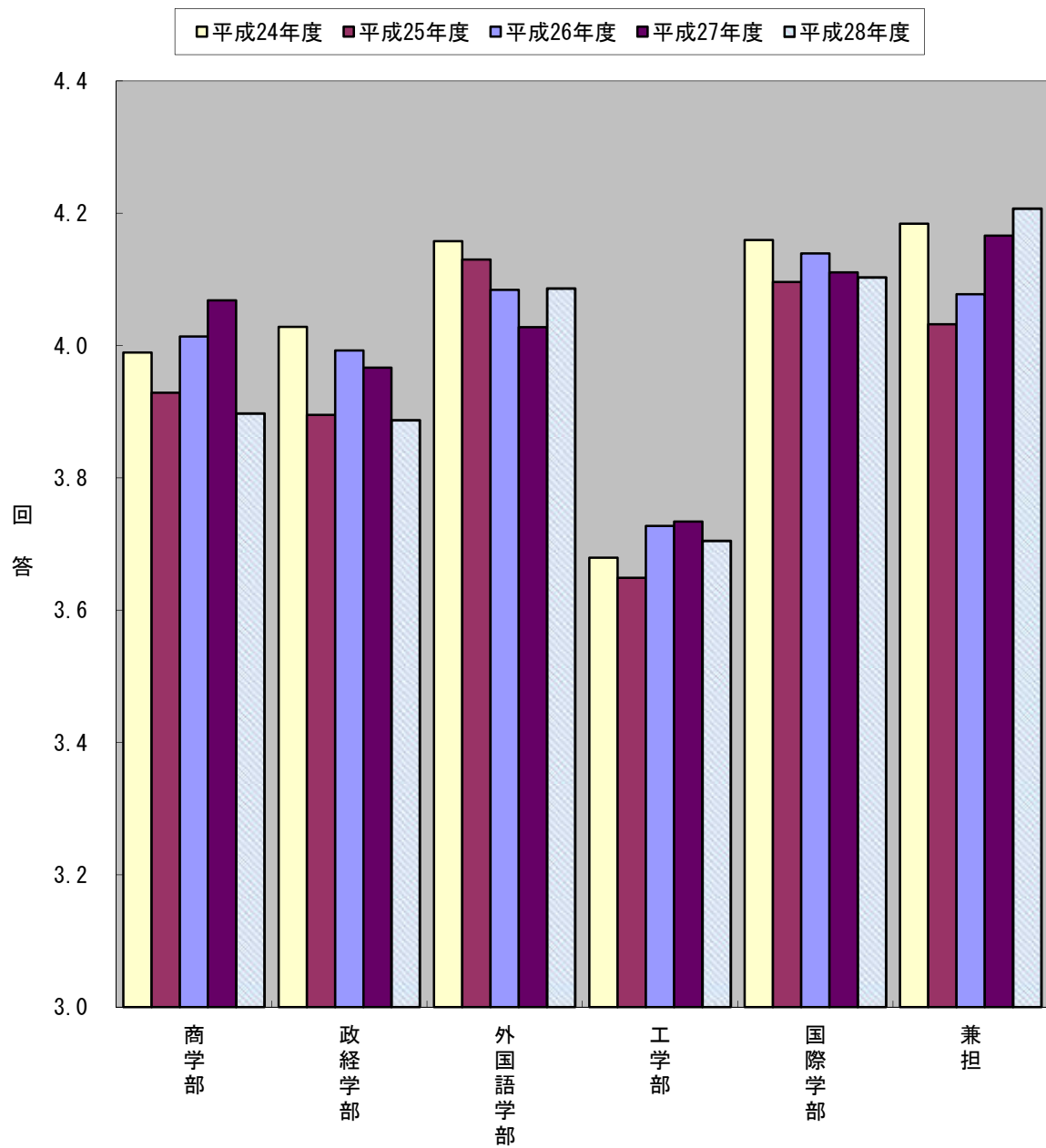


○科目数

平成24年度	136	132	113	127	73	139	464	26	37	33
平成25年度	144	129	120	132	78	127	446	26	31	31
平成26年度	144	130	111	130	72	90	465	14	33	29
平成27年度	138	136	100	120	74	93	476	14	31	25
平成28年度	143	131	108	126	75	108	433	15	32	27

学科目

② 所属別



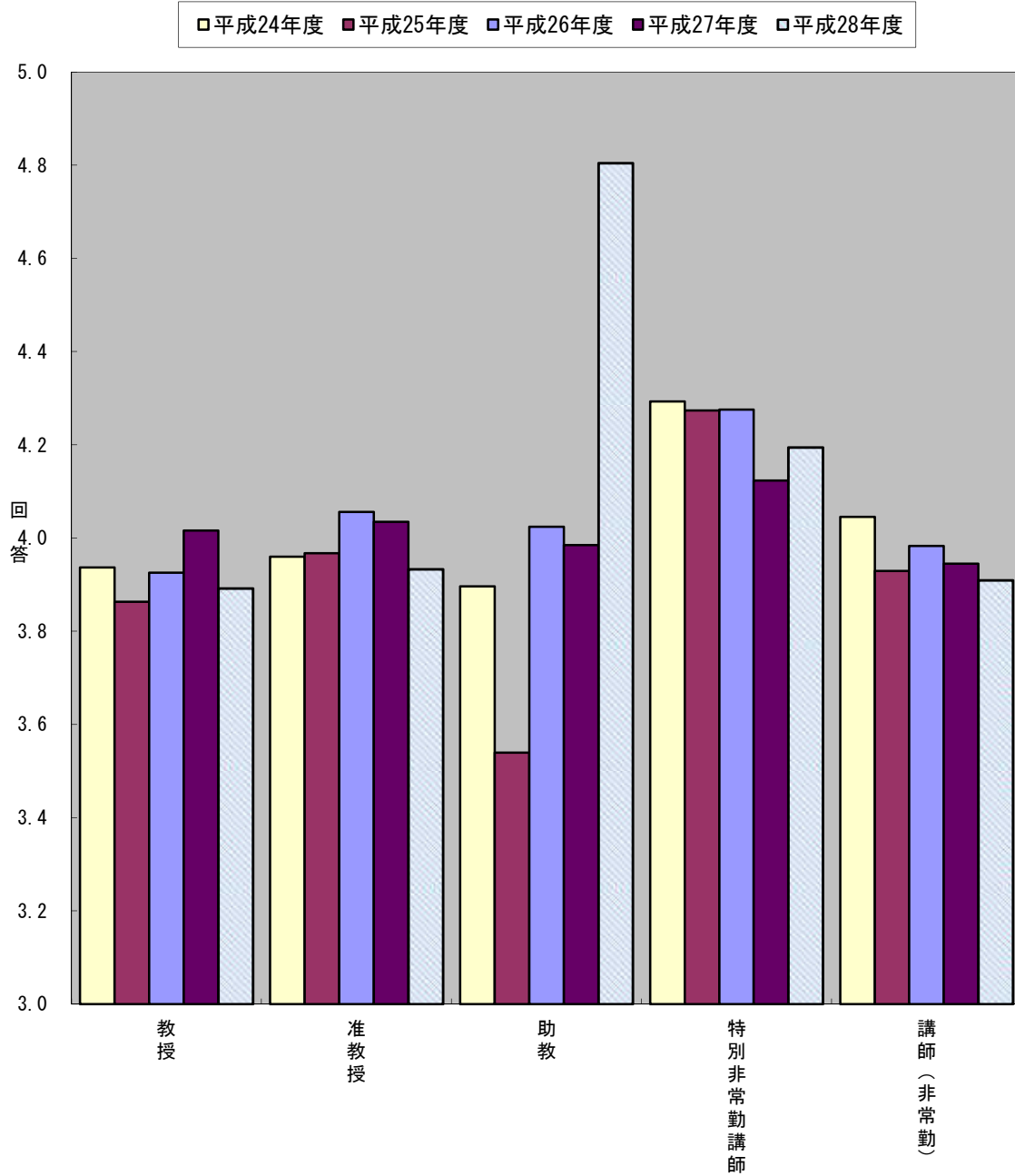
○人数

平成24年度	164	170	81	109	85	23
平成25年度	172	169	85	109	85	26
平成26年度	164	159	82	106	84	21
平成27年度	169	162	80	104	84	18
平成28年度	171	167	80	103	81	16

※講師（非常勤）を含む

学部

③ 身分別

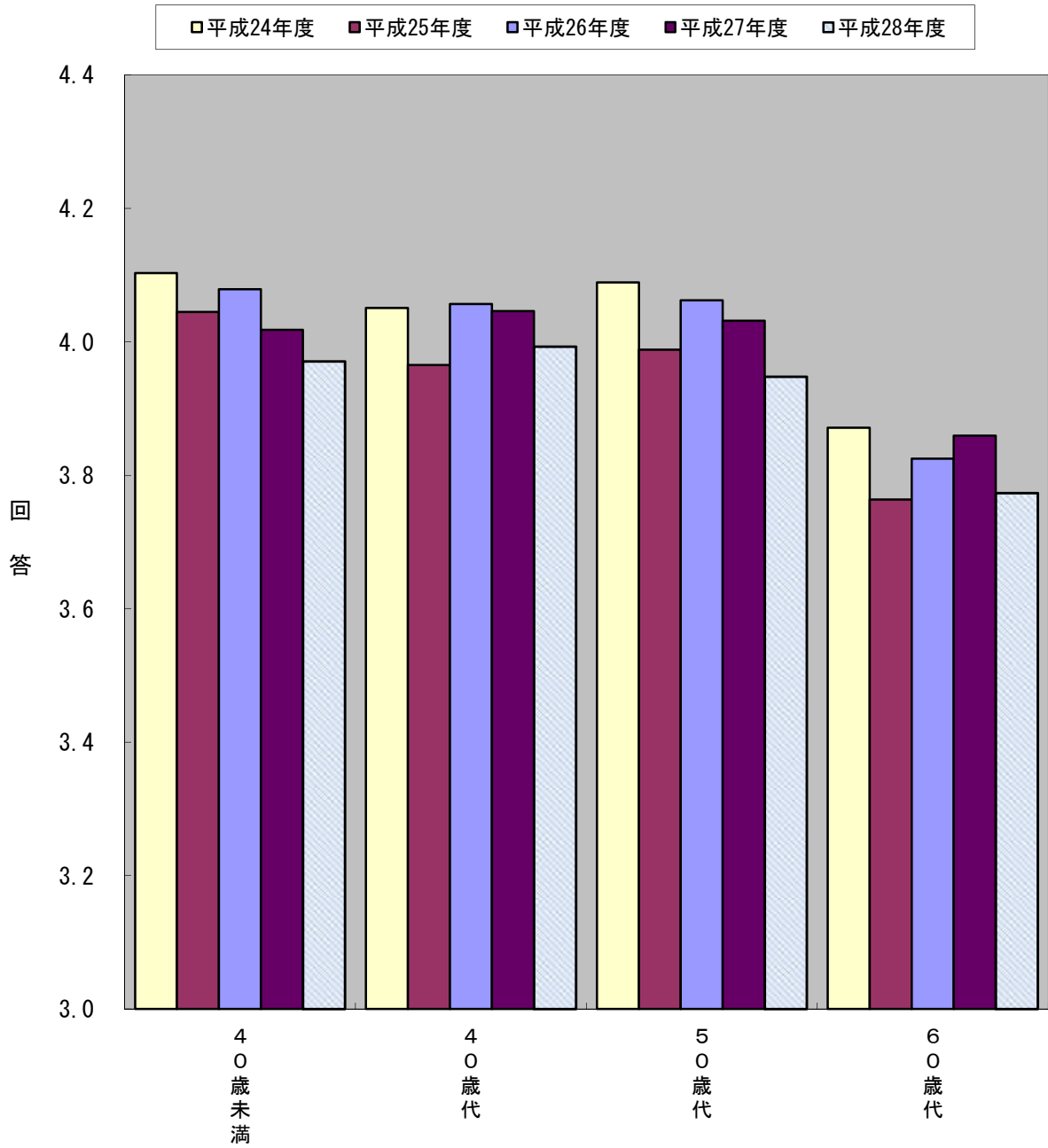


○人数

平成24年度	153	68	4	20	387
平成25年度	157	66	3	21	399
平成26年度	149	64	2	21	380
平成27年度	142	67	2	22	384
平成28年度	145	65	1	22	385

身分

④ 年齢別



○人数

平成24年度	76	168	201	187
平成25年度	74	180	191	201
平成26年度	73	160	178	205
平成27年度	86	166	184	182
平成28年度	80	155	203	180

年齢

5. 学科目別 回答の分析

(1) 商学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.42%	0.58%	8.39%	21.94%	68.67%
I-2	4.07%	4.54%	17.42%	30.18%	43.80%
I-3	61.26%	19.72%	12.10%	3.91%	3.01%
I-4	13.68%	2.42%	44.86%	11.10%	27.95%
I-5	72.42%	9.39%	10.45%	4.33%	3.41%
II-1	3.06%	5.04%	24.49%	34.56%	32.85%
II-2	0.83%	2.40%	52.01%	33.86%	10.89%
II-3	1.25%	2.07%	28.87%	34.02%	33.79%
II-4	0.75%	2.39%	68.97%	21.33%	6.57%
II-5	2.74%	5.46%	20.28%	28.99%	42.53%
II-6	3.00%	4.91%	24.36%	30.42%	37.32%
II-7	2.26%	6.20%	24.24%	31.74%	35.56%
II-8	3.34%	4.71%	36.48%	26.62%	28.84%
II-9	3.76%	8.30%	33.15%	32.92%	21.86%
II-10	4.01%	6.35%	32.15%	33.62%	23.87%
III	3.15%	5.74%	27.17%	34.23%	29.72%

(2) 政経学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.75%	1.14%	10.30%	22.87%	64.94%
I-2	5.18%	4.96%	19.43%	28.98%	41.46%
I-3	56.91%	22.00%	13.22%	3.56%	4.31%
I-4	16.68%	2.83%	38.34%	12.14%	30.00%
I-5	74.20%	7.50%	10.62%	3.90%	3.78%
II-1	3.16%	4.65%	24.66%	32.58%	34.96%
II-2	0.73%	2.43%	50.52%	34.71%	11.61%
II-3	1.25%	2.05%	28.52%	32.52%	35.66%
II-4	0.97%	2.82%	68.20%	20.34%	7.68%
II-5	3.03%	5.13%	21.55%	27.61%	42.68%
II-6	2.69%	4.25%	25.08%	29.18%	38.80%
II-7	2.60%	5.49%	24.33%	28.47%	39.11%
II-8	3.44%	4.88%	38.53%	24.30%	28.84%
II-9	4.03%	7.58%	33.05%	31.99%	23.35%
II-10	4.04%	5.73%	32.29%	31.59%	26.36%
III	3.33%	4.63%	27.50%	31.99%	32.55%

(3) 外国語学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.10%	0.63%	7.79%	21.17%	70.31%
I-2	4.19%	4.40%	18.92%	28.14%	44.34%
I-3	37.50%	28.89%	23.90%	6.83%	2.89%
I-4	7.81%	1.39%	57.18%	8.72%	24.90%
I-5	71.77%	10.90%	9.85%	4.45%	3.04%
II-1	2.30%	4.86%	15.77%	32.74%	44.33%
II-2	0.84%	3.39%	58.77%	31.11%	5.90%
II-3	1.05%	1.89%	21.25%	29.91%	45.91%
II-4	0.84%	3.29%	76.38%	15.67%	3.81%
II-5	2.18%	3.46%	13.83%	26.05%	54.49%
II-6	2.19%	3.55%	19.07%	28.89%	46.29%
II-7	1.57%	3.57%	16.41%	28.84%	49.61%
II-8	2.73%	3.20%	23.13%	28.42%	42.53%
II-9	2.04%	4.40%	20.67%	35.58%	37.31%
II-10	2.61%	5.07%	27.80%	31.92%	32.60%
III	2.15%	3.87%	17.79%	30.77%	45.42%

(10) 教職・社教・日語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.23%	0.11%	7.92%	26.87%	64.87%
I-2	3.34%	5.07%	22.72%	29.30%	39.56%
I-3	56.90%	24.94%	10.92%	3.91%	3.33%
I-4	4.22%	1.08%	68.76%	10.16%	15.78%
I-5	69.85%	11.62%	11.74%	3.57%	3.22%
II-1	1.15%	3.21%	18.58%	30.85%	46.22%
II-2	0.80%	1.95%	61.31%	28.93%	7.00%
II-3	0.46%	1.39%	23.96%	30.44%	43.75%
II-4	0.57%	4.13%	76.15%	13.88%	5.28%
II-5	2.56%	4.52%	15.38%	26.01%	51.53%
II-6	1.72%	2.87%	20.32%	26.29%	48.79%
II-7	0.69%	2.18%	18.51%	26.90%	51.72%
II-8	2.41%	3.22%	34.94%	24.60%	34.83%
II-9	1.26%	5.40%	26.06%	35.02%	32.26%
II-10	1.38%	2.30%	24.00%	33.07%	39.27%
III	1.38%	3.68%	20.02%	32.11%	42.81%

(11) ゼミ・外書講読

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.28%	0.28%	2.81%	17.13%	79.49%
I-2	9.04%	6.78%	27.40%	21.47%	35.31%
I-3	36.90%	23.66%	22.54%	8.45%	8.45%
I-4	3.62%	1.55%	27.39%	27.91%	39.53%
I-5	50.99%	16.62%	15.77%	7.32%	9.30%
II-1	1.41%	1.13%	19.72%	26.20%	51.55%
II-2	2.25%	2.54%	66.48%	25.92%	2.82%
II-3	0.57%	0.85%	24.08%	27.20%	47.31%
II-4	1.41%	2.82%	86.20%	6.48%	3.10%
II-5	0.58%	1.16%	14.53%	25.00%	58.72%
II-6	1.13%	0.56%	25.63%	25.07%	47.61%
II-7	1.14%	1.99%	15.95%	25.93%	54.99%
II-8	1.41%	1.13%	23.10%	27.61%	46.76%
II-9	0.28%	0.85%	19.21%	30.23%	49.44%
II-10	1.13%	0.85%	18.59%	30.42%	49.01%
III	1.69%	0.56%	13.28%	25.42%	59.04%

(12) 全体（講義科目）

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.45%	0.72%	8.33%	20.81%	69.69%
I-2	5.43%	5.29%	19.69%	28.76%	40.82%
I-3	54.02%	22.59%	15.09%	4.51%	3.78%
I-4	12.90%	3.19%	45.81%	10.24%	27.87%
I-5	70.99%	9.46%	11.27%	4.42%	3.87%
II-1	2.80%	4.63%	23.44%	32.77%	36.35%
II-2	1.11%	3.20%	54.85%	31.04%	9.80%
II-3	1.19%	1.95%	28.16%	31.73%	36.96%
II-4	0.81%	2.88%	71.09%	18.95%	6.26%
II-5	2.77%	4.91%	19.52%	27.99%	44.81%
II-6	2.62%	4.17%	23.95%	29.61%	39.65%
II-7	2.20%	4.88%	23.18%	30.32%	39.42%
II-8	3.21%	4.21%	33.65%	26.57%	32.37%
II-9	3.48%	7.11%	29.24%	32.82%	27.34%
II-10	3.64%	5.68%	30.92%	31.47%	28.29%
III	2.96%	4.75%	25.06%	32.13%	35.10%

(4) 工学部専門科目 (講義科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.17%	0.69%	7.83%	19.25%	72.07%
I-2	5.61%	6.74%	25.54%	29.98%	32.13%
I-3	53.75%	24.38%	14.89%	4.08%	2.91%
I-4	12.29%	3.24%	60.30%	7.01%	17.15%
I-5	64.17%	13.30%	14.68%	5.01%	2.84%
II-1	2.81%	5.28%	29.94%	35.70%	26.27%
II-2	1.12%	3.91%	50.20%	33.56%	11.22%
II-3	1.08%	2.23%	33.82%	33.65%	29.22%
II-4	0.69%	3.29%	65.51%	23.12%	7.39%
II-5	2.48%	5.66%	24.42%	31.95%	35.48%
II-6	2.72%	5.80%	28.20%	31.70%	31.58%
II-7	2.86%	6.70%	32.26%	33.29%	24.89%
II-8	2.44%	4.51%	37.80%	31.59%	23.66%
II-9	5.24%	10.54%	35.45%	31.59%	17.19%
II-10	4.94%	8.36%	38.80%	29.99%	17.91%
III	3.99%	6.67%	32.69%	33.79%	22.86%

(5) 工学部専門科目 (実験・実習科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.06%	0.24%	6.03%	11.76%	81.91%
I-2	11.53%	8.12%	28.61%	28.08%	23.66%
I-3	6.93%	5.72%	22.71%	25.90%	38.73%
I-4	1.76%	2.30%	32.36%	34.36%	29.21%
II-1	7.94%	5.13%	21.55%	34.81%	30.57%
II-2	1.43%	3.46%	41.89%	39.98%	13.25%
II-3	0.95%	2.98%	58.17%	28.64%	9.25%
II-4	3.70%	6.87%	30.88%	35.13%	23.42%
II-5	2.64%	4.26%	30.47%	32.87%	29.75%
II-6	2.22%	3.96%	29.68%	34.53%	29.62%
II-7	2.33%	3.47%	30.98%	33.97%	29.25%
II-8	1.68%	5.16%	31.19%	34.07%	27.89%
II-9	3.11%	5.38%	30.68%	36.66%	24.16%
II-10	2.69%	5.02%	29.69%	38.47%	24.13%
II-11	2.93%	4.72%	32.10%	36.22%	24.03%
III	3.05%	5.02%	27.87%	35.11%	28.95%

(6) 国際学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.70%	0.75%	9.60%	24.18%	64.77%
I-2	7.08%	5.86%	21.96%	26.24%	38.86%
I-3	55.54%	18.79%	13.97%	5.63%	6.07%
I-4	8.92%	2.77%	35.81%	15.26%	37.25%
I-5	67.56%	7.87%	13.04%	4.85%	6.68%
II-1	2.88%	4.54%	21.05%	28.10%	43.43%
II-2	0.97%	2.60%	65.06%	22.38%	8.99%
II-3	1.41%	1.89%	27.04%	27.42%	42.24%
II-4	0.59%	1.88%	77.55%	13.31%	6.67%
II-5	2.90%	5.36%	19.36%	24.92%	47.46%
II-6	3.04%	3.73%	21.41%	25.01%	46.82%
II-7	2.48%	4.07%	21.21%	26.61%	45.63%
II-8	5.08%	4.25%	33.37%	20.17%	37.13%
II-9	3.07%	5.19%	23.83%	29.67%	38.25%
II-10	2.61%	3.58%	22.00%	29.10%	42.71%
III	3.10%	3.99%	20.82%	27.93%	44.17%

(7) 教養科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.70%	0.70%	8.15%	20.47%	69.98%
I-2	9.30%	7.21%	21.47%	25.55%	36.48%
I-3	69.80%	13.82%	10.05%	3.00%	3.34%
I-4	20.62%	6.24%	36.39%	6.53%	30.23%
I-5	77.46%	6.80%	8.75%	3.65%	3.36%
II-1	4.05%	5.89%	25.64%	30.66%	33.75%
II-2	1.71%	2.94%	57.46%	28.19%	9.70%
II-3	1.67%	2.52%	30.77%	30.48%	34.56%
II-4	0.96%	2.72%	73.08%	17.44%	5.81%
II-5	4.17%	5.33%	20.17%	26.66%	43.66%
II-6	3.68%	4.39%	25.66%	29.03%	37.25%
II-7	3.17%	6.42%	26.94%	30.18%	33.29%
II-8	5.00%	5.14%	39.42%	23.77%	26.67%
II-9	4.45%	8.00%	30.22%	31.81%	25.53%
II-10	4.29%	5.74%	30.02%	32.16%	27.78%
III	3.47%	5.12%	25.97%	32.47%	32.97%

(8) 外国語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.17%	0.59%	6.74%	17.18%	75.32%
I-2	3.59%	4.04%	15.89%	30.56%	45.93%
I-3	37.92%	30.93%	21.57%	5.93%	3.65%
I-4	3.01%	2.49%	60.25%	8.79%	25.47%
I-5	68.46%	10.90%	11.75%	4.91%	3.98%
II-1	1.65%	3.27%	20.04%	33.90%	41.15%
II-2	1.38%	4.90%	55.73%	29.84%	8.15%
II-3	0.81%	1.34%	25.26%	31.56%	41.03%
II-4	0.77%	3.58%	72.05%	18.57%	5.03%
II-5	1.94%	3.95%	15.92%	28.40%	49.80%
II-6	1.47%	3.04%	21.71%	31.36%	42.42%
II-7	1.00%	2.22%	17.05%	31.80%	47.93%
II-8	1.41%	2.73%	23.44%	30.42%	42.00%
II-9	2.00%	5.14%	23.51%	35.50%	33.85%
II-10	2.81%	5.35%	31.10%	30.45%	30.27%
III	1.89%	3.55%	20.84%	31.75%	41.96%

(9) スポーツ・トレーニング科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.00%	0.40%	5.98%	7.17%	86.45%
I-2	0.00%	2.77%	15.81%	33.60%	47.83%
I-3	0.40%	1.19%	6.32%	29.64%	62.45%
I-4	7.24%	5.88%	47.96%	9.05%	29.86%
II-1	0.00%	0.00%	7.51%	34.39%	58.10%
II-2	4.74%	3.16%	72.73%	15.02%	4.35%
II-3	0.39%	2.36%	83.86%	9.06%	4.33%
II-4	0.79%	0.79%	22.44%	27.95%	48.03%
II-5	0.00%	0.79%	13.49%	30.56%	55.16%
II-6	0.00%	1.98%	16.60%	30.83%	50.59%
II-7	0.00%	0.40%	12.75%	35.06%	51.79%
II-8	0.00%	0.79%	11.86%	31.23%	56.13%
II-9	0.40%	0.40%	13.04%	30.83%	55.34%
II-10	0.40%	0.00%	15.08%	36.90%	47.62%
II-11	0.40%	0.00%	13.49%	37.30%	48.81%
III	0.00%	1.20%	10.36%	31.87%	56.57%

6. 学部設問項目 平均値・標準偏差

(1) 商学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	あなたはこの授業へのあなた自身の取り組みを振り返って満足していますか	専任教員	103	3.71	0.98
		講師(非常勤)	199	3.76	1.01

(2) 外国語学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか	専任教員	78	4.38	0.87
		講師(非常勤)	72	4.22	0.94
IV-2	このクラスの学生数は適切ですか	専任教員	78	4.41	0.83
		講師(非常勤)	72	4.22	0.93

(3) 工学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	宿題や課題にどれくらい取り組んでいますか	専任教員	74	3.65	1.08
		講師(非常勤)	58	3.53	1.17
IV-2	この授業の内容について、どれくらい質問していますか	専任教員	74	2.39	1.25
		講師(非常勤)	58	2.27	1.23
IV-3	この授業で設定している到達目標について、知識や技術が身につきましたか	専任教員	74	3.35	0.98
		講師(非常勤)	58	3.29	1.04

(4) 国際学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	授業の開始時間、終了時間は守られている	専任教員	113	4.54	0.78
		講師(非常勤)	152	4.58	0.75
IV-2	出欠はきちんととられている	専任教員	113	4.45	0.97
		講師(非常勤)	152	4.60	0.74
IV-3	授業中、学生同士の私語はない	専任教員	113	4.06	1.08
		講師(非常勤)	152	3.92	1.09
IV-4	この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか	専任教員	113	4.28	1.00
		講師(非常勤)	152	4.33	0.95

IV コース・分野・学科別集計

1. 商学部専門科目（コース別）

区 分 項 目	学 科 コ ー ス 科 目 数	経 営			国際ビジネス	会 計	全 体
		経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス		
		28	18	17	27	39	129
I-1	平均値	4.58	4.49	4.60	4.56	4.63	4.58
	標準偏差	0.71	0.72	0.69	0.73	0.65	0.70
I-2	平均値	4.14	3.73	4.12	4.06	3.99	4.06
	標準偏差	1.06	1.17	1.03	1.02	1.11	1.07
I-3	平均値	1.64	1.73	1.62	1.76	1.81	1.69
	標準偏差	1.03	1.10	1.03	1.05	1.02	1.04
I-5	平均値	1.58	1.70	1.52	1.60	1.58	1.58
	標準偏差	1.08	1.19	1.03	1.06	1.03	1.07
II-1	平均値	3.83	3.90	3.90	4.01	3.89	3.90
	標準偏差	1.06	0.97	1.02	0.96	1.00	1.02
II-3	平均値	3.91	4.02	3.96	4.07	3.99	3.98
	標準偏差	0.91	0.87	0.92	0.90	0.87	0.90
II-5	平均値	3.96	4.16	4.03	4.12	3.99	4.03
	標準偏差	1.10	0.93	1.02	1.01	1.07	1.04
II-6	平均値	3.84	4.09	4.04	4.04	3.84	3.96
	標準偏差	1.12	0.97	0.98	1.00	1.03	1.04
II-7	平均値	3.84	4.03	3.88	3.91	4.08	3.92
	標準偏差	1.06	0.98	1.01	1.06	0.93	1.02
II-8	平均値	3.69	3.78	3.76	3.77	3.74	3.74
	標準偏差	1.05	1.04	1.01	1.03	1.01	1.03
II-9	平均値	3.58	3.60	3.70	3.66	3.50	3.62
	標準偏差	1.05	1.04	1.00	1.02	1.08	1.04
II-10	平均値	3.65	3.67	3.77	3.80	3.45	3.68
	標準偏差	1.05	1.01	0.99	0.99	1.09	1.04
III	平均値	3.78	3.82	3.92	3.87	3.68	3.82
	標準偏差	1.05	0.98	0.99	1.00	1.07	1.03

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.47	3.58	3.40	3.61	3.64	3.51
	標準偏差	0.75	0.75	0.69	0.75	0.81	0.75
II-4	平均値	3.31	3.35	3.27	3.33	3.35	3.31
	標準偏差	0.68	0.72	0.63	0.64	0.70	0.66

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / コー ス	経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス	会 計	全 体
1. 講義への興味	16.8	13.8	11.6	13.4	10.0	13.5
2. 教員にひかれて	2.8	2.0	2.8	2.0	1.5	2.4
3. 単位が必要	43.5	44.4	42.0	39.8	54.5	43.8
4. 単位取得が楽	11.3	11.8	12.4	11.5	10.6	11.6
5. 時間帯が空いている	25.7	28.0	31.3	33.2	23.5	28.7
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 政経学部専門科目（分野別）

区 分	分 野	法 律	政 治	行 政	経 済	そ の 他	全 体
設 問	科 目 数	29	23	10	60	7	129
I - 1	平 均 値	4.55	4.45	4.37	4.49	4.84	4.50
	標 準 偏 差	0.76	0.78	0.86	0.79	0.48	0.78
I - 2	平 均 値	4.10	4.11	3.79	4.00	2.81	3.99
	標 準 偏 差	1.02	1.10	1.19	1.08	1.52	1.11
I - 3	平 均 値	1.65	1.68	1.65	1.81	1.70	1.74
	標 準 偏 差	1.02	0.96	1.02	1.13	0.98	1.07
I - 5	平 均 値	1.45	1.42	1.57	1.59	1.57	1.53
	標 準 偏 差	0.95	0.95	1.08	1.10	1.11	1.05
II - 1	平 均 値	3.96	4.04	3.81	3.85	4.20	3.91
	標 準 偏 差	0.97	1.01	1.10	1.05	0.98	1.03
II - 3	平 均 値	4.02	4.08	3.91	3.95	4.31	3.99
	標 準 偏 差	0.86	0.90	0.93	0.94	0.86	0.92
II - 5	平 均 値	4.13	4.13	4.04	3.93	4.17	4.01
	標 準 偏 差	0.96	1.06	1.05	1.10	0.99	1.06
II - 6	平 均 値	3.97	4.08	3.95	3.91	4.29	3.96
	標 準 偏 差	1.00	1.04	1.07	1.04	0.85	1.03
II - 7	平 均 値	3.98	4.25	4.01	3.84	4.42	3.95
	標 準 偏 差	1.00	0.94	0.97	1.09	0.83	1.05
II - 8	平 均 値	3.65	3.74	3.62	3.68	4.11	3.69
	標 準 偏 差	1.03	1.09	1.06	1.04	1.01	1.05
II - 9	平 均 値	3.60	3.82	3.59	3.55	3.99	3.61
	標 準 偏 差	0.97	1.03	1.11	1.06	1.02	1.04
II - 10	平 均 値	3.76	3.98	3.65	3.61	3.61	3.69
	標 準 偏 差	0.98	0.98	1.12	1.06	1.07	1.05
III	平 均 値	3.91	4.05	3.77	3.78	3.95	3.84
	標 準 偏 差	0.96	0.98	1.07	1.06	1.04	1.03

※3の回答が適切である項目

II - 2	平 均 値	3.56	3.40	3.55	3.58	3.42	3.55
	標 準 偏 差	0.71	0.70	0.74	0.78	0.85	0.76
II - 4	平 均 値	3.25	3.21	3.30	3.35	3.44	3.31
	標 準 偏 差	0.61	0.59	0.73	0.73	0.79	0.69

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 分 野	法 律	政 治	行 政	経 済	そ の 他	全 体
1. 講義への興味	16.3	17.6	18.5	17.0	4.9	16.9
2. 教員にひかれて	2.5	2.1	3.3	3.0	2.0	2.8
3. 単位が必要	38.1	32.1	40.2	39.8	73.5	38.9
4. 単位取得が楽	10.3	10.7	9.2	13.2	3.9	11.8
5. 時間帯が空いている	32.7	37.5	28.8	26.9	15.7	29.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 外国語学部専門科目（学科別）

区 分	学 科	英米語	中国語	スペイン語	自由科目	全 体
設 問	科目数	46	25	35	2	108
I-1	平均値	4.69	4.57	4.53	4.46	4.61
	標準偏差	0.62	0.70	0.69	0.72	0.67
I-2	平均値	3.91	4.30	4.12	3.64	4.04
	標準偏差	1.17	0.95	0.98	1.16	1.09
I-3	平均値	2.15	1.99	2.15	1.30	2.09
	標準偏差	1.12	1.04	1.00	0.70	1.07
I-5	平均値	1.46	1.70	1.66	1.26	1.56
	標準偏差	0.96	1.12	1.10	0.74	1.04
II-1	平均値	4.07	4.10	4.28	3.60	4.12
	標準偏差	1.01	1.07	0.85	1.20	0.99
II-3	平均値	4.14	4.21	4.31	3.55	4.18
	標準偏差	0.91	0.91	0.81	1.04	0.90
II-5	平均値	4.33	4.08	4.38	3.63	4.27
	標準偏差	0.92	1.16	0.81	1.29	0.97
II-6	平均値	4.21	4.02	4.23	3.12	4.14
	標準偏差	0.94	1.02	0.90	1.35	0.99
II-7	平均値	4.21	4.13	4.36	3.51	4.21
	標準偏差	0.93	1.00	0.83	1.28	0.95
II-8	平均値	4.04	4.02	4.16	3.45	4.05
	標準偏差	1.03	1.00	0.92	1.34	1.01
II-9	平均値	4.01	3.94	4.14	3.63	4.02
	標準偏差	0.99	1.01	0.86	1.07	0.97
II-10	平均値	3.86	3.76	3.99	3.57	3.87
	標準偏差	1.02	1.04	0.95	1.06	1.01
III	平均値	4.10	4.08	4.29	3.67	4.13
	標準偏差	1.01	1.02	0.84	1.14	0.98

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.38	3.46	3.36	3.09	3.38
	標準偏差	0.72	0.67	0.65	0.55	0.69
II-4	平均値	3.16	3.22	3.21	3.07	3.18
	標準偏差	0.58	0.62	0.57	0.64	0.58

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 学 科	英米語	中国語	スペイン語	自由科目	全 体
1. 講義への興味	8.1	6.4	8.0	9.5	7.8
2. 教員にひかれて	1.2	0.7	1.1	7.1	1.4
3. 単位が必要	54.3	69.8	55.5	42.9	57.2
4. 単位取得が楽	8.6	10.7	8.0	6.0	8.7
5. 時間帯が空いている	27.8	12.4	27.3	34.5	24.9
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

4. 工学部専門科目

(1) 実験・実習科目 (学科別)

区分	学科	機械	電子システム	情報	デザイン	基礎教育	全体
設問	科目数	4	8	7	15	1	35
I-1	平均値	4.80	4.84	4.83	4.64	4.89	4.75
	標準偏差	0.50	0.46	0.49	0.67	0.46	0.57
I-2	平均値	3.09	3.23	3.75	3.47	4.69	3.44
	標準偏差	1.23	1.35	1.15	1.18	0.82	1.25
I-3	平均値	4.15	3.73	4.30	3.56	4.65	3.84
	標準偏差	1.02	1.26	0.88	1.25	0.76	1.20
I-4	平均値	3.99	3.86	4.03	3.79	4.27	3.89
	標準偏差	0.90	0.93	0.85	0.87	0.79	0.89
II-1	平均値	4.17	3.68	3.96	3.55	4.17	3.75
	標準偏差	0.85	1.24	0.94	1.27	0.84	1.17
II-4	平均値	3.79	3.70	3.54	3.70	3.46	3.68
	標準偏差	0.98	1.07	1.07	0.98	0.91	1.02
II-5	平均値	4.08	3.67	3.96	3.80	3.49	3.83
	標準偏差	0.93	1.04	0.94	0.98	0.81	0.99
II-6	平均値	4.04	3.84	3.83	3.82	3.77	3.85
	標準偏差	0.89	1.01	0.95	0.96	1.04	0.96
II-7	平均値	4.07	3.82	3.84	3.78	3.91	3.84
	標準偏差	0.88	1.00	0.92	0.98	0.78	0.96
II-8	平均値	4.00	3.76	3.80	3.78	4.09	3.81
	標準偏差	0.91	1.02	0.96	0.92	0.81	0.96
II-9	平均値	3.74	3.78	3.59	3.76	3.86	3.73
	標準偏差	0.94	1.04	1.02	0.95	0.87	0.99
II-10	平均値	3.92	3.68	3.67	3.81	3.77	3.76
	標準偏差	0.83	1.10	0.96	0.91	0.80	0.96
II-11	平均値	3.91	3.66	3.57	3.81	3.60	3.74
	標準偏差	0.88	1.04	0.99	0.94	0.80	0.97
III	平均値	3.95	3.80	3.73	3.84	3.71	3.82
	標準偏差	0.97	1.04	1.06	0.97	0.81	1.01

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.58	3.57	3.57	3.64	3.69	3.60
	標準偏差	0.72	0.91	0.81	0.78	0.62	0.81
II-3	平均値	3.37	3.48	3.29	3.47	3.23	3.42
	標準偏差	0.70	0.86	0.70	0.69	0.54	0.74

(注) : 「実験・実習用アンケート」で実施した演習等科目を含む。

(2) 学科・学科目別(講義科目)

区分	学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
設 問	科目数	22	16	21	5	27	91
I-1	平均値	4.65	4.74	4.47	4.51	4.71	4.62
	標準偏差	0.65	0.59	0.76	0.69	0.61	0.67
I-2	平均値	3.83	3.87	3.52	3.67	3.91	3.76
	標準偏差	1.11	1.09	1.12	1.06	1.21	1.14
I-3	平均値	1.80	1.73	1.76	1.88	1.80	1.78
	標準偏差	1.06	1.00	1.02	1.00	1.05	1.03
I-5	平均値	1.80	1.67	1.64	1.73	1.62	1.69
	標準偏差	1.12	1.07	1.01	1.10	1.07	1.07
II-1	平均値	3.75	3.94	3.62	3.90	3.77	3.77
	標準偏差	0.95	0.98	0.96	0.98	1.04	0.99
II-3	平均値	3.81	3.98	3.81	3.97	3.91	3.88
	標準偏差	0.87	0.94	0.86	0.90	0.91	0.90
II-5	平均値	3.95	4.04	3.88	3.82	3.86	3.92
	標準偏差	0.98	1.02	0.99	1.06	1.09	1.02
II-6	平均値	3.79	3.98	3.77	4.20	3.71	3.84
	標準偏差	1.00	1.01	1.00	0.96	1.07	1.02
II-7	平均値	3.50	3.88	3.69	3.72	3.80	3.71
	標準偏差	1.03	0.97	0.96	1.09	1.00	1.01
II-8	平均値	3.54	3.77	3.66	3.78	3.83	3.70
	標準偏差	0.93	0.98	0.94	0.99	0.97	0.96
II-9	平均値	3.45	3.52	3.28	3.75	3.49	3.45
	標準偏差	1.01	1.06	1.04	0.94	1.13	1.06
II-10	平均値	3.47	3.60	3.38	3.87	3.35	3.48
	標準偏差	0.99	1.01	1.02	1.01	1.09	1.04
III	平均値	3.60	3.80	3.51	3.92	3.63	3.65
	標準偏差	0.99	1.00	1.00	1.02	1.11	1.03

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.45	3.53	3.59	3.38	3.45	3.50
	標準偏差	0.74	0.79	0.79	0.68	0.86	0.79
II-4	平均値	3.27	3.30	3.36	3.32	3.41	3.33
	標準偏差	0.65	0.69	0.68	0.66	0.76	0.69

※1-4「受講動機」回答の分布(複数回答可)

単位：%

回答/学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
1. 講義への興味	10.6	10.4	14.4	13.3	13.4	12.3
2. 教員にひかれて	3.7	2.2	2.0	3.1	5.9	3.2
3. 単位が必要	58.4	64.2	62.3	43.5	62.3	60.3
4. 単位取得が楽	7.6	7.5	7.3	7.6	4.9	7.0
5. 時間帯が空いている	19.8	15.7	14.0	32.5	13.4	17.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

5. 国際学部科目

(1) 英語群（配当学年、回答者の学年で分類）

区 分	回答者学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科 目 数	54	9	42	9	6	102
I-1	平 均 値	4.74	3.94	4.63	3.67	4.33	4.65
	標 準 偏 差	0.56	0.91	0.65	0.94	0.77	0.64
I-2	平 均 値	3.93	4.06	3.93	3.33	4.08	3.94
	標 準 偏 差	1.11	0.91	1.17	1.03	0.90	1.12
I-3	平 均 値	2.21	2.44	2.21	2.17	2.17	2.21
	標 準 偏 差	1.08	1.01	1.05	1.14	1.16	1.08
I-5	平 均 値	1.68	2.17	1.58	1.50	1.68	1.64
	標 準 偏 差	1.12	1.30	1.10	0.87	1.14	1.12
II-1	平 均 値	4.11	4.11	4.07	3.92	4.22	4.10
	標 準 偏 差	0.94	0.87	0.98	0.86	0.85	0.95
II-3	平 均 値	4.12	4.33	4.14	4.08	4.20	4.13
	標 準 偏 差	0.85	0.75	0.92	0.76	0.85	0.88
II-5	平 均 値	4.20	4.29	4.32	4.33	4.44	4.27
	標 準 偏 差	0.93	0.82	0.91	0.62	0.76	0.91
II-6	平 均 値	4.15	4.28	4.20	4.08	4.24	4.17
	標 準 偏 差	0.91	0.87	0.92	0.95	0.81	0.91
II-7	平 均 値	4.31	4.39	4.34	4.33	4.26	4.32
	標 準 偏 差	0.85	0.68	0.83	0.62	0.84	0.84
II-8	平 均 値	4.16	4.22	4.23	3.92	4.21	4.19
	標 準 偏 差	0.92	0.92	0.91	1.32	0.88	0.92
II-9	平 均 値	4.09	3.94	4.13	3.92	4.23	4.11
	標 準 偏 差	0.90	1.03	0.91	0.95	0.80	0.90
II-10	平 均 値	3.87	3.78	3.95	4.00	4.17	3.92
	標 準 偏 差	1.00	0.97	1.00	0.91	0.89	0.99
III	平 均 値	4.11	4.17	4.17	4.00	4.35	4.15
	標 準 偏 差	0.97	1.01	0.94	1.15	0.79	0.95

※3の回答が適切である項目

II-2	平 均 値	3.25	3.44	3.29	3.58	3.32	3.27
	標 準 偏 差	0.78	0.60	0.72	0.64	0.70	0.75
II-4	平 均 値	3.13	3.06	3.23	3.08	3.25	3.18
	標 準 偏 差	0.67	0.23	0.62	0.49	0.59	0.64

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：％

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	3.2	0.0	2.2	0.0	4.3	2.9
2. 教員にひかれて	3.4	7.7	1.2	0.0	2.6	2.6
3. 単位が必要	61.7	69.2	72.9	100.0	71.3	66.8
4. 単位取得が楽	7.4	0.0	9.8	0.0	7.0	8.1
5. 時間帯が空いている	24.3	23.1	13.9	0.0	14.8	19.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 地域言語群 (配当学年、回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2~4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科目数	43	21	34	11	16	76
I-1	平均値	4.71	4.59	4.53	4.06	4.45	4.61
	標準偏差	0.61	0.55	0.75	0.91	0.72	0.69
I-2	平均値	4.33	4.81	4.35	3.94	4.47	4.35
	標準偏差	0.87	0.47	0.89	1.08	0.75	0.88
I-3	平均値	2.19	2.94	2.10	2.22	1.89	2.17
	標準偏差	1.06	0.97	1.12	1.47	0.88	1.10
I-5	平均値	1.88	2.44	1.75	1.72	1.99	1.82
	標準偏差	1.23	1.39	1.24	0.99	1.32	1.23
II-1	平均値	4.22	4.41	4.27	4.00	4.29	4.24
	標準偏差	0.86	0.70	0.91	0.75	0.94	0.88
II-3	平均値	4.17	4.42	4.25	4.22	4.22	4.21
	標準偏差	0.83	0.79	0.91	0.63	0.86	0.87
II-5	平均値	4.27	4.44	4.32	4.25	4.59	4.29
	標準偏差	0.93	0.83	0.97	0.66	0.64	0.94
II-6	平均値	4.21	4.25	4.23	4.33	4.46	4.22
	標準偏差	0.93	0.90	0.95	0.67	0.78	0.94
II-7	平均値	4.37	4.38	4.31	4.39	4.52	4.34
	標準偏差	0.75	0.93	0.86	0.68	0.74	0.81
II-8	平均値	4.21	4.50	4.20	3.89	4.29	4.21
	標準偏差	0.82	0.71	0.97	0.94	0.84	0.89
II-9	平均値	4.12	4.41	4.01	4.11	4.37	4.07
	標準偏差	0.88	0.74	1.04	1.10	0.74	0.96
II-10	平均値	3.98	4.28	4.08	4.11	4.33	4.03
	標準偏差	0.95	0.84	0.99	1.05	0.88	0.96
III	平均値	4.32	4.59	4.24	4.06	4.63	4.29
	標準偏差	0.87	0.65	0.93	0.97	0.71	0.89

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.39	3.31	3.53	3.33	3.31	3.45
	標準偏差	0.72	0.53	0.70	0.75	0.58	0.71
II-4	平均値	3.24	3.13	3.36	3.06	3.16	3.29
	標準偏差	0.59	0.48	0.66	0.70	0.43	0.63

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2~4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	1.5	5.6	0.7	11.1	7.9	1.7
2. 教員にひかれて	5.5	0.0	1.1	5.6	3.5	3.6
3. 単位が必要	35.4	33.3	55.1	33.3	17.5	42.3
4. 単位取得が楽	11.1	5.6	14.6	5.6	32.5	12.1
5. 時間帯が空いている	46.5	55.6	28.5	44.4	38.6	40.3
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 基礎科目群 (回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1年	2年	3・4年	全 体
設 問	科目数	27	15	14	28
I-1	平均値	4.69	4.45	4.37	4.63
	標準偏差	0.63	0.80	0.75	0.67
I-2	平均値	3.59	3.90	3.89	3.64
	標準偏差	1.38	1.12	1.20	1.35
I-3	平均値	1.82	1.76	1.65	1.80
	標準偏差	1.14	0.96	0.88	1.11
I-5	平均値	1.65	1.53	1.52	1.62
	標準偏差	1.15	1.16	0.99	1.13
II-1	平均値	4.03	3.90	3.99	4.02
	標準偏差	1.00	1.11	1.09	1.02
II-3	平均値	4.04	4.06	4.02	4.04
	標準偏差	0.94	0.92	0.86	0.93
II-5	平均値	4.26	4.31	4.14	4.25
	標準偏差	0.89	0.93	1.00	0.90
II-6	平均値	4.09	4.04	4.14	4.09
	標準偏差	0.94	1.12	0.90	0.95
II-7	平均値	4.27	4.14	4.18	4.25
	標準偏差	0.82	0.95	0.94	0.85
II-8	平均値	3.93	3.78	3.92	3.92
	標準偏差	0.99	1.05	0.92	0.99
II-9	平均値	3.94	3.51	3.82	3.90
	標準偏差	1.03	1.11	1.05	1.04
II-10	平均値	3.84	3.57	4.00	3.84
	標準偏差	1.08	1.19	0.92	1.07
III	平均値	4.02	3.84	4.19	4.03
	標準偏差	0.99	1.05	0.89	0.99

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.39	3.45	3.42	3.39
	標準偏差	0.78	0.82	0.71	0.78
II-4	平均値	3.25	3.20	3.20	3.24
	標準偏差	0.69	0.69	0.56	0.67

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年	2年	3・4年	全 体
1. 講義への興味	6.7	15.1	14.7	8.7
2. 教員にひかれて	4.3	1.9	1.7	3.7
3. 単位が必要	56.6	47.2	47.4	54.3
4. 単位取得が楽	8.8	11.3	8.6	9.0
5. 時間帯が空いている	23.7	24.5	27.6	24.4
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) 専門共通科目 (回答者の所属で分類)

区 分	科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全 体
設 問	科目数	18	24	25	27
I-1	平均値	4.71	4.48	4.20	4.57
	標準偏差	0.59	0.78	0.89	0.72
I-2	平均値	3.63	3.98	3.96	3.74
	標準偏差	1.27	1.15	1.10	1.24
I-3	平均値	1.89	1.46	1.88	1.83
	標準偏差	1.21	0.84	1.09	1.16
I-5	平均値	1.66	1.36	1.72	1.63
	標準偏差	1.14	0.88	1.15	1.11
II-1	平均値	3.84	4.10	4.15	3.93
	標準偏差	1.12	1.02	1.09	1.11
II-3	平均値	3.94	4.06	4.14	4.00
	標準偏差	0.99	0.98	1.00	0.99
II-5	平均値	3.87	4.21	4.13	3.97
	標準偏差	1.18	1.03	1.12	1.16
II-6	平均値	4.02	4.20	4.05	4.05
	標準偏差	1.06	1.07	1.08	1.07
II-7	平均値	3.90	4.29	4.16	4.00
	標準偏差	1.08	0.93	1.04	1.06
II-8	平均値	3.57	3.69	3.88	3.65
	標準偏差	1.22	1.27	1.13	1.21
II-9	平均値	3.75	3.93	3.93	3.81
	標準偏差	1.14	1.05	1.12	1.13
II-10	平均値	3.95	4.06	4.02	3.98
	標準偏差	1.06	1.01	1.06	1.05
III	平均値	3.85	4.10	4.05	3.92
	標準偏差	1.16	1.00	1.09	1.13

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.37	3.38	3.46	3.39
	標準偏差	0.77	0.64	0.75	0.75
II-4	平均値	3.26	3.29	3.25	3.26
	標準偏差	0.67	0.58	0.68	0.66

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全 体
1. 講義への興味	9.2	13.3	10.1	10.0
2. 教員にひかれて	4.4	2.7	3.2	3.9
3. 単位が必要	35.6	42.2	43.1	38.3
4. 単位取得が楽	8.1	6.7	14.2	9.2
5. 時間帯が空いている	42.7	35.1	29.5	38.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(5) 専門コース科目（回答者の所属で分類）

区 分	科目区分	国際協力		国際経済		国際政治		国際文化		国際観光		農業総合		専門コース科目	
	科目数	19		6		6		9		4		4		48	
設 問	学生所属	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻
I-1	平均値	4.38	4.38	4.38	4.42	4.36	4.36	4.51	4.54	4.55	4.63	4.39	4.55	4.46	4.46
	標準偏差	0.84	0.84	0.83	0.83	0.85	0.88	0.75	0.72	0.73	0.67	0.81	0.65	0.79	0.79
I-2	平均値	3.72	3.72	3.81	3.91	3.75	3.79	3.87	3.95	4.10	4.71	3.76	4.11	3.92	3.92
	標準偏差	1.24	1.24	1.22	1.14	1.24	1.20	1.19	1.16	1.12	0.57	1.22	0.94	1.18	1.18
I-3	平均値	1.94	1.94	1.93	1.84	1.87	1.77	1.98	2.02	1.91	1.50	1.84	1.53	1.88	1.88
	標準偏差	1.23	1.23	1.24	1.17	1.21	1.11	1.28	1.31	1.24	0.83	1.20	1.02	1.21	1.21
I-5	平均値	1.93	1.93	1.97	2.08	1.89	1.70	1.80	1.79	1.71	1.38	1.88	1.76	1.82	1.82
	標準偏差	1.36	1.36	1.41	1.48	1.36	1.21	1.27	1.29	1.23	0.91	1.34	1.20	1.30	1.30
II-1	平均値	3.99	3.99	4.03	4.26	4.10	4.27	4.09	4.11	4.14	4.30	4.03	4.47	4.14	4.14
	標準偏差	1.01	1.01	1.01	0.90	1.02	1.05	0.97	0.96	0.95	0.85	1.00	0.73	0.98	0.98
II-3	平均値	4.09	4.09	4.15	4.27	4.17	4.27	4.04	4.05	4.07	4.17	4.15	4.46	4.14	4.14
	標準偏差	0.91	0.91	0.88	0.83	0.91	0.93	0.92	0.92	0.89	0.81	0.89	0.68	0.90	0.90
II-5	平均値	4.12	4.12	4.10	4.34	4.22	4.31	4.15	4.15	4.09	3.96	4.18	4.70	4.18	4.18
	標準偏差	1.01	1.01	1.02	0.87	1.01	1.01	0.99	0.99	1.01	1.03	1.01	0.58	0.99	0.99
II-6	平均値	4.00	4.00	4.03	4.27	4.13	4.33	4.11	4.12	4.07	3.93	4.08	4.67	4.13	4.13
	標準偏差	1.05	1.05	1.04	0.89	1.06	1.01	1.02	1.01	1.04	1.13	1.05	0.60	1.02	1.02
II-7	平均値	4.09	4.09	4.16	4.47	4.19	4.39	4.00	4.00	4.04	4.22	4.15	4.65	4.16	4.16
	標準偏差	0.96	0.96	0.91	0.75	0.93	0.87	1.06	1.06	1.06	1.06	0.92	0.59	0.98	0.98
II-8	平均値	3.85	3.85	3.89	4.13	3.94	4.07	3.83	3.83	3.85	3.93	3.85	4.15	3.92	3.92
	標準偏差	1.08	1.08	1.07	0.99	1.07	1.04	1.09	1.10	1.08	1.00	1.08	0.96	1.07	1.07
II-9	平均値	3.87	3.87	3.88	4.06	4.02	4.18	4.06	4.08	4.11	4.27	3.91	4.38	4.05	4.05
	標準偏差	1.04	1.04	1.04	0.94	1.05	1.02	0.96	0.95	0.92	0.77	1.03	0.69	0.98	0.98
II-10	平均値	3.97	3.97	4.00	4.24	4.07	4.21	4.09	4.09	4.12	4.25	4.04	4.65	4.12	4.12
	標準偏差	1.01	1.01	1.00	0.88	1.03	1.03	0.97	0.97	0.95	0.83	1.00	0.60	0.97	0.97
III	平均値	4.02	4.02	4.05	4.32	4.14	4.27	4.14	4.15	4.17	4.30	4.07	4.66	4.17	4.17
	標準偏差	1.00	1.00	1.01	0.88	1.01	1.03	0.94	0.94	0.92	0.81	1.00	0.57	0.96	0.96

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.43	3.43	3.45	3.40	3.40	3.36	3.25	3.24	3.25	3.24	3.42	3.28	3.33	3.33
	標準偏差	0.74	0.74	0.77	0.74	0.75	0.75	0.65	0.64	0.62	0.50	0.73	0.55	0.69	0.69
II-4	平均値	3.25	3.25	3.28	3.23	3.23	3.14	3.20	3.21	3.20	3.17	3.26	3.24	3.21	3.21
	標準偏差	0.62	0.62	0.65	0.61	0.61	0.55	0.59	0.59	0.57	0.46	0.62	0.45	0.58	0.58

単位：%

回 答 / 科目区分	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合	専門コース科目							
1. 講義への興味	8.6	8.6	8.5	8.3	8.2	9.0	8.2	7.8	7.9	6.6	7.6	2.7	8.0	8.0
2. 教員にひかれて	2.3	2.3	2.7	2.6	2.2	1.7	2.1	2.1	1.8	0.5	2.4	0.9	2.0	2.0
3. 単位が必要	41.6	41.6	38.7	26.0	39.6	35.1	34.9	33.6	31.8	24.5	40.2	22.1	34.6	34.6
4. 単位取得が楽	16.0	16.0	15.7	20.3	20.4	23.7	17.6	18.4	17.8	15.8	18.6	41.6	19.3	19.3
5. 時間帯が空いている	31.5	31.5	34.4	42.7	29.6	30.4	37.3	38.0	40.7	52.6	31.3	32.7	36.2	36.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6. 教養教育科目

(1) 講義科目 (群別)

項目	群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
	科目数	12	8	5	7	5	7	7	3	2	18		74
I-1	平均値	4.59	4.47	4.53	4.57	4.54	4.64	4.53	4.69	4.49	4.67		4.57
	標準偏差	0.73	0.83	0.68	0.74	0.83	0.68	0.86	0.62	0.83	0.63		0.74
I-2	平均値	4.11	3.54	3.66	3.98	3.73	3.48	4.03	3.17	4.27	3.72		3.75
	標準偏差	1.15	1.31	1.24	1.19	1.25	1.27	1.15	1.37	0.87	1.27		1.26
I-3	平均値	1.54	1.50	1.54	1.38	1.41	1.57	1.42	1.75	1.67	1.55		1.53
	標準偏差	0.98	1.01	1.00	0.80	0.81	1.07	0.94	1.14	1.04	1.01		1.00
I-5	平均値	1.48	1.46	1.44	1.37	1.29	1.55	1.34	1.48	1.47	1.49		1.46
	標準偏差	1.04	1.04	0.93	0.87	0.75	1.05	0.88	1.06	1.02	1.01		0.99
II-1	平均値	3.95	3.60	3.98	3.15	3.67	3.83	3.37	3.85	3.85	4.27		3.80
	標準偏差	1.05	1.11	0.99	1.27	1.10	1.00	1.10	1.04	1.00	0.91		1.10
II-3	平均値	4.02	3.80	4.01	3.46	4.00	3.84	3.75	4.02	3.94	4.15		3.92
	標準偏差	0.93	0.99	0.88	1.05	0.87	0.90	0.94	0.91	0.91	0.89		0.95
II-5	平均値	4.11	3.90	4.11	2.96	3.92	4.11	3.22	3.91	4.17	4.36		3.94
	標準偏差	1.03	1.13	1.01	1.48	1.06	0.96	1.28	1.05	0.91	0.90		1.14
II-6	平均値	3.88	3.93	4.13	3.16	3.82	3.88	3.64	4.08	3.84	4.03		3.87
	標準偏差	1.06	1.05	0.93	1.26	1.18	1.00	1.17	0.96	1.06	1.02		1.08
II-7	平均値	3.99	3.60	3.88	3.47	4.00	3.49	3.65	3.53	3.71	4.04		3.76
	標準偏差	1.03	1.11	1.00	1.15	0.99	1.08	1.05	1.15	1.03	0.98		1.08
II-8	平均値	3.67	3.45	3.63	3.21	3.51	3.38	3.40	3.78	3.40	3.90		3.56
	標準偏差	1.05	1.10	1.05	1.19	1.08	1.11	1.11	1.03	1.09	0.98		1.09
II-9	平均値	3.69	3.53	3.79	2.99	3.39	3.68	3.04	3.54	3.38	4.12		3.60
	標準偏差	1.03	1.10	0.98	1.22	1.03	0.95	1.12	1.03	1.10	0.88		1.08
II-10	平均値	3.88	3.63	3.84	3.13	3.67	3.81	3.14	3.76	3.50	4.05		3.71
	標準偏差	1.03	1.08	0.99	1.21	1.00	0.90	1.13	1.04	1.02	0.91		1.06
III	平均値	3.94	3.72	3.97	3.20	3.76	3.95	3.30	3.72	3.73	4.27		3.82
	標準偏差	1.00	1.07	0.94	1.28	1.01	0.91	1.11	0.98	1.02	0.85		1.05

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.51	3.37	3.38	3.59	3.61	3.26	3.75	3.49	3.67	3.16		3.42
	標準偏差	0.73	0.82	0.78	0.82	0.72	0.71	0.81	0.77	0.79	0.64		0.78
II-4	平均値	3.33	3.23	3.35	3.21	3.30	3.18	3.32	3.21	3.45	3.09		3.25
	標準偏差	0.64	0.66	0.64	0.69	0.65	0.64	0.72	0.61	0.65	0.50		0.64

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 / 群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
1. 講義への興味	20.3	22.0	20.8	26.1	28.5	18.4	28.6	23.8	25.9	19.1		22.1
2. 教員にひかれて	4.4	9.0	6.6	6.0	4.4	9.8	4.1	6.2	3.4	7.1		6.6
3. 単位が必要	30.5	34.7	33.7	35.7	41.0	31.6	38.8	39.4	42.7	29.8		34.0
4. 単位取得が楽	7.5	4.1	8.5	4.3	4.0	11.1	2.6	4.6	8.6	6.3		6.2
5. 時間帯が空いている	37.3	30.3	30.4	27.9	22.1	29.1	26.0	26.1	19.4	37.7		31.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0

(2) 外国語科目 (商・政経・外国語学部、12カ国語)

項目	外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
	科目数	115	2	3	22	13	23	12	8	1	2	15	21	237
I-1	平均値	4.68	4.00	4.61	4.67	4.74	4.65	4.71	4.75	5.00	4.62	4.76	4.77	4.69
	標準偏差	0.64	1.26	0.72	0.65	0.57	0.67	0.58	0.59	0.00	0.69	0.55	0.56	0.63
I-2	平均値	3.96	3.80	4.54	4.37	4.35	4.17	4.28	4.36	4.50	4.40	4.09	4.29	4.12
	標準偏差	1.11	1.17	0.68	0.84	0.87	0.91	1.05	0.84	0.50	0.90	1.02	1.04	1.04
I-3	平均値	1.93	2.00	1.96	2.12	1.93	1.84	1.87	1.98	2.50	1.83	2.01	2.42	1.98
	標準偏差	1.07	0.89	0.78	1.04	1.08	0.98	0.88	1.00	1.12	0.95	1.02	1.13	1.05
I-5	平均値	1.54	1.00	1.36	1.59	1.55	1.44	1.54	1.45	1.25	1.62	1.48	2.35	1.57
	標準偏差	1.02	0.00	0.89	1.00	1.00	0.90	1.06	0.97	0.43	1.19	0.95	1.30	1.04
II-1	平均値	3.98	4.40	4.29	4.07	4.09	4.13	4.28	4.15	4.25	3.90	4.01	4.50	4.06
	標準偏差	0.97	0.80	0.88	0.93	0.90	0.90	0.88	0.79	0.83	1.04	0.95	0.74	0.94
II-3	平均値	4.00	4.20	4.39	4.08	4.06	4.10	4.24	4.14	4.25	4.14	4.16	4.45	4.08
	標準偏差	0.91	0.98	0.67	0.87	0.83	0.87	0.86	0.72	0.83	0.74	0.86	0.73	0.88
II-5	平均値	4.10	4.40	4.65	4.03	4.20	4.29	4.27	4.25	4.75	3.36	4.00	4.59	4.15
	標準偏差	1.02	0.80	0.55	1.02	0.89	0.93	0.96	0.84	0.43	1.44	1.10	0.70	1.00
II-6	平均値	3.99	4.40	4.39	3.97	3.99	4.12	4.33	4.20	5.00	4.00	3.92	4.46	4.05
	標準偏差	0.95	0.80	0.72	0.93	0.96	0.93	0.81	0.80	0.00	1.07	1.04	0.77	0.94
II-7	平均値	4.15	4.60	4.46	4.03	4.13	4.23	4.25	4.39	4.75	4.31	4.13	4.48	4.17
	標準偏差	0.91	0.49	0.87	0.93	0.91	0.90	0.84	0.72	0.43	0.83	0.90	0.76	0.90
II-8	平均値	3.97	4.40	4.43	3.96	3.98	4.15	4.20	4.26	4.50	3.85	3.94	4.29	4.02
	標準偏差	0.97	0.80	0.78	0.94	0.92	0.91	0.86	0.75	0.50	1.00	0.91	0.91	0.95
II-9	平均値	3.82	4.20	4.25	3.80	3.69	3.82	4.08	3.61	4.50	3.57	3.58	4.55	3.84
	標準偏差	1.00	0.98	0.74	0.97	0.97	0.96	0.91	0.89	0.50	1.07	1.08	0.68	1.00
II-10	平均値	3.61	4.80	3.89	3.64	3.70	3.70	3.99	3.76	4.75	3.71	3.51	4.34	3.69
	標準偏差	1.04	0.40	0.90	1.01	0.97	1.03	0.94	0.85	0.43	1.18	1.05	0.85	1.03
III	平均値	3.93	4.20	4.43	3.91	4.02	4.12	4.27	4.17	4.75	3.90	3.92	4.55	4.01
	標準偏差	1.00	0.98	0.78	1.00	0.91	0.95	0.88	0.80	0.43	1.25	0.97	0.72	0.98

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.31	4.00	3.36	3.53	3.61	3.56	3.35	3.72	3.75	3.57	3.68	3.11	3.41
	標準偏差	0.80	0.63	0.61	0.66	0.75	0.76	0.71	0.71	0.43	0.73	0.74	0.59	0.77
II-4	平均値	3.19	3.60	3.14	3.37	3.37	3.26	3.25	3.48	3.00	3.14	3.35	3.06	3.25
	標準偏差	0.61	0.80	0.44	0.67	0.67	0.62	0.61	0.66	0.00	0.47	0.62	0.48	0.62

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 / 外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
1. 講義への興味	3.6	0.0	0.0	2.1	2.6	3.8	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	4.9	3.1
2. 教員にひかれて	2.2	0.0	0.0	1.3	0.5	0.3	1.5	4.6	0.0	0.0	1.9	7.2	2.2
3. 単位が必要	76.2	0.0	69.6	65.4	51.0	53.1	39.2	34.3	0.0	38.7	59.3	44.3	64.2
4. 単位取得が楽	6.0	0.0	8.7	5.0	11.7	5.9	10.8	3.7	60.0	9.7	9.3	11.0	7.1
5. 時間帯が空いている	12.0	100.0	21.7	26.2	34.2	36.7	48.5	55.6	40.0	51.6	27.5	32.6	23.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注1. A語：アラビア語、B・P語：ブラジル・ポルトガル語、C語：中国語、F語：フランス語、
G語：ドイツ語、K語：韓国語、I・M語：インドネシア・マレーシア語、
I・P語：インド・パキスタン語 (実施科目なし)、R語：ロシア語、S語：スペイン語

注2. 国際学部の地域言語は、47ページを参照

(3) スポーツ・トレーニング科目

設 問	科 目 数	15
I-1	平均値	4.80
	標準偏差	0.55
I-2	平均値	4.26
	標準偏差	0.82
I-3	平均値	4.53
	標準偏差	0.70
II-1	平均値	4.51
	標準偏差	0.63
II-4	平均値	4.22
	標準偏差	0.87
II-5	平均値	4.40
	標準偏差	0.75
II-6	平均値	4.30
	標準偏差	0.81
II-7	平均値	4.38
	標準偏差	0.72
II-8	平均値	4.43
	標準偏差	0.73
II-9	平均値	4.40
	標準偏差	0.76
II-10	平均値	4.31
	標準偏差	0.75
II-11	平均値	4.34
	標準偏差	0.74
III	平均値	4.44
	標準偏差	0.72
IV-1	平均値	4.40
	標準偏差	0.78
IV-2	平均値	4.37
	標準偏差	0.80
IV-3	平均値	3.76
	標準偏差	1.26

※3の回答が適切である項目

設 問	科 目 数	15
II-2	平均値	3.11
	標準偏差	0.73
II-3	平均値	3.15
	標準偏差	0.53

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

回 答	
1. 講義への興味	7.2
2. 教員にひかれて	5.9
3. 単位が必要	48.0
4. 単位取得が楽	9.0
5. 時間帯が空いている	29.9
合 計	100.0

(4) 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

区分	課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
設 問	科目数	28		4	32
I-1	平均値	4.55		4.67	4.56
	標準偏差	0.67		0.57	0.66
I-2	平均値	3.96		4.07	3.97
	標準偏差	1.06		1.08	1.06
I-3	平均値	1.73		1.55	1.72
	標準偏差	1.03		0.95	1.03
I-5	平均値	1.57		1.74	1.59
	標準偏差	1.02		1.18	1.04
II-1	平均値	4.17		4.26	4.18
	標準偏差	0.93		0.86	0.92
II-3	平均値	4.15		4.19	4.16
	標準偏差	0.87		0.84	0.87
II-5	平均値	4.17		4.47	4.19
	標準偏差	1.03		0.82	1.02
II-6	平均値	4.18		4.16	4.18
	標準偏差	0.97		0.86	0.96
II-7	平均値	4.25		4.43	4.27
	標準偏差	0.89		0.83	0.88
II-8	平均値	3.87		3.78	3.86
	標準偏差	1.00		1.09	1.01
II-9	平均値	3.89		4.22	3.92
	標準偏差	0.96		0.83	0.95
II-10	平均値	4.05		4.25	4.07
	標準偏差	0.92		0.84	0.92
III	平均値	4.09		4.36	4.11
	標準偏差	0.95		0.82	0.94

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.41		3.23	3.39
	標準偏差	0.70		0.48	0.68
II-4	平均値	3.21		2.97	3.19
	標準偏差	0.63		0.33	0.61

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
1. 講義への興味	3.7		8.9	4.2
2. 教員にひかれて	1.2		0.0	1.1
3. 単位が必要	72.7		32.2	68.8
4. 単位取得が楽	10.7		5.6	10.2
5. 時間帯が空いている	11.7		53.3	15.8
合 計	100.0	0.0	100.0	100.0

V 評価及び課題

1. 商学部

(1) アンケート実施状況について

平成 28 年度「授業改善のための学生アンケート」は、平成 28 年 6 月 20 日（月）～平成 28 年 7 月 13 日（火）にかけて実施された。アンケートを実施したのは、商学部専任教員 47 名（昨年度 47 名、一昨年度 45 名）及び非常勤講師 124 名（同 122 名、119 名）の合計 171 名（同 169 名、164 名）であった。アンケート実施率は、専任教員 100%（同 100%、100%）、非常勤講師 100%（同 99.2%、98.3%）であり、昨年度と比較すると若干上昇した。

アンケート実施科目数は、専任教員担当科目 103 科目（同 98 科目、91 科目）及び非常勤講師担当科目 206 科目（同 213 科目、206 科目）の合計 309 科目（同 311 科目、297 科目）であった。

実施科目（専任教員科目 103/非常勤講師科目 206）の内訳は、商学部専門科目 138、外国語科目 114、教養科目・総合教育科目 27、スポーツトレーニング科目 7、教職・社教・日本語科目 5、ゼミ・外書講読科目 11、その他専門科目 7 となっている。

アンケート回答数（延べ人数）は合計 10,769 名（同 9,562 名、8,827 名）であり、学年ごとに見ると、1 年生 3,729 名（同 3,607 名、3,403 名）、2 年生 3,555 名（同 2,938 名、2,403 名）、3 年生 2,492 名（同 2,173 名、2,244 名）、4 年生 978 名（同 828 名、760 名）であった。

以下では、今年度のアンケート結果を分析することで授業改善の方向性を探る。

(2) 集計結果の分析

① 全体的な傾向

本アンケートの質問項目は 16 項目で構成されているが、それらの項目は、Ⅰ「受講する姿勢や動機について」、Ⅱ「授業の内容や進め方について」、Ⅲ「総合的な満足度」という 3 つの大きな質問群に区分けされている。学生の主体性と教員の授業運営の実態を明らかにし、そのうえで学生の総合的な満足度を問うという形になっている。

昨年度の報告書において、商学部専門科目に関してⅠ～Ⅲの質問群ごとに平成 22～27 年度までの平均値の推移を確認し、次の 3 つの特徴を記述している。今年度も同じ特徴が見られた。

- Ⅰ 授業に出席してしっかりとノート・メモをとる学生が多い一方で、予習・復習への取り組みやオフィスアワー等を活用した質問は低調であるというパターンが続いている。
- Ⅱ この 2～3 年の間に「宿題・課題」「理解しやすさ」「見方・考え方が深まる」等の項目に対する学生の評価が明らかに高まっており、授業の質が高まってきていることが分かる。
- Ⅲ 総合的な満足度は、年度ごとの上下はあるものの上昇傾向にある。

② 個別の質問項目の検討

今年度の学科目別（講義等科目）平均値・標準偏差のデータと学科目別回答の分析から、

商学部専門科目（143 科目、商学部開講 138、他学部開講 5）のアンケート結果について、特徴を記述していく。

I-1 「学生の出席状況」（①40%未満、②40%以上、③60%以上、④80%以上、⑤90%以上）

この項目では、学生に自らの出席率を質問している。今年度の平均値は 4.58(昨年度 4.53、一昨年度 4.50)であった。昨年度よりも 0.05 ポイント上昇した。具体的には 80%以上の出席と回答した学生が 90% (昨年度 89%) を越えている。内訳をみると⑤68.67%、④21.94% (昨年度⑤65.65%、④23.97%) であった。

この項目はアンケート回答者の出席状況であり、授業に出席する学生は継続的に授業にまじめに出席するという傾向が読み取れる。しかし、授業に出席していない学生も相当数いると思われる。出席しない学生への対応が課題となる。

I-2 「ノート・メモ」

この項目は、授業中の口頭説明や板書内容をしっかりとノート・メモしているかを問うものである。今年度の平均値は 4.05(昨年度 4.06、一昨年度 4.11)であった。具体的には、「④そう思う」と「⑤強くそう思う」の合計が約 74% (昨年度約 75%) であった。

学生がしっかりとノート・メモをしていることで満足し、深い学びに結びついているのであろうか。実はこの結びつきが重要なのではないか。この点まで踏み込んだ質問項目を設定する必要があるだろう。

I-3 「予習・復習」（①0.5h 未満、②0.5h 以上、③1h 以上、④2h 以上、⑤4h 以上）

この項目では、科目ごとに毎回の程度の予習・復習を行うかを質問している。今年度の平均値は 1.68 (昨年度 1.74、一昨年度 1.71) である。具体的には予習・復習にあてる時間が 1 時間未満の学生が 8 割以上いる。①と回答した学生が 61.26%、②と回答した学生が 19.72% (昨年度①58.72%、②20.46%) であった。

単位制度の実質化やアクティブ・ラーニングの観点からは、予習・復習を必要とする授業方法の工夫が必要となる。来年度の商学部 FD 活動の課題である。

I-4 「受講動機」（①講義要項を読んで興味を持った、②教員にひかれて、③単位が必要だから、④単位取得が楽だから、⑤この時間帯が空いていたから）

この項目は、授業を受講した動機を複数回答（最大 3 つまで）の形で質問している。

最大の受講動機は「単位が必要だから」44.86%、「講義要項を読んで興味を持ったから」13.68%、「この時間帯が空いていた」27.95%、「教員にひかれて」2.42%、「単位が楽だから」11.10%であった。

特に、「この時間帯が空いていた」という回答の高さが気になる。商学部では学業不振学生への面談指導を積極的に実施しているが、その場で成績不振の理由として「時間帯が空いていたために興味のない科目を履修し、不可という評価になってしまった」と回答する学生が多いと報告されている。履修モデルの重要性を説き、履修指導を徹底する必要がある。

I-5 「質問（オフィスアワー等）」

この項目では、授業時間以外に教員のところへ質問に行くことがあるかどうか（オフィスアワー等）を尋ねている。平均値は 1.57（昨年度 1.61、一昨年度 1.60）となっている。「①全くそう思わない」という回答が 72.42%（昨年度 71.05%）、「②そう思わない」9.39%（同 10.26%）を加えると 8 割以上の学生が授業時間以外には教員に質問しに行くことがない状況となっている。他方、「④そう思う」4.33%（昨年度 5.43%）、「⑤強くそう思う」3.41%（昨年度 3.39）という回答であった。

授業時間内に質問を受け付けている教員や、授業の直後に質問を受けている教員が多い。決して、商学部の学生の質問が少ないわけではない。この質問項目は PBL 型授業を前提としているので、質問項目を検討する必要がある。

II-1 「狙いの明確さ」

この項目は、授業の狙いや重要ポイントが明確にされているかを問う質問であり、今年度の平均値は 3.89（昨年度 4.10、一昨年度 4.01）となっている。「⑤強くそう思う」という回答が 32.85%（昨年度 42.15%）、「④そう思う」という回答が 34.56%（昨年度 32.43%）であった。「③どちらとも言えない」という回答は 24.49%であった。

商学部では教員に対してシラバスを執筆する際に、「シラバスの書き方（ティップス）」を配布しているにもかかわらず、平均値が低下している。来年度のシラバス執筆のお願いに際しても「シラバスの書き方（ティップス）」を配布しているが、来年度は書き方の徹底を確認する必要があるかも知れない。

II-2 「難易度」（①やさしすぎる、②やややさしい、③ちょうど良い、④やや難しい、⑤難しすぎる）

この項目は、授業の難易度に関する質問である。今年度の平均値は 3.52（昨年度 3.42、一昨年度 3.44）であった。「③ちょうど良い」という回答は 52.01%（昨年度 57.71%）、「④やや難しい」が 33.86%（昨年度 30.49%）であった。

平均値はやや上昇して、「ちょうど良い」という評価結果であった。

II-3 「講義要項との進み具合」

この項目は、講義要項に沿って授業が行われているかどうかを問う質問である。今年度の平均値は 3.97（昨年度 4.11、一昨年度 4.05）であった。「⑤強くそう思う」という回答が 33.79%（昨年度 40.47%）、「④そう思う」という回答が 34.02%（昨年度 32.69%）、「③どちらともいえない」という回答が 28.87%（昨年度 24.50%）であった。

平均値が低下しているのは、「シラバスの書き方（ティップス）」の効果が薄れてきたせいであろうか。

II-4 「進度」（①遅すぎる、②やや遅い、③ちょうど良い、④やや速い、⑤速すぎる）

この項目は、授業の進度に関する質問である。今年度の平均値は 3.31（昨年度 3.42、一昨年度 3.27）である。「③ちょうど良い」という回答が 68.97%（昨年度 73.78%）、「④やや速い」という回答が 21.33%（昨年度 17.72%）であった。

平均値がやや低下したが、「ちょうど良い」という評価結果である。

Ⅱ－５ 「声の大きさ」

この項目は、教員の話し方や声の聞き取りやすさについて質問している。今年度の平均値は 4.03（昨年度 4.20、一昨年度 4.14）であった。

平均値が低下しており、評価結果が少し下がっている。

Ⅱ－６ 「教材等の効果」

この項目では、教材（教科書、配布資料、パワーポイントなど）が授業内容を理解するのに有効であったかどうかを質問している。今年度の平均値は 3.94（昨年度 4.13、一昨年度 3.99）であった。「⑤強くそう思う」という回答は 37.32（昨年度 45.23%）、「④そう思う」という回答が 30.42%（昨年度 29.20%）であった。

平均値が低下しており、評価結果が少し下がっている。

Ⅱ－７ 「教室内の雰囲気」

この項目では、教室内在学にふさわしい雰囲気に保たれていたかどうかを質問している。今年度の平均値は 3.92（昨年度 4.09、一昨年度 4.03）であった。「⑤強くそう思う」という回答は 35.56%（昨年度 43.91%）、「④そう思う」という回答は 31.74%（昨年度 31.60%）であった。

平均値が低下しており、評価結果が少し下がっている。

Ⅱ－８ 「宿題・課題」

この項目では、宿題・課題等が適切に出されていたかどうかを質問している。今年度の平均値は 3.73（昨年度 3.87、一昨年度 3.78）であった。

宿題・課題を課さない科目が多いようである。PBL を導入することで上昇すると見られるが、多くの科目で宿題・課題を課すことで学生が消化不良を起こさないようにしなければならない。PBL 型授業の適正な比率を検討する必要がある。

Ⅱ－９ 「理解しやすさ」

この項目では、学生が授業内容をよく理解できたかどうかを質問している。今年度の平均値は 3.61（昨年度 3.80、一昨年度 3.75）であった。「⑤強くそう思う」という回答は 21.86%（昨年度 28.45%）、「④そう思う」という回答は 32.92%（昨年度 35.69%）であった。

平均値が低下しており、まだ 4 に届いていない。この点は来年度の商学部 FD の課題となる。

Ⅱ－１０ 「見方・考え方が深まる」

この項目では、授業を通じてものの見方・考え方が深まったかどうかを質問している。今年度の平均値は 3.67（昨年度 3.85、一昨年度 3.76）であった。「⑤強くそう思う」という回答は 23.87%（昨年度 30.31%）、「④そう思う」という回答は 33.62%（昨年度 34.59%）であった。

平均値が低下しており、まだ4に届いていない。この点は来年度の商学部FDの課題となろう。

Ⅲ 「満足度」

この項目は、授業に対する総合的な満足度を質問している。今年度の平均値は3.82（昨年度4.06、一昨年度4.00）であった。「⑤強くそう思う」という回答は29.72%（昨年度39.51%）、「④そう思う」という回答は34.23%（昨年度34.23%）であった。

平均値は低下し4を下回った。しかし、FDの目的あるいはアンケートの目的は満足度の上昇にあるのではなく、学生が深く学び、知識やスキルが定着することにつながらなければならない。商学部ではこの考えをもって来年度のFD方針・具体的計画を立てていく。

③教員身分別、学科・コース別集計結果の分析

教員所属別（講義等科目）（1）専任教員所属別と（2）講師（非常勤）所属別のアンケート結果から特徴を記述していく。

I-1の「学生の出席状況」（①40%未満、②40%以上、③60%以上、④80%以上、⑤90%以上）に関して、専任教員4.62、講師4.59であり、あまり差はない。I-2の「ノート・メモ」に関して、専任教員4.11、講師3.83であり、やや差が見られた。I-3の「予習・復習」（①0.5h未満、②0.5h以上、③1h以上、④2h以上、⑤4h以上）に関して、専任教員1.71、講師1.75であり、あまり差はない。I-5の「質問（オフィスアワー等）」に関して、専任教員1.58、講師1.56であり、差は見られなかった。

II-1の「狙いの明確さ」に関して、専任教員3.95、講師3.94であり、差は見られなかった。II-2の「難易度」（①やさしすぎる、②やややさしい、③ちょうど良い、④やや難しい、⑤難しすぎる）に関して、専任教員3.51、講師3.43であり、やや差が見られた。II-3の「講義要項との進み具合」に関して、専任教員4.01、講師4.01であり、同じ評価であった。II-4の「進度」（①遅すぎる、②やや遅い、③ちょうど良い、④やや速い、⑤速すぎる）に関して、専任教員3.30、講師3.27であり、大きな差は見られなかった。II-5の「声の大きさ」に関して、専任教員4.08、講師4.10であり、大きな差は見られなかった。II-6の「教材等の効果」に関して、専任教員4.01、講師3.98であり、大きな差は見られなかった。II-7の「教室内の雰囲気」に関して、専任教員4.00、講師3.95であり、やや差が見られ。II-8の「宿題・課題」に関して、専任教員3.77、講師3.82であり、やや差が見られた。II-9の「理解しやすさ」に関して、専任教員3.67、講師3.74であり、やや差が見られた。II-10の「見方・考え方が深まる」に関して、専任教員3.73、講師3.72であり、大きな差は見られなかった。Ⅲの「満足度」に関して、専任教員3.88、講師3.91であり、大きな差は見られなかった。

商学部専門科目（コース別）（経営コース28科目、経営情報コース17科目、流通・マーケティングコース17科目、国際ビジネス学科27科目、会計学科39科目）のアンケート結果から、特徴を記述する。

I-1の「学生出席状況」（①40%未満、②40%以上、③60%以上、④80%以上、⑤90%以上）に関して、経営コース4.58、経営情報コース4.49、流通・マーケティングコース4.60、

国際ビジネス学科 4.56、会計学科 4.63 であり、ほぼ同じような結果となった。

I-2の「ノート・メモ」に関して、経営コース 4.14、経営情報コース 3.73、流通・マーケティングコース 4.12、国際ビジネス学科 4.06、会計学科 3.99 であり、経営情報コースの値がやや低いという結果であった。科目の特徴から、ノートを取る必要がないためであろうか。

I-3の「予習・復習」(①0.5h未満、②0.5h以上、③1h以上、④2h以上、⑤4h以上)に関して、経営コース 1.64、経営情報コース 1.73、流通・マーケティングコース 1.62、国際ビジネス学科 1.76、会計学科 1.81 であり、ほぼ同じような状況であった。

I-5の「質問(オフィスアワー等)」に関して、経営コース 1.58、経営情報コース 1.70、流通・マーケティングコース 1.52、国際ビジネス学科 1.60、会計学科 1.58 であり、ほぼ同じような状況であった。

II-1の「狙いの明確さ」に関して、経営コース 3.83、経営情報コース 3.90、流通・マーケティングコース 3.90、国際ビジネス学科 4.01、会計学科 3.89 であり、ほぼ同じような状況であった。

II-2の「難易度」(①やさしすぎる、②やややさしい、③ちょうど良い、④やや難しい、⑤難しすぎる)に関して、経営コース 3.47、経営情報コース 3.58、流通・マーケティングコース 3.40、国際ビジネス学科 3.61、会計学科 3.64 であり、流通・マーケティングコースが若干やさしいという結果であった。

II-3の「講義要項との進み具合」に関して、経営コース 3.91、経営情報コース 4.02、流通・マーケティングコース 3.96、国際ビジネス学科 4.07、会計学科 3.99 であり、経営コースの結果がやや低かった。

II-4の「進捗」(①遅すぎる、②やや遅い、③ちょうど良い、④やや速い、⑤速すぎる)に関して、経営コース 3.31、経営情報コース 3.35、流通・マーケティングコース 3.27、国際ビジネス学科 3.33、会計学科 3.35 であり、ほぼ同じような状況であった。

II-5の「声の大きさ」に関して、経営コース 3.96、経営情報コース 4.16、流通・マーケティングコース 4.03、国際ビジネス学科 4.12、会計学科 3.99 であり、経営情報コースと国際ビジネス学科の結果がやや良かった。

II-6の「教材等の効果」に関して、経営コース 3.84、経営情報コース 4.09、流通・マーケティングコース 4.04、国際ビジネス学科 4.04、会計学科 3.84 であり、経営コースと会計学科がやや低い結果であった。

II-7の「教室内の雰囲気」に関して、経営コース 3.84、経営情報コース 4.03、流通・マーケティングコース 3.88、国際ビジネス学科 3.91、会計学科 4.08 であり、経営情報コースと会計学科がやや高い結果であった。

II-8の「宿題・課題」に関して、経営コース 3.69、経営情報コース 3.78、流通・マーケティングコース 3.76、国際ビジネス学科 3.77、会計学科 3.74 であり、ほぼ同じような状況であった。

II-9の「理解しやすさ」に関して、経営コース 3.58、経営情報コース 3.60、流通・マーケティングコース 3.70、国際ビジネス学科 3.66、会計学科 3.50 であり、会計学科の結果がやや良くなかった

II-10の「見方・考え方が深まる」に関して、経営コース 3.65、経営情報コース 3.67、

流通・マーケティングコース 3.77、国際ビジネス学科 3.80、会計学科 3.45 であり、会計学科の結果が低かった。

Ⅲの「満足度」に関して、経営コース 3.78、経営情報コース 3.82、流通・マーケティングコース 3.92、国際ビジネス学科 3.87、会計学科 3.68 であり、会計学科の結果がやや低かった。

学生所属別平均値・標準偏差（講義科目）（経営学科回答件数 7,170、国際ビジネス学科回答件数 2,287、会計学科回答件数 1,309）のアンケート結果から、学科別満足度（平均値）に関して特徴を記述する。経営学科所属の学生が回答した平成 23 年度から 28 年度までの満足度をみると、3.75→3.86→3.91→4.00→4.02→3.85 と推移している。同様に、国際ビジネス学科所属の学生が回答した満足度は、3.80→3.88→3.93→4.07→4.03→3.94 と推移している。会計学科所属の学生が回答した満足度は、3.83→3.82→3.88→3.94→4.04→3.85 と推移している。

（3）今後の課題

これら 2 つの満足度調査から次のことがわかる。経営学科所属の学生の今年度の満足度は 3.85 であり、経営コースの専門科目に対する満足度が 3.78 であり、経営学科としては経営コースの専門科目の満足度を上げる必要がある。同様に、会計学科所属の学生の満足度は 3.85 であるが、会計学科の専門科目に対する満足度は 3.68 であり、会計学科としては専門科目の満足度を上げる必要がある。国際ビジネス学科所属の学生の満足度は 3.94 であるが、国際ビジネス学科の専門科目の満足度は 3.87 であり、専門科目に対する満足度を上げる必要がある。

商学部では来年度、FD 活動の方針として各学科・コースにおいてゼミナール教育をさらに充実させ、状況に応じて PBL 型の授業を導入するなどの工夫をしたい。このような教授団（ファカルティ）の継続的な改善への取り組みによって、学生が学修に関心を持ち、積極的に学修することで自分の学修態度に対する満足度を上げ、深く学んで最終的にはビジネスシーンで実際に役立つ知識とスキルを身につけてもらいたい。

以 上

2. 政経学部

(1) 実施状況

教員の授業改善に役立たせることおよび本学の教育の質の向上を図ることを目的として、2016年6月20日から7月13日までを実施期間（予備日として、2016年7月14日から7月20日）として、授業改善のための学生アンケートを行った。なお、対象科目は、各専任教員の担当科目のうち、主要担当科目または履修登録者数の多い科目（原則として履修登録者20名以上のもの）の中から2科目程度を選択し実施することとし、講師（非常勤）の場合は、1科目以上とするというものである。

政経学部専任教員54名の実施率は100パーセント、また、政経学部所属非常勤講師113名の実施率は、同じく100パーセントであり、上記政経学部FD方針が各教員において完全に理解されているものと評価することができる。なお、アンケート調査の実施科目数は、専任教員担当分で116科目、また講師(非常勤)全体では167科目であった。従って、アンケート対象となった科目総数は283となる。

学生のアンケート回答数(延べ人数)は、1年生が3,701人(2015年度は3,875人、2014年度は3,010人、2013年度は3,116人)、2年生が3,346人(2015年度は2,917人、2014年度は2,446人、2013年度は3,450人)、3年生が2,844人(2015年度は2,426人、2014年度は2,415人、2013年度は3,047人)、4年生が945人(2015年度は933人、2014年度は916人、2013年度は1681人)であった。学年を回答しなかった34人を含めて合計10,870人(2015年度は10,185人、2014年度は8,815人、2013年度は11,330人)の学部学生がアンケートに回答したことになる。

(2) 集計結果の分析

①概要

(a) まず、政経学部専門科目の過去4年間の数字と平均値を以下に列挙する。

2012 後期 2013 前期 2014 後期 2015 後期 2016 前期

学生の姿勢

出席状況	4.45	4.43	4.42	4.41	4.53
ノート	3.97	3.97	3.94	3.97	4.11
予習・復習	1.72	1.69	1.63	1.69	1.82
授業外質問	1.53	1.54	1.51	1.51	1.59

授業内容

	2012 後期	2013 前期	2014 後期	2015 後期	2016 前期	2016-15	2016-12 平均
狙いの明確さ	4.03	3.91	4.03	4.01	3.96	-0.05	3.99
講義要項	4.08	4.00	4.06	4.04	4.01	-0.03	4.04
話し方	3.97	4.04	4.13	4.13	4.05	-0.08	4.06
教材等	4.02	3.93	4.05	4.03	3.99	-0.04	4.00
教室の雰囲気	4.19	4.02	4.13	4.04	3.99	-0.05	4.07

宿題・課題	2.40	3.59	3.69	3.74	3.75 +0.01	3.43
理解の程度	3.63	3.58	3.73	3.73	3.69 -0.04	3.67
考え方の深化	3.70	3.70	3.81	3.79	3.75 -0.04	3.75
満足度	3.43	3.86	4.02	4.00	3.91 -0.09	3.84
授業の難易度	3.46	3.51	3.44	3.44	3.52 +0.08	3.47
授業の進度	3.21	3.27	3.23	3.25	3.30 +0.05	3.25

※「授業の難易度」と「授業の進度」を除き、5 強くそう思う、4 そう思う、3 どちらとも言えない、2 そう思わない、1 全くそう思わない。

※「授業の難易度」は、5 難しすぎる、4 やや難しい、3 ちょうど良い、2 やややさしい、1 やさしすぎる。「授業の進度」は、5 速すぎる、4 やや速い、3 ちょうど良い、2 やや遅い、1 遅すぎる。

(b) この表から、授業内容について、単純に、以下の点を指摘することができる。

・昨年度と比べて改善した項目

「宿題・課題」。

・昨年度と同じポイントだった項目

なし。

・昨年度よりも下がった項目

「狙いの明確さ」、「講義要項」、「話し方」、「教材等」、「教室の雰囲気」、「理解の程度」、「考え方の深化」、「満足度」、「授業の難易度」、「授業の進度」。このうち、2012 年度から 2016 年度の平均値と比較したとき、ポイントが下がっていないのは、「宿題・課題」、「理解の程度」、「考え方の深化」、「満足度」である。

(c) もとより、統計上言えることは、全体の傾向であって、個別の特殊事情を反映するものではない。また、授業内容の評価について言えば、評価主体が毎年変わるという問題を無視することはできず、学生側の要因も考慮しなければ、正確な評価を下すことはおよそ不可能である。従って、あまり細かな数字の変動に一喜一憂することには特段の意味を見出し得ないように思われる。しかし、FD 活動とは、教員自らが不断に自己の教育能力を顧み、授業力を高めることによって、学生の学習意欲と学習能力の向上を図ることを目的とするものであるから、全体の傾向として、授業内容について学生の評価が下がっている項目については、教員として、これを真摯に受け止める必要がある。なお、いずれの項目についても、5 段階で評価がなされているところ、平均値が 4.00 を超える項目は、それ自体、一定の評価に値すると言えるであろうことも付言する必要がある。

②個別項目

(a) 学生の姿勢

I-1 「学生の出席状況」

授業に 80%以上出席しているとの回答は 87.81%であった。2015 年度の 85.68%、2014

年度の 86.32%、2013 年度の 86.10%、2012 年度の 86.71%と比較して、遜色のない数字である。アンケート回答者の 8 割 8 分近くの学生が 8 割以上、授業に出席しているということになる。

政経学部では、既に学部の方針に沿って、各教員が可能な限り出席を採るよう努めているが、それとは別に、学生の自覚を高め、出席への動機付けを与える工夫が必要である。

なお、アルバイトや就職活動、部活動等、学生の出席状況を阻害する要因があるとすれば、全学的な考察が求められるであろう。

I-2 「ノート・メモをとっているか」

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた数字は、70.44%であった。なお、2015 年度は 69.99%、2014 年度は 69.54%、2013 年度は 70.62%、2012 年度は 71.86%であった。他方、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計は、10.14%であった。なお、2015 年度は 10.12%、2014 年度の 11.68%、2013 年度の 10.44%、2012 年度の 10.62%であった。

授業によっては、毎回、レジュメを配布するものもあるなど、ノートやメモを取らない理由には様々なものが考えられる。しかし、本学部の学生の実情に鑑みると、少なくとも、「そう思わない」と「全くそう思わない」と答えた学生の数字をさらに減少させることが必要であろう。

I-3 「どのくらいの予習・復習をしているか」

今年度の数字は、4 時間以上 (=5) が 4.31%、2 時間以上 (=4) が 3.56%、1 時間以上 (=3) が 13.22%、30 分以上 (=2) が 22.00%、30 分未満 (=1) が 56.91%であった。

なお、政経学部の平均 1.76 を文系他学部と比較すると、商学部は 1.68、外国語学部は 2.09、国際学部は 1.88 であった。

一般的に言って、予習・復習の時間数が少ないことは、それだけ理解の定着が損なわれるものと考えられるから、少しでも授業時間外の学習時間を増やすよう指導する必要がある。

I-4 「受講した動機 (複数回答可)」

「講義要項を読んで興味を持った」は、2016 年度が 16.9%、2015 年度が 27.29%、2014 年度が 28.14%、2013 年度が 32.39%、2012 年度が 32.25%。「教員にひかれて」は、同 2.8%、14.59%、13.82%、12.84%、13.22%。「単位が必要」は、同 38.9%、37.43%、36.82%、36.41%、34.08%。「単位取得が楽」は、同 11.8%、3.94%、3.55%、2.03%、2.91%。「時間帯が空いていた」は、同 29.6%、16.75%、17.67%、16.33%、17.53%。

この項目では、講義要項の役割が低下していることが気になる。教員には講義要項の内容を毎年度、精査することが求められるが、他方、学生に対しても、履修手続の際に、講義要項の内容を参照するようさらなる指導が必要であろう。なお、「教員にひかれて」受講した学生の割合が大幅に減少しているのは、今年度は前期中にアンケートが行われたことが最も大きな要因と考えられる。

I-5 「授業時間外の教員への質問」

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた数字は、7.68%であった。他方、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計は、81.70%であり、2015年度の83.82%、2014年度の83.51%、2013年度の82.27%、2012年度の83.09%と比較すると、減少している。

本学部では、全教員がオフィス・アワーを設けている。学生教員比率の高い本学部においては、授業時間以外の教員との接触をより活性化し、人間関係をより一層緊密にすることがより良い教育を行う要因となるとの観点から、オフィス・アワーの意義を周知徹底する必要がある。

(b) 授業内容

II-1 「授業の狙いは明確か」

「強くそう思う」と「そう思う」と回答した者の割合は、2016年度が67.54%、2015年度が71.46%、2014年度が71.98%、2013年度が68.52%、2012年度が73.44%、2011年度が68.30%であった。

授業の狙いは、講義要項に明確に示されるが、各教員は、それに沿った授業を展開する必要がある。他方、学生の側にも、問題意識を明確に持ち、その授業から何を求めるのかを自覚的に迫る姿勢が求められよう。

II-2 「授業の難易度」

「ちょうど良い」との回答が50.52%であり、2015年度の55.44%、2014年度の55.18%、2013年度の51.26%、2012年度の53.87%と比較すると減少している。他方、「難しすぎる」と「やや難しい」を合わせた割合は46.32%であり、2015年度の40.72%、2014年度の40.94%、2013年度の45.26%、2012年度の42.31%から、増加している。

学生の能力に見合った授業を行うことは、今日の大衆化した大学において教育を行う際の最も重要な要素の一つであるものと考えられる。その観点からすると、難しいと感じる学生が5割近く存在することは、強く留意されなければならない。各教員にあっては、授業内容の精査を行うことが喫緊の課題となっている。

II-3 「講義要項に沿って授業が行われているか」

2015年度の項目全体の平均値は、3.99であり、2015年度の4.04、2014年度の4.06、2013年度の4.00、2012年度の4.08と同様、若干の減少は見られるものの、依然、高い数値を保っている。なお、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた回答の割合は、2016年度が68.18%、2015年度が70.66%、2014年度が71.86%、2013年度が69.40%、2012年度が73.49%であった。また、「全くそう思わない」と「そう思わない」の合計は、2016年度が3.30%、2015年度が2.64%、2014年度が2.42%、2013年度が3.19%、2012年度が2.37%であった。

II-4 「授業の進度」

「ちょうど良い」は、2016年度が68.20%、2015年度が72.00%、2014年度が71.90%、2013年度が70.26%、2012年度が73.23%であった。「速すぎる」と「やや速い」を合わせ

た回答は、同 28.02%、24.05%、23.49%、25.93%、22.12%、「やや遅い」と「遅すぎる」は、同 3.79%、3.95%、4.61%、3.81%、4.66%であった。

授業の適切な進度が学生のより良い理解に資することは言うまでもない。数字としては、概ね良好と考えるが、学部教員の一層の努力が望まれよう

Ⅱ－５ 「聞き取りやすいか」

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は、2016 年度が 70.29%、2015 年度が 75.19%、2014 年度が 75.41%、2013 年度が 72.43%、2012 年度が 75.30%であった。

授業で教員が何を言っているのかがわからなければ、授業に出る効果は減じられ、ひいては出席そのものが覚束なくなる。ここでも教員の一層の努力が求められる。

Ⅱ－６ 「教材等は授業の理解に有効か」

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた数字は、2016 年度が 67.98%、2015 年度が 70.24%、2014 年度が 72.05%、2013 年度が 67.15%、2012 年度が 73.35%であった。7 割前後で推移している。更なる努力が求められよう。

Ⅱ－７ 「教室内は学習にふさわしい雰囲気か」

この設問に「強くそう思う」と「そう思う」と回答した者を合わせた数字は、2016 年度が 67.58%、2015 年度が 76・85%、2014 年度が 75.84%、2013 年度が 71.57%、2012 年度が 75.23%であった。他方で、「全くそう思わない」と「そう思わない」と答えた不満組は、2016 年度が 8.09%、2015 年度が 6.78%、2014 年度が 5.29%、2013 年度が 6.36%、2012 年度が 6.70%であった。

授業に出席している学生に対して、少しでも良好な教育環境を維持することは、授業を担当する各教員の重大な責務であると言えよう。私語等がないように注意を払い、やる気のある学生の意欲を削ぐことがないよう最善の努力をすべきである。

Ⅱ－８ 「宿題・課題が適切か」

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた回答の割合は、2016 年度が 53.14%、2015 年度が 55.70%、2014 年度が 53.49%、2013 年度が 49.17%、2012 年度が 47.95%であり、一貫して 5 割前後である。教員の間で、宿題・課題を与えて、授業時間以外の学習を促そうとする工夫が広く行われるようになっていることの表れであろうと考えられる。

Ⅱ－９ 「理解しやすいか」

項目全体の平均値をみると、2016 年度が 3.61、2015 年度が 3.72、2014 年度が 3.73、2013 年度が 3.58、2012 年度が 3.63 であった。妥当なレベルであると考えられる。

また、「強くそう思う」あるいは「そう思う」と答えた「理解しやすかった」と評価している学生層の割合は、2016 年度が 55.34%、2015 年度が 60.00%、2014 年度が 61.66%、2013 年度が 54.76%、2012 年度が 57.16%であった。数字の若干のばらつきが見られるが、概ね、教員による授業改善努力が表れているものと評価できよう。

II-10 「見方・考え方が深まる」

「強くそう思う」と「そう思う」と回答した者は、2016年度が57.95%、2015年度が62.18%、2014年度が63.99%、2013年度が59.02%、2012年度が60.40%であった。

6割強の学生が授業を通じてものの見方や考え方が深まったと答えていることになる。これは、教員が、学生の知的好奇心を刺激し続ける授業を工夫していることの表れであろうと考えられる。他方、「全くそう思わない」と「そう思わない」との回答は、2016年度が9.77%、2015年度が7.66%、2014年度が7.21%、2013年度が9.64%、2012年度が9.87%と比較的、低位で推移している。

III 「総合的な満足度」

この設問に「強くそう思う」と「そう思う」と答え、授業満足度が高い学生の割合はあわせて64.54%であった。2015年度の71.47%、2014年度の73.37%、2013年度の66.19%、2012年度の69.86%と比較すると、やや物足りない感があることも否めないが、概ね、合格点に達しているものと考えられる。7割近くの学生が、政経学部の専門科目の授業内容に満足しているとの結果が得られていることは、一定の評価に値するものと思われる。

他方、2016年度の平均値を文系他学部と比較すると、政経学部は3.86であるのに対して、商学部は3.82、外国語学部は4.13、国際学部は4.06となっている。この差異をどのように説明するかは、多面的な考察を要するものと思われるが、一般に、満足度は、授業の規模（履修登録者数）によっても影響を受けるとの指摘もあるところである。そうであるとする、政経学部は特に外国語学部、国際学部と比べて、教員あたりの学生数が多く、大規模授業が多くなる傾向があり、その中で満足度を改善していくことはより一層の努力を要するであろうと考えられる。

(3) 今後の課題

過去のアンケート結果との比較から、授業内容について、昨年度より数字の下がった項目が9つ、同じだった項目が1つある。ほとんどすべての項目において、残念ながら、数値が悪化したことは、しばしば言われているように、アンケートの時期によるのかもしれない。即ち、アンケート対象の授業の中には、もちろん新生が入講する授業もあるところ、新生にとっては、未だ大学の授業に慣れていない側面があることは容易に推測できるところである。しかし、各教員においては、この結果を真摯に受け止め、来年度に向けて、授業改善を図ってゆく必要がある。もっとも、過去5年間の傾向を考慮すると、特に反省を要すると思われるのは、「話し方」（「話し方や声は聞き取りやすいですか」）の項目である。教室内での発話がはっきりと聞き取れないのでは、学生の理解度が高まるはずはない。授業内容の改善だけでなく、この点についても、各教員のたゆまぬ努力が求められる。また、昨年も指摘した「教室等の雰囲気」については、改善が見られていない。「教室の雰囲気」（「教室内は学習にふさわしい雰囲気に保たれていますか」）が次第に悪化する傾向にあるということは、大変由々しい問題である。昨年指摘した点をここに再説すれば、文京キャンパスへの移転に伴い、学部を挙げて学生の学士力向上のための様々な取り組みが図られているところ、肝心要の教室の雰囲気が学習にふさわしくないというのでは、大学教員としては恥ずべきことであろう。学部教員の注意を喚起し、教室の学習環境を向上

させる方策を工夫する取り組みが求められると言うべきである。なお、「宿題・課題」について、過去 5 年間、数字が一貫して向上していることは、教員の意識改革の表れとして、これを高く評価することができるであろう。

大学の評価は、いかに学生を育てることができるかにかかっている。授業の内外を通じて学生から寄せられる声を真摯に受け止め、学部および大学として、学生の期待に応えられる教育を行い、また、教育環境を整備することが求められる。FD 活動の意義を再確認し、今後ともより良い授業を行うために役立てることとしたい。なお、教育に携わる者は、とりわけ高い倫理感と高潔性を有することが求められる。自己の利益や保身のために行動していると他者から指弾されることのないよう、私立大学の教員としても、常に自戒することが求められていることを、この際、改めて確認したい。

以 上

3. 外国語学部

(1) 実施状況について

今年度「授業改善のための学生アンケート」を実施した外国語学部教員は、専任教員（特別非常勤講師を含む）が40名、講師（非常勤）が40名であった。実施率は、専任教員、講師（非常勤）ともに100%であった。例年、100%あるいは100%に近い実施率が続き、外国語学部教員の中にFD活動への積極的な意識が根付いていると言える。

実施科目数は、専任教員は78、講師（非常勤）は72で、合計150であった。その内訳は、外国語学部専門科目が102、政経学部専門科目が1、教養科目・総合教育科目が11、外国語科目が28、教職・社教・日語科目が6、ゼミ・外書講読が2である。

アンケート回答数（延べ人数）は、1年が1,260名、2年が1,009名、3年が515名、4年が107名、無回答（学年・学科を記していないもの）が17名で、合計2,908名であった。

(2) 集計結果とその分析

①学科目別（講義等科目）

大学全体の集計結果と比較しながら、外国語学部の集計結果を見ていく。

「外国語学部専門科目」に対する評価を設問項目別に数値で見えていくと、次のようなことがわかる。

I-1 「学生の出席状況」の平均値は4.61で、大学全体の中で2番目に高い数値である（1位は工学部専門科目の4.62）。

I-2 「ノート・メモ」の平均値は4.04で、大学全体の平均値3.94よりやや上回っている。

I-3 「予習・復習」の平均値は2.09で1.97で、大学全体の専門科目の中では最も高い数値であり、昨年の1.97よりはやや上昇したが、外国語の習得を志す学生としては不十分であろう。

I-5 「質問（オフィスアワー等）」は1.56で、大学全体の平均値1.61よりやや低い。外国語学部の専門科目において、疑問点が生じれば言葉の問題であるため、オフィスアワーを待たず、即座に教室の中で質問して解決しようとするからであろう。

II-1 「狙いの明確さ」は4.12で、大学全体の専門科目の中では最も高い。

II-3 「講義要項との進み具合」は4.18で、これも「狙いの明確さ」同様、大学全体の専門科目の中では最も高い。

II-5 「声の大きさ」は4.27で、大学全体の専門科目では最も高く、この5年間安定して高い数値を示している。

II-6 「教材等の効果」は4.14で、これも大学全体の専門科目の中では最も高い。

II-7 「教室内の雰囲気」は4.21で、これも大学全体の専門科目の中では最も高く、良好な環境の中で授業が行われていることがわかる。

II-8 「宿題・課題」は4.05で、他学部の専門科目の数値が3点台にあることに比較すると高い数値を示している。

II-9 「理解しやすさ」は4.02で、これも他学部の専門科目の数値が3点台にあることに比較すると高い数値を示しており、更に大学全体として「ゼミ・外書講読」に次いで2番目である。

II-10 「見方・考え方が深まる」は 3.87 で、大学全体の平均値 3.75 をやや上回る数値である。

III 「満足度」は 4.13 で、「キャリア科目」「ゼミ・外書講読」に次いで大学全体の中では 3 番目に高い。

II-2 「難易度」と II-4 「進度」は、上記の項目と異なり、評価が 3 になる回答が好ましいと判断されるが、それぞれ、3.38 と 3.18 であり、大学全体の平均値がそれぞれ 3.45 と 3.27 であることに比較すると 3 に近い良好な数字となっている。

以上の集計結果により、外国語学部の教育にとって特に重要だと思われる項目、「狙いの明確さ」「声の大きさ」「教材等の効果」「教室内の雰囲気」「理解しやすさ」などは、学生たちから比較的高い評価を受けていることがわかる。

また、外国語においてはさまざまなレベルの学生がいるため、高い評価を受けるのが難しいと思われる「難易度」と「進度」についても、概ね良好な評価を得ている。

総合評価とも言える「満足度」も 4.13 で良好な数値ではあるが、教員としてはさらに「満足度」を上げる努力を怠ってはならないだろう。

②教員所属別評価

[専任教員に対する評価]

専任教員（教授、准教授、助教、特別非常勤講師）に対する評価では、I-1 「学生の出席状況」が 4.69(全体 4.59)、I-2 「ノート・メモ」が 4.12(全体 3.94)、I-3 「予習・復習」が 2.10(全体 1.80)、I-5 「質問（オフィスアワー等）」が 1.56(全体 1.61)、II-1 「狙いの明確さ」が 4.26(全体 3.95)、II-3 「講義要項との進み具合」が 4.28(全体 4.01)、II-5 「声の大きさ」が 4.38(全体 4.07)、II-6 「教材等の効果」が 4.26(全体 3.99)、II-7 「教室内の雰囲気」が 4.30(全体 4.00)、II-8 「宿題・課題」が 4.11(全体 3.81)、II-9 「理解しやすさ」が 4.12(全体 3.73)、II-10 「見方・考え方が深まる」が 4.02(全体 3.75)、III 「満足度」が 4.27(全体 3.92) であり、全ての項目で平均値を超えていた。以上の中でも「学生の出席状況」、「ノート・メモ」、「予習・復習」、「狙いの明確さ」、「講義要項との進み具合」、「声の大きさ」、「教材等の効果」、「教室内の雰囲気」、「宿題・課題」、「理解しやすさ」、「満足度」において大学全体の中で最も高い評価を受けている。また、3 の回答が適切であるという II-2 「難易度」と II-4 「進度」は、それぞれ 3.35(全体 3.45)、3.18(全体 3.27) であり、大学全体の中で最も 3 に近く、良好な評価を受けていると言えよう。

[講師（非常勤）に対する評価]

講師（非常勤）に対する評価では、I-1 「学生の出席状況」が 4.56(全体 4.59)、I-2 「ノート・メモ」が 3.88(全体 3.94)、I-3 「予習・復習」が 1.84(全体 1.81)、I-5 「質問（オフィスアワー等）」が 1.54(全体 1.61)、II-1 「狙いの明確さ」が 3.93(全体 3.95)、II-3 「講義要項との進み具合」が 4.01(全体 4.01)、II-5 「声の大きさ」が 4.07(全体 4.07)、II-6 「教材等の効果」が 3.97(全体 3.99)、II-7 「教室内の雰囲気」が 4.00(全体 4.00)、II-8 「宿題・課題」が 3.87(全体 3.81)、II-9 「理解しやすさ」が 3.76(全体 3.73)、II-10 「見方・考え方が深まる」が 3.68(全体 3.75)、III 「満足度」が 3.92(全体 3.92)

であり、ほぼ全ての項目で平均もしくは平均値をやや下回っていた。「難易度」「進度」については大学全体の平均よりも3から離れている。

専任教員の授業への評価がこの数年高くなっているのに比べ、講師（非常勤）の授業への評価は大学全体の中でやや低い位置にあるようである。大学全体でも、専任教員の方が講師（非常勤）より満足度が高くなっているが、外国語学部ではその傾向が若干強く現れていると言える。今後も、専任教員と講師（非常勤）は連携を密にしながら、より効果的な外国語教育ができるよう、さらに努力を重ねていかなければならないだろう。

③学生所属別評価（講義科目）

学科別の分析

講義科目に関する学生アンケートの回答を学科別に取り上げる。

I-1 「学生の出席状況」

学科別の平均値は、英米語 4.71、中国語 4.54、スペイン語 4.59 で、出席状況は概ね良好に見えるが、外国語習得のためには更なる積極的な出席を期待したい。

I-2 「ノート・メモ」

学科別の平均値は、英米語 3.95、中国語 4.09、スペイン語 4.05 で、いずれの学科も大学全体の平均値 3.94 よりもやや高い。外国語学部は会話の授業など、ノートやメモを取らない授業もあるので一概に必要なとは言えないが、講義形式の授業においては適切に取るように教授する必要がある。

I-3 「予習・復習」

学科別の平均値は、英米語 1.88、中国語 1.84、スペイン語 1.89 で、大学全体の中では高い。しかし、外国語学部の学生たちは、言語習得といった他学部の学生たちよりずっと予習・復習に時間をかけなければならないため、改善の必要があるだろう。

I-5 「質問（オフィスアワー等）」

学科別の平均値は、英米語 1.36、中国語 1.58、スペイン語 1.59 だった。他項目と比較すると、いずれもそれほど高くない。英米語学科は大学全体の平均値より低くなっているが、おそらくオフィスアワーではなく、授業内もしくは授業直後に質問する学生が多いからであろう。

II-1 「狙いの明確さ」

英米語 4.08、中国語 4.00、スペイン語 4.21 であり、いずれの学科も4点台を超えており良好である。

II-3 「講義要項との進み具合」

昨年度も高い数値だったが、今年度も英米語 4.14、中国語 4.13、スペイン語 4.26 で、他学科と比較すると最も高い数値を外国語学部の学科が占めているといえる。換言すれば、外国語学部では、例年に続き適切な授業運営が行われていると言える。

II-5 「声の大きさ」

毎年、外国語学部が特に高い評価を受けている項目である。今年度も、英米語 4.23、中国語 4.13、スペイン語 4.31 であり、最も高い数値を外国語学部の学科が占めている。

II-6 「教材等の効果」

この項目も、外国語学部の三学科は毎年比較的高い評価を受けている。今年度は、英米

語 4.15、中国語 4.00、スペイン語 4.19 だった。なおスペイン語学科は全学科の 1 位であった。

II-7 「教室内の雰囲気」

この項目も、毎年良い評価が得られている。今年度は、英米語 4.11、中国語 4.07、スペイン語 4.25 であり、スペイン語学科は全学科の 1 位であった。

II-8 「宿題・課題」

平成 25 年度以降徐々に数値が高くなり、今年度も、英米語 3.93、中国語 3.95、スペイン語 4.04 といったかなり高い値を示した。しかしながら、語学学習が主となる外国語学部としては、さらに工夫が必要であろう。

II-9 「理解しやすさ」

この項目でも、外国語学部は毎年比較的高い評価を受けている。今年度の平均値は、英米語 3.97、中国語 3.83、スペイン語 4.08 だった。適切に教授できていることがわかる。

II-10 「見方・考え方が深まる」

学科別の平均値は、英米語 3.86、中国語 3.77、スペイン語 3.95 で、最近 5 年間同様の平均値よりやや高い数値が付けられている。

III 「満足度」

この項目も最近 5 年間安定して高い評価が得られている。今年度の学科別の平均値は、英米語 4.07、中国語 3.99、スペイン語 4.23 だった。スペイン語学科の満足度は昨年引き続き学内トップだったが、これは、初年次教育をはじめ、いくつものきめ細かい指導が、学生たちに好ましい印象を与えていると考えていだろう。「満足度」という項目は、授業に対する総合評価でもあるので、外国語学部の教育は学生たちから概ね良い評価を得ていると言える。

II-2 「難易度」

3 に近いほど良い値だと言われているこの項目における今年度の学科別の平均値は、英米語 3.34、中国語 3.50、スペイン語 3.34 だった。最も適切だと考えられる数値 3 から大きく逸脱しない結果となり、三学科とも概ね良好な評価を得ている。

II-4 「進度」

3 に近いほど良い値だと言われているこの項目における今年度の学科別の平均値は、英米語 3.16、中国語 3.27、スペイン語 3.19 だった。最も適切だと考えられる数値 3 に近く、三学科とも良好な評価を得ている。

④ 学科目別の回答分析

外国語学部専門科目に対する回答の分析

各設問に対し、学生たちは①～⑤の段階で評価している（最高値は⑤、ただし「難易度」と「進度」は③が適切とされる）。どの項目で、満足のいく数値⑤や④が多くつけられているだろうかについて中心に見ていく。

I-1 「学生の出席状況」は、⑤が 70.31%と最も多く、次いで④の 21.17%となっている。

I-2 「ノート・メモ」は、⑤が 44.34%と最も多く、次いで④の 28.14%となっている。昨年度より、⑤④と回答した数値がともに増えている。

I-3 「予習・復習」は、①が 37.50%と最も多く、次いで②の 28.89%となっており、④は 6.83%、⑤は 2.89%と値が低い。予習・復習をしないで授業に臨む学生の姿が伺える。

I-4 「受講した動機」は、③「単位が必要だから」が 57.18%と最も多く、次いで⑤「時間帯が空いている」の 24.90%となっている。必修科目の時間的制限があるためやむを得ないが、受動的な動機により受講する学生が多いようだ。

I-5 「質問（オフィスアワー）」は、①が 71.77%が最も多く、②が 11.97%、③9.85%がほぼ同割合となっている。

II-1 「狙いの明確さ」は、⑤の 44.33%が最も多く、次いで④の 32.74%となっている。

II-2 「難易度」は、③の 58.77%が最も多く、次いで④の 31.11%となっている。

II-3 「講義要項との進み具合」は、⑤の 45.91%が最も多く、次いで④の 29.91%となっている。

II-4 「進度」は、③の 76.38%が最も多く、次いで④の 15.67%となっている。

II-5 「声の大きさ」は、⑤の 54.49%が最も多く、次いで④の 26.05%となっている。

II-6 「教材等の効果」は、⑤の 46.29%が最も多く、次いで④の 28.89%となっている。

II-7 「教室内の雰囲気」は、⑤の 49.61%が最も多く、次いで④の 28.84%となっている。

II-8 「宿題・課題」は、⑤の 42.53%が最も多く、次いで④の 28.42%となっている。

II-9 「理解しやすさ」は、⑤の 37.31%が最も多く、次いで④の 35.58%となっている。

II-10 「見方・考え方が深まる」は、⑤の 32.60%が最も多く、次いで④の 31.92%となっている。

III「満足度」は、⑤の 45.42%が最も多く、次いで④の 30.77%となっている。

以上のことから、外国語学部全体としては、多くの項目で概ね良好な評価を得ていることがわかる。

⑤学部設問項目

昨年度同様、今回のアンケートに外国語学部が独自に入れた設問項目は、次の2つである。

IV-1 「この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか」

IV-2 「このクラスの学生数は適切ですか」

「この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか」に対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.38、講師（非常勤）の授業では 4.22 の数値であった。

「このクラスの学生数は適切ですか」に対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.41、講師（非常勤）の授業では 4.22 であった。前年とほぼ同じ値で、概ね良好な結果と言えよう。

以上の2項目は、少人数教育を中心とした外国語の授業で効果的に授業が行われる環境が整っているかどうかをチェックする重要な設問であるが、今年度も学生側からは満足できる評価が得られていると考えられる。

（3）授業改善に向けての今後の課題

以上、「平成 28 年度授業改善のための学生アンケート」の集計結果を分析してきたが、今年度も外国語学部の数値は全般にわたって比較的安定した高い水準を維持していると言える。

「声の大きさ」、「理解しやすさ」、「狙いの明確さ」など、外国語教授法の基本となる部分

について、教員たちが工夫を重ね、それぞれの授業の中で実践し続けていることが、学生たちから良い評価を受けることにつながっていると思われる。

少人数の授業が比較的多い外国語学部の授業では、授業時間内だけでなく、休み時間を利用して研究室に足を運び、教員の指導を受けている学生の姿は以前からよく見かけられる。しかし、その一方で、I-5「質問（オフィスアワー等）」の平均値はあまり高くはない。一部の学生はよく質問するが、それが全体的な流れになっていないということも考えられる。より多くの学生が自発的に学べるような環境をさらに整えていく必要があるだろう。

外国語学部の学生の満足度が高いのは、授業中だけでなく、留学相談、資格試験対策、就活相談、外国語弁論大会など、多方面で懇切丁寧な教育指導が行われていることとも関連があるだろう。今後も、教室内外でこうしたきめ細かな指導を続けることが、学生たちの力をさらに伸ばすことにつながるはずである。

現在、外国語学部が抱える最も大きな課題は、年々広がる学力差を前にして、どのように効果的な授業を行うかである。それに対応するために、授業の工夫が以前にも増して求められている。外国語学部では、能力別のクラス編成によって、より学習効果が上がる体制は三学科とも一応整っている。しかし、それだけでは十分でなく、教員たちは絶えず学生の習熟度や学習到達度を細かくチェックする必要があり、教員間の連携も重要である。

学生たちの学力差の問題は、今後も続くと思われる。外国語学部であるため、海外からの帰国子女や親などに当該言語のバックグラウンドがあり幼少時からその言語に親しんできた学生と 0 スタートの学生が混在する授業においては、授業の内容や進め方について新たな試みが必要かもしれない。

来年度もさらに試行錯誤しながら、授業の内外を通じて寄せられる学生の意見を真摯に受け止め、より良い教育の実践に努めていきたいと考える。

以上

4. 工学部

(1) 授業アンケートの実施状況

全学的取組としての授業アンケートを一昨年度と昨年度は後期に実施したが、今年度は前期（平成28年6月20日～7月13日、予備日：平成28年7月14日～7月20日）に実施した。

実施教員数は、専任教員51名中51名全員、講師（非常勤）52名中52名全員であり、これまで通り100%の実施率であった。なお、昨年度に比べて専任教員が4名少なく、講師（非常勤）が3名多かった。

主要担当科目または、履修登録者数が20名以上の授業を実施対象科目とした結果、実施科目数は167科目（昨年度は160科目）、アンケート回答数（延べ人数）は6801名（昨年度は6,003名）であった。

実施科目数は昨年度よりも7科目多く、アンケート回答数（延べ人数）は800名程増加した。前期科目は履修者数が後期科目に比べて多いことが影響しているものと考えられる。多くの学生に回答してもらうためには前期科目が適していると言える。

授業アンケートを実施した167科目の内訳は、専門（講義）科目が91科目（昨年度も91科目）、専門（実験・実習・演習）科目が35科目（昨年度は29科目）、教養科目が6科目（昨年度は8科目）、外国語科目が28科目（昨年度は26科目）、スポーツ・トレーニング科目が4科目（昨年度は2科目）、教職科目が3科目（昨年度は4科目）である。昨年度と比較すると、専門科目（講義科目）は変化無く、実験・実習・演習科目が6科目増加した。

実施率が100%で推移していることは、授業改善に役立つデータを得る有効な手段として「学生による授業アンケート」が定着していることを示している。今後もアンケートの分析結果を具体的にいかに授業改善に結びつけるかが重要であるが、一昨年度と昨年度は後期科目を対象に授業アンケートを実施したのに対して、今年度は前期開講科目を対象に授業アンケートを実施したことから、1年間を通した授業改善結果を検証できるだけの資料が揃ったと考える。

以下、全体集計結果に基づき、工学部の専門科目に対する授業アンケート結果を分析し、所見を述べ、実施目的が達成できたかという視点から今後の課題を指摘して総評としたい。

(2) 全体集計結果に基づく授業アンケート結果の分析

工学部のディプロマ・ポリシーでは、産業界で活躍できる人材、新しい技術やサービス、デザインを創造できる人材の育成を目指すとされている。事実、工学部卒業生のほとんどが製造業や技術分野のサービス業、デザイン分野に就職するため、在学中から技術者やデザイナーとしての実践力養成が重要となる。そのため工学部の専門科目（学科別専門科目と基礎専門科目）には、実験・実習・演習科目が多い。以下、昨年度までと同様に、各アンケート項目について考察する。

I. 受講の姿勢や動機

受講の動機は「単位が必要」という理由の次が「時間が空いていたから」との回答が多い。アルバイトや部活動で早起きできないために1時限目の授業を履修しない、あるいは5

時限目の授業を履修するとアルバイトできないから履修しないなど、学業よりも私生活のスケジュールを優先する学生がいて、講義内容をシラバスで確認して、自分にとって必要であるから履修するという積極的履修学生が少ない状況には変化がない。本学だけの問題ではないが、単位制度の実質化に取り組むべき時期に来ている。

① 学生の出席状況（設問 I - 1）

工学部専門科目（講義）では4.62で昨年度から大きな変化はなく、これは一昨年度とも同じで全学で最も高い値である。工学部では出席確認をしっかりと行うよう申し合わせており、学生にも周知されている。

学科別では、機械システム工学科が4.69で昨年度よりも -0.04 、電子システム工学科が4.74で昨年度よりも $+0.02$ 、情報工学科が4.50で昨年度より -0.05 、デザイン学科が4.55で昨年度よりも $+0.06$ であり、4学科とも出席状況は良好である。

② ノート・メモ（設問 I - 2）

指定された教科書を購入せず、ノートすら持たずに講義に参加している学生は今でも少数ながら見受けられる。しかし、工学部専門科目（講義）の値は3.76であり、決して低い値ではなく、昨年度よりも改善している。学科別では機械システム工学科が3.86と昨年度に続いて最も高く、情報工学科が3.56で最も低かった。昨年度に最も低かったデザイン学科は3.71で改善している。

なお、工学部のメディア学系（情報工学科・デザイン学科）の授業では、ノートPCと液晶プロジェクタを使用し、パワーポイントを使って授業を進めることが多い。また、授業で使用したスライドをブラックボードで見られるようにするなどの支援をしていることから、ノートそのものを取る必要がないために、システム学系よりもやや低い値に留まったと言える。

③ 予習・復習（設問 I - 3）

予習や復習に積極的に取り組む学生はまだまだ少ない。

工学部専門科目（講義）では1.78という値で、昨年度よりも -0.001 低下した。学科別では機械システム工学科が1.77で昨年度よりも $+0.03$ と改善し、昨年度最も高かったデザイン学科は1.87で昨年度よりもさらに $+0.01$ 改善されており、工学部全体でわずかであるが改善傾向が見られる。

入学試験の志願者数の増加に伴って入学してくる学生の基礎学力が少しずつ良くなっていることと関係があるろう。

今後、単位制度の実質化が本格化すれば、学生は予習・復習を義務づけられ、その証拠の明示を要求されるようになる。講義要項に予習・復習の必要性が記述されるようになったが、現在の状況では学生への周知は不十分であると言え、初回授業時に周知徹底するなど対応策を強化する必要がある。

④ 質問（設問 I - 5）

工学部専門科目（講義）では1.69という値で昨年度とほぼ変化がない。大学全体でも比

較的高い方であるが、十分高いとは言えない水準であり改善が必要である。

工学部学習支援センターの利用を学生に積極的に働きかける必要がある。数学や物理に関しては学習支援センターの利用を授業中に働きかけて一定の効果をあげているが、4学科の専門科目についても、この取り組みを授業改善に活かしていく必要がある。

Ⅱ. 授業の内容や進め方

① 狙いの明確さ（Ⅱ－1）

講義科目については、一昨年度が3.78、昨年度が3.83で今年度が3.77であり、やや低下しているが問題になるレベルではない。

実験・実習科目の場合、工学部全体では3.75、機械システム工学科は4.17、電子システム工学科は3.68、情報工学科は3.96、デザイン学科は3.55、基礎科学実験は4.17である。

実験・実習科目では授業の狙いが伝わっていると言える。

講義科目については、講義要項に授業の目的や到達目標を分かりやすく記述することによって、より改善できると思う。

② 難易度（設問Ⅱ－2）

アンケート実施が前期科目であったために、授業が難しいと感じる学生がわずかであるが減少した。工学部専門科目（講義）は3.43という値であった。昨年度は3.46で大学全体で最も高かったが、今年度は5学部中3番目である。

ただし、3.0が最適な値であることから、工学部の専門科目を難しいと感じる学生が多いことには変化はない。数学や物理などの基礎学力を要求される専門科目が多いことも工学部の特徴であり、その専門性を考えればやむ負えない面もある。

③ 講義要項との進み具合（設問Ⅱ－3）

他学部の専門科目が4.0以上かほぼ4.0であるのに対して、工学部専門科目（講義）が3.85と最も低い。しかし、一昨年度の3.88、昨年度の3.89よりもわずかであるが改善されている。

④ 進度（設問Ⅱ－4）

設問Ⅱ－2同様3.0が最適な設問であるが、工学部専門科目（講義）の値は3.25であり、一昨年度の3.32、昨年度の3.28よりも3.0に近づいており、改善されていると言える。

④ 声の大きさ（設問Ⅱ－5）

工学部専門科目（講義）の値は3.87であり、昨年度よりも悪くなった。他学部は4.0を越えており、工学部だけ4.0を下回った原因を調査し改善する必要がある。

⑤ 教材等の効果（設問Ⅱ－6）

工学部専門科目（講義）の値は3.80であり、昨年度より悪くなった。他学部と比べると相変わらず低い。

⑥ 教室内の雰囲気（設問Ⅱ－7）

工学部専門科目（講義）の値は3.76である。他学部がほぼ4.0であることと比較すると、改善の余地は大きい。

工学部の教室は比較的小さいが、鰻の寝床に例えられるように細長い構造をしており、後方の学生の状況を教壇から確認するのは難しい。教室の構造を変えるのは不可能であるから、座席指定方式を取り入れ、誰がどの席に座っているか容易に分かるようにする必要があろう。

⑦ 宿題・課題（設問Ⅱ－8）

工学部専門科目（講義）の値は3.66であり、他学部と比べると低い状況は変わらない。学科別では電子システム工学科が3.78で最も高く、機械システム工学科が3.56で最も低い。一昨年度最も低かった電子システム工学科は+0.09改善されている。

⑧ 理解しやすさ（設問Ⅱ－9）

工学部専門科目（講義）の値は3.49であり、他学部よりも低い。特に国際学部の4.0と比較するとその差が大きい。

工学部FD委員会では、「理解しやすさ」と「満足度」を重要視していることから、今後も改善するべく対策を講じて行く。

⑨ 見方・考え方が深まる（設問Ⅱ－10）

工学部専門科目（講義）の値は3.48であり、一昨年度程度であった。

他の設問と同様に他学部よりも0.2～0.3低く、改善の余地がある。

工学部の専門科目は初めて学修する内容が多く、見方・考え方が深まるはずであるが、学生自ら学修する習慣が乏しいために学修目標が明確でなく、結果として見方・考え方が深まらない可能性がある。アクティブラーニングを積極的に取り入れ、活用することによって、改善されると思う。

Ⅲ. 満足度（設問Ⅲ）

工学部FD委員会で最も重要視している設問である。工学部専門科目（講義）は3.65という値であり、一昨年度は3.67、昨年度は3.73であったので、一昨年度程度である。

学科別では、機械システム工学科が3.65（昨年度は3.64）、電子システム工学科が3.76（昨年度は3.77）、情報工学科が3.55（昨年度は3.75）、デザイン学科が3.79（昨年度は3.91）であり、例年通りデザイン学科が最も高い。情報工学科は一昨年度の3.61よりも低い。前後期で開講科目に難易度の差があることが満足度に影響したと言える。

一方、実験・実習・演習科目の満足度は3.82であり、最近、若干ではあるが低下傾向にある。他学部は4.0に近いレベルであり、工学部の「満足度」が4.0を越えるよう授業展開の工夫・改善を続けることが必要である。

なお、他学部も後期科目を対象とした昨年度と比べると満足度はやや低下しており、後期開講科目は比較的積極的に選択して履修しているのに対して、前期開講科目は早めに単位を修得しておきたいと思う学生心理から、やや消極的な選択履修が増える分だけ満足度

が低下すると考えられる。

IV. 学部別設問

昨年度同様、工学部では学部別設問として、学生の授業に対する取り組みや達成度についての項目を設けている。

① 宿題や課題への取り組み（設問Ⅳ－１）

宿題や課題への取り組みについては3.65という値で、一年度の3.54、作年度の3.55と比べて大差なかった。アンケート実施が前期か後期は関係ないようである。

今後の成績評価方法を改善するなどインセンティブを与えることで改善していくことが重要であると思われる。

② 授業に対する質問（設問Ⅳ－２）

授業に対する質問については2.39という値で、一昨年度の2.39、昨年度の2.38と比べて大差なかった。

積極的に学修する習慣が乏しいことが低い値に留まっている原因であると昨年度は分析したが、状況は改善されていない。

③ 到達の度合い（設問Ⅳ－３）

授業の到達目標に対する到達の度合いについては、2.39という値になっており、一昨年度の3.31、昨年度の3.33よりも大きく低下した。

講義要項の授業の目的や到達目標を分かりやすく記述するよう見直し、初回授業時に丁寧に到達目標を説明し、中間試験や期末試験の前に改めて到達目標を説明するなど、周知徹底を図ることによって改善できると思われる。

（３） 今後の課題

工学部専門科目に関する授業アンケートの全体集計結果に基づいて分析を行った。

これまでと同様、毎年、教員の努力による授業改善が進んでいると言える状況が浮かび上がった。

また、授業を受ける学生の履修態度には未だ問題があることも従来通りであった。

授業アンケートの目的が「教員の授業改善に役立てること。また、教育の質の向上を図ること」であることを踏まえ、以下の２点を今後の課題としたい。

① 学生の授業への取り組み姿勢をさらに改善する方策の検討

実験・演習科目ではアクティブラーニング的要素を取り入れた授業展開が容易である。一方、講義科目では教材準備や授業展開の工夫など、アクティブラーニング的要素を取り入れるには教員の努力が必要であるが、その成果は実を結びつつある。

AO入試や指定校推薦・公募推薦入試による所謂年内組と年明け入試組との間では、工学部に入学してくる学生の基礎学力にはかなり幅があり、高校で数学Ⅲ・物理を履修して入学してくる学生もいれば、物理基礎すら履修した経験がなく、数学も数学Ⅱ程度し

か履修していない学生もいて、取り組む姿勢の改善は難しいと昨年度の分析では述べているが、現状では確実に改善されたと言える。

さらに取り組む姿勢を改善するためには、単位制度の実質化を推進し、予習・復習の中でも特に復習指導を充実することが肝要であろう。授業の復習に学習支援センターやオフィスアワーの利用を働きかけることが効果的である。

入試の多様化により、年度によって基礎学力不足の学生数は変動するので、授業への取り組み方を指導する体制を強化する必要がある。

② 満足度の改善

他学部と比べても工学部の講義科目の「満足度」は3.65であり、まだ低く、改善の余地は大きい。8年前の報告書では工学部の「満足度」は3.41であったから、学生の「満足度」を改善するべく工学部教員が積極的に取り組み、成果を上げたことは事実である。

学生にとって理解しやすい科目の場合、「満足度」が高くなる。このような視点から授業アンケートを見ると、工学部の専門科目については改善されてきたとは言えるが、講義科目と実験・実習科目に分けてみると、実験・実習科目の「満足度」は昨年度より下がったとは言え講義科目よりも高く、講義科目の「満足度」をいかに改善するかが課題であることに変わりはない。

一方、授業アンケートの満足度が本当の満足度であるかとの疑念を抱く教員も多い。ただ単に単位修得の容易な所謂楽勝科目だから満足度が高いのではないかとの疑念である。楽勝科目は出席管理が緩く、試験も簡単、あるいは試験がない科目ということであるが本当に満足度は高いのであろうか。

国際学部の授業は出欠管理が厳格であり、成績評価が甘い訳ではないが、工学部よりも満足度は高く4.0を超えている。履修学生数も工学部の専門科目は比較的少ない方であり、所謂S/T比は他学部よりも良い状況にある。

一方通行的な授業展開から、アクティブラーニング的要素を取り入れ、双方向の授業、すなわち、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めることが、満足度の改善に効果的である。その実現方法の1つが座席指定制度の導入である。誰がどこに座っているか分かれば、双方向授業がやりやすい。名前を呼ばれることによって学生は親近感と緊張感の両方を抱くのではないだろうか。中間試験や期末試験実施時の不正行為防止にも役立つ。検討の余地がある。

さらに、分かりやすい成績評価基準を定め、公平公正な成績評価基準に従って成績評価を行う。公平公正な成績評価基準であると学生に認識されれば満足度が高くなるのではないだろうか。

以上

5. 国際学部

(1) 実施の状況

本年度も専任教員（実施対象教員数 34 名／実施率 100%）と講師〔非常勤〕（実施対象教員数 47 名／実施率 100%）を問わず、原則、学部開設のすべての科目を対象に「授業改善のための学生アンケート」を実施した。ただし、負担軽減に配慮し、本年度より担当科目数が多い教員（主に語学担当教員）については、事前に申請があった場合、3科目程度を目安として実施してもよいこととした（ちなみに、結果的に今年度、事前申請する教員はいなかった）。

実施期間は平成 28 年 6 月 20 日（月）から平成 28 年 7 月 13 日（水）までの期間に設定し、アンケートの実施科目総数は 265 科目（専任教員：113 科目／非常勤講師：152 科目）であった。国際学部科目におけるアンケート結果は、英語群、地域言語群、基礎科目群、専門共通科目、専門コース科目の 5 群に分けたデータとして集計された。

アンケート回答数（延べ人数）は、1 年生 3,032 人、2 年生 2,618 人、3 年生 1,101 人、4 年生 357 人、無回答 121 人の 7,229 人であった。

(2) 学科目別の評価

① 授業の内容や進め方

専門科目（75 科目）について、授業の内容や進め方に関する各項目の過去 5 年間における平均値を並べた。前年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けた。但し、「Ⅱ-2. 難易度」と「Ⅱ-3. 進度」の 2 項目は数値が 3 の回答が適切であると判断されるものであるため、3 に近づく方向を「上昇」とした。参考のために、本年度における大学全体の平均値も付記してある。

なお、「2-8. 宿題・課題」については、平成 25 年度に設問の内容が変更されている。

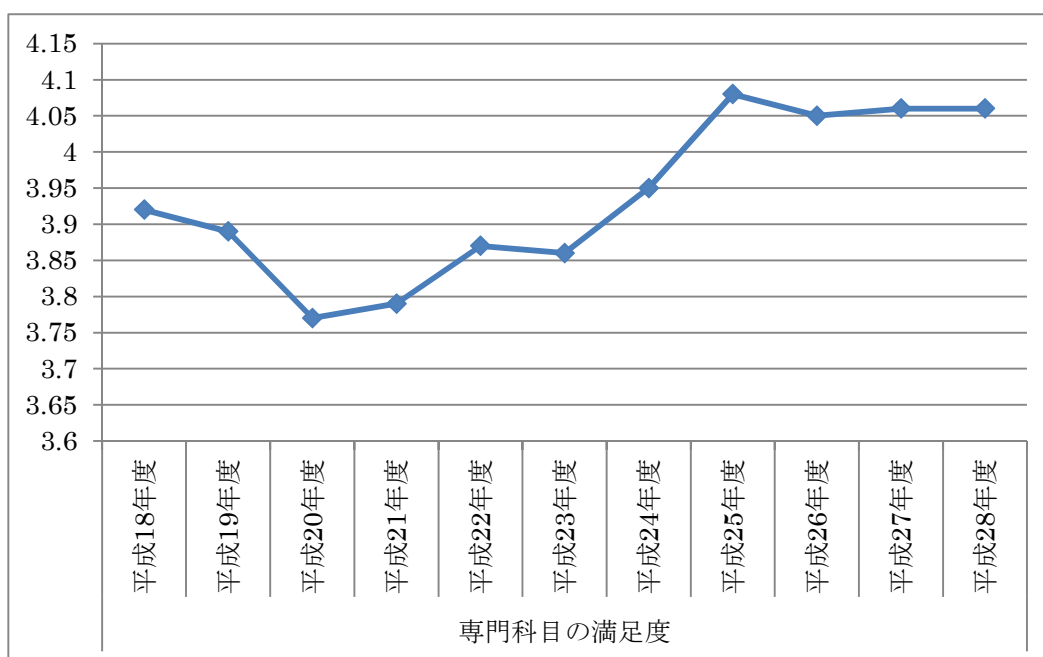
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	大学全体
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	▼3.98	△4.03	△4.04	▼4.01	△4.05	3.95
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	4.02	△4.06	□4.06	□4.06	△4.07	4.01
Ⅱ-5. 声の大きさ	△4.00	△4.17	□4.17	▼4.14	▼4.09	4.07
Ⅱ-6. 教材等の効果	△4.04	△4.09	▼4.07	▼4.06	△4.09	3.99
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	△4.12	△4.13	△4.16	▼4.10	▼4.09	4.00
Ⅱ-8. 宿題・課題		3.66	△3.71	△3.82	▼3.80	3.81
Ⅱ-9. 理解しやすさ	△3.76	△3.90	▼3.88	□3.88	△3.90	3.73
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	△3.88	△4.02	▼3.97	▼3.96	△4.06	3.75
Ⅲ. 満足度	△3.95	△4.08	▼4.05	△4.06	□4.06	3.92

3 の回答が適切である項目

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	大学全体
Ⅱ-2. 難易度	△3.34	▼3.38	△3.36	▼3.38	△3.36	3.45

II-4. 進捗	△3.16	▼3.19	△3.18	▼3.19	▼3.24	3.27
----------	-------	-------	-------	-------	-------	------

専門科目の平均値は、全体として昨年度と同じ水準であった。授業の総合的な評価にあたる「III. 満足度」では、平成18年度から低下傾向が続き、平成21年度に改善に転じた後、上昇傾向にある。本年度は昨年度よりもさらに上昇して、4.0を超える高い水準を維持した。ただ、近年、評価が4.0を超えたところで留まっている傾向があるので、欲を言えば、さらに高評価を得るための策を検討していく段階に移行していった方がいいのだろう。



大学全体の平均値との比較では、「II-8. 宿題・課題」がわずか0.01ポイント下回っただけで、他すべての項目で上回っている。昨年度との比較では、上昇したものが6項目、下がったものが4項目、変化なしが1項目であった。ただ、すべての項目で微増微減した程度なので、この程度の幅で“変化”とは言い難く、評価するのは困難である。しいて言えば、「II-5. 声の大きさ」と「II-7. 教室内の雰囲気」の項目が前年比で下がっており、学部移転による学習環境の変化が影響しているとも言えなくもない。その点は、今後の経緯を丁寧に見て、学習者にとって最適の環境整備を図るように心がけていきたい。

また、「II-9. 理解しやすさ」の項目が3点台に留まり、相対的に見て改善すべき点と捉えられる。どの程度やさしくしていくかという教師にとってのジレンマがあるが、「II-10. 見方・考え方が深まる」のポイントが改善しているだけに、あまり学生におもねらず、彼らの潜在力を引き出す講義デザインをしていくべきなのであろう。

② 受講する姿勢や動機

国際学部専門科目に関して、I-1からI-5までの各項目について、回答の多かった上位を挙げた。これらの結果によれば、授業への出席状況は良好で、90%以上とする学生の割合

が高評価だった昨年（58.55%）をさらに上回った。この傾向は次の問いのノートテイクに関しても同様である。

一転して、予習や復習の時間はあまりなされておらず、授業時間以外に先生へ質問に行く学生も極めて少ない。講義以外の時間を積極的な姿勢で臨んでいる学生は少ないという実態が浮き上がってくる。

受講動機については、「単位が必要だから」が最も多く、ほぼ同じ割合で「講義要項を読んで興味を持ったから」との回答があった。「単位取得が楽だから」という動機は極めて少ない。

- 「I-1. 授業への出席状況」 (1) ⑤90%以上 (64.77%)
(2) ④80%以上 (24.18%)
- 「I-2. ノート・メモ」 (1) ⑤強くそう思う (38.86%)
(2) ④そう思う (26.24%)
- 「I-3. 予習・復習」 (1) ①0.5h未満 (55.54%)
(2) ②0.5h以上(1h未満) (18.79%)
- 「I-4. 受講動機」 (1) ⑤講義要項を読んで興味を持ったから (37.25%)
(2) ②単位が必要だから (35.81%)
(3) ④教員にひかれて (15.26%)
(4) ①この時間帯が空いているから (8.92%)
(5) ②単位取得が楽だから (2.77%)
- 「I-5. 質問」 (1) ①全くそう思わない (67.56%)
(2) ③どちらとも言えない (13.04%)

(3) 学部設問項目の評価

学部設問項目としては、例年通りの「授業の開始時間・終了時間」「出欠席管理」「授業中の私語」の3項目に加え、「教室環境の適切さ」（「IV-4 この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか」）を設けた。今年度、学部が移転したことによって、どのような影響が出たのか（出なかったのか）を学生の視点から見てみたかったからである。評価の変化を見るため、過去4年間における各項目の平均値も並べてみた。前年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けてある。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
IV-1. 授業の開始・終了時間					
専任教員	△4.46	△4.57	▼4.54	□4.54	□4.54
講師(非常勤)	△4.48	△4.50	△4.56	▼4.52	△4.58
IV-2. 出欠席管理					
専任教員	△4.51	▼4.44	△4.52	△4.55	▼4.45
講師(非常勤)	△4.54	▼4.50	△4.63	▼4.57	△4.60

IV-3. 授業中の私語					
専任教員	△4.17	□4.17	△4.20	▼4.11	▼4.06
講師(非常勤)	△3.83	△3.84	▼3.82	▼3.72	△3.92
IV-4. 教室環境の適切さ					
専任教員					4.28
講師(非常勤)					4.33

昨年までは、研究室と教室は国際学部棟内に収まっていたため、移動に時間がかからなかったが、今年度は研究室が管理研究棟へ、教室が主にA館へ移ることになったため、移動に手間取ることが懸念された。しかし、「IV-1. 授業の開始・終了時間」の数値を見る限り、例年並み又はそれ以上の数値となっており、教員サイドで十分に適応した様子が見て取れる。

また、「IV-4. 教室環境の適切さ」について学生からの評価が気になったが、極端に学習環境が低下したというフィードバックはなく、こちらも学部移転の影響はさほどなかったようである。ただし、アンケートに答える学生の延べ人数が、ほぼ半数は昨年度の状況を把握していない1年生であったことを鑑みると、数値としては顕在化しにくかったのかもしれない。

(4) 教員所属別の評価

専任教員の科目(113科目)と講師(非常勤)の科目(152科目)について、各項目の昨年度と本年度の平均値を並べた。昨年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けてある。

	専任教員		講師(非常勤)	
	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度
2-1. 狙いの明確さ	△4.17	▼4.09	▼4.02	△4.04
2-3. 講義要項との進み具合	△4.17	▼4.10	▼4.10	▼4.08
2-5. 声の大きさ	□4.25	▼4.16	▼4.18	▼4.16
2-6. 教材等の効果	△4.24	▼4.17	▼4.04	▼4.03
2-7. 教室内の雰囲気	▼4.25	▼4.20	▼4.04	△4.18
2-8. 宿題・課題	△4.03	▼3.91	▼3.94	△4.01
2-9. 理解しやすさ	△4.05	▼3.99	▼3.92	△4.00
2-10. 見方・考え方が深まる	△4.08	▼4.06	▼3.86	△3.90
3. 満足度	△4.19	▼4.10	▼4.04	△4.10

3の回答が適切である項目

	専任教員		講師(非常勤)	
	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度
2-2. 難易度	△3.33	▼3.36	▼3.37	△3.34
2-4. 進度	△3.16	▼3.23	▼3.24	△3.21

昨年度の評価では、講師（非常勤）の数値が全てにおいて前年度を下回ったが、今年度は一転して、専任教員の評価がすべて前年度を下回る結果となった。これをネガティブなものとして受け取ることもできるが、おおよその項目で4.0を超える数値が出ていることから、専任教員と講師（非常勤）との間に授業の質のギャップがなくなる傾向にあると見ることはできないだろうか。事実、「Ⅲ. 満足度」がまったく一緒の4.10という評価になっている。この流れで、専任教員と講師（非常勤）が切磋琢磨して、学部全体を盛り上げていきたい。

（5）分野別の評価

① 分野相互間の比較

英語群（102科目）、地域言語群（76科目）、基礎科目群（28科目）、専門共通科目（27科目）、専門コース科目（48科目）の5群について、相互に比較した。平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けてある。

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	4.10	○4.24	4.02	●3.93	4.14
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	4.13	○4.21	4.04	●4.00	4.14
Ⅱ-5. 声の大きさ	4.27	○4.29	4.25	●3.97	4.18
Ⅱ-6. 教材等の効果	4.17	○4.22	4.09	●4.05	4.13
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	4.32	○4.34	4.25	●4.00	4.16
Ⅱ-8. 宿題・課題	4.19	○4.21	3.92	●3.65	3.92
Ⅱ-9. 理解しやすさ	○4.11	4.07	3.90	●3.81	4.05
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	3.92	4.03	●3.84	3.98	○4.12
Ⅲ. 満足度	4.15	○4.29	4.03	●3.92	4.17

3の回答が適切である項目

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
Ⅱ-2. 難易度	○3.27	●3.45	3.39	3.39	3.33
Ⅱ-4. 進度	○3.18	●3.29	3.24	3.26	3.21

相対的に地域言語群の評価が高く、専門共通科目の評価が低くなっている傾向は例年と変わっていない。ただし、前年度との比較を試みると、「Ⅲ. 満足度」において基礎科目群の評価がまったく一緒の4.03である以外は、全てにおいて評価が上昇しており、良い傾向にある。

また、地域言語群の評価は全般的に高いものの、「Ⅱ-2. 難易度」と「Ⅱ-4. 進度」においては数値が最も低く、学生の理解度にあわせた進め方を検討していく必要がある。

② 英語群

分野相互間の比較では、「Ⅱ-2. 難易度」「Ⅱ-4. 進捗」の数値が最も適切であり、学生の能力に合わせた授業展開が図られているようである。そのことは、「Ⅱ-9. 理解しやすさ」の平均値が最も高いことでも裏付けられる。

③ 地域言語群

分野相互間の比較で、最も多くの項目で平均値が最も高い。その上、「Ⅲ. 満足度」が昨年度（4.20）をさらに上回る数値となっている。これは昨年度もそうであり、かなり評価できる。

しかし、前述したが「Ⅱ-2. 難易度」と「Ⅱ-4. 進捗」の数値は最も低く、学生の理解度とのバランスを意識していく必要がある。

④ 基礎科目群

「Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる」の項目が他の4群に比して、最も低い。基礎科目ゆえという分析もできようが、基礎であっても授業にはアクセントを加えていけるので、そうした創意工夫が求められる。

ましてや、自分が専門を決める際のきっかけともなる意味合いの講義であるからして、その点は評価以上に注目していきたい。

⑤ 専門共通科目

他の群との比較では総じて評価が低い。ただし、「Ⅲ. 満足度」は昨年度（3.85）より上昇し、回復傾向にあり、かつ大学平均とも一緒の数値であって、評価が悪いとは言えない。他項目に関しても前年比でほぼ全ての項目において改善している。

⑥ 専門コース科目

「Ⅲ. 満足度」で昨年度（4.14）を上回った。分野相互間の比較では、「Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる」で最も評価が高く、専門コース科目としてこの点が評価されるのは、専門性の深化という観点で意義深い。大学全体の平均値との比較では、すべての項目で上回っている。

専門コース科目については、履修学年別ではなく、科目が配当されているコースと学生の所属の2点を考慮して集計を行ってきた。国際協力（19科目）、国際経済（6科目）、国際政治（6科目）、国際文化（9科目）、国際観光（4科目）、農業総合（4科目）の6コースについて相互に比較した。平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けてある。

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	●3.99	4.03	4.10	4.09	○4.14	4.03
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	4.09	4.15	○4.17	●4.04	4.07	○4.15
Ⅱ-5. 声の大きさ	4.12	4.10	○4.22	4.15	●4.09	4.18

Ⅱ-6. 教材等の効果	●4.00	4.03	○4.13	4.11	4.07	4.08
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	4.09	4.16	○4.19	●4.00	4.04	○4.15
Ⅱ-8. 宿題・課題	3.85	3.89	○3.94	●3.83	3.85	3.85
Ⅱ-9. 理解しやすさ	●3.87	3.88	4.02	4.06	○4.11	3.91
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	●3.97	4.00	4.07	4.09	○4.12	4.04
Ⅲ. 満足度	●4.02	4.05	4.14	4.14	○4.17	○4.17

3の回答が適切である項目

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
Ⅱ-2. 難易度	3.43	●3.45	3.40	○3.25	○3.25	3.42
Ⅱ-4. 進度	3.25	●3.28	3.23	○3.20	○3.20	3.26

例年と比較すると、国際協力コースの評価が全体的に下がっているのが気がりである。昨年は「Ⅲ. 満足度」で、6コース中3番目の評価を受けていたので、早急にその原因を探り、次年度の講義運営に活かしていきたい。

また、国際経済コースの「Ⅱ-2. 難易度」「Ⅱ-4. 進度」の2項目において最も低い評価となっているので、履修学生たちは少々難しさを感じているのかもしれない。次年度に履修する学生の様子を丁寧に見ながら講義展開していく必要がある。

(6) 評価と課題

本年度の「授業改善のための学生アンケート」の結果によれば、全体として昨年度と同じ水準で、「3. 満足度」は4.0を超える高い水準を維持することができた。

具体的に見ていくと、大学全体と国際学部専門科目の平均値の比較では、唯一、「2-9. 宿題・課題」が下回っている。このことは学生の受講する姿勢にも現われていて、講義は真面目に受けているが、正規の時間以外では学習に充てている時間が極めて少ない。シラバスにも講義外の時間の使い方に関して明記されるようになっており、その意識づけの必要性が高まっている。

昨年までは、専任教員と講師（非常勤）の評価に開きがあったが、今年はそのギャップがほとんどなくなり、学部全体の教員の質向上という観点では好ましい結果となった。

5分野相互間の比較では、語学関連の科目が継続して、高い評価を維持している。専門科目関連の評価も決して低いとは言えないのだが、相対的に数値が劣っているので、その底上げを図りたい。国際学部としては、語学と専門性の両輪が相乗的に学びの深まりを生んでいくことが望ましいので、そこは重視したい。

そのためには、PBLやボランティア活動、あるいは社会人基礎力を意識した取り組みなど、正規のカリキュラム以外にも深い学びがあるのだという共通認識を教員間で共有し、アクション（社会への働きかけ）につながるような学生たちへの関わりを持っていきたい。そうした学びのあり方は、実践を意識した“国際学部らしさ”とも合致するものであるので、今後の課題としていこうと思う。

以上

6. 教養教育科目

本節では教養教育科目の「授業改善のための学生アンケート」全体集計に対する「評価及び課題」を、(Ⅰ) アンケートの実施状況、(Ⅱ) 現状評価、(Ⅲ) 課題、(Ⅳ) まとめ、の順で述べる。

(Ⅰ) アンケートの実施状況

「教養教育科目・総合教育科目」のアンケート実施件数は108科目である。このうち国際学部だけで開講されている基礎科目22を除いた教養教育科目のアンケート実施件数は86科目である。これは平成28年度前期開講の教養教育科目数126の8割強に当たる。ただし群毎に見たアンケート実施科目数には、今年もかなりのばらつきが見られる。

(Ⅱ) 現状評価

教養教育科目の現状を評価するにあたり、教養教育科目全体に関しては「1. 学科目別平均値(講義科目)平均値・標準偏差」を参照し、また教養教育科目の各群に関しては「教養教育科目(1)講義科目(群別)」のデータを参照する。以下、①学生の受講姿勢、②授業の内容・進め方、③学生の満足度、④難易度・進捗という順で所見を述べる。

A. 教養教育科目全体に関する現状評価

①学生の受講姿勢

「学生の出席状況」の項目は昨年の4.46から4.58と若干良くなった。またこの値は全体の平均値4.59とほぼ同じであり、5学部専門科目や外国語、ゼミ等と比較して、ほぼ中間値を示している。また「ノート・メモ」の項目は3.59から3.73と若干良くなったが、「予習・復習」は1.58から1.56とわずかに下がった。さらに「質問」は昨年の1.48とほぼ同じ1.49であった。「ノート・メモ」や「予習・復習」の数値を改善するためには、小テストや中間テストの導入、ブラックボードの活用などの取り組みが必要であろう。大教室での授業が多い教養教育科目の「質問」の値を改善するには、授業の進行過程でこまめに質問の時間をとるなどのきめ細やかな対応が必要になってくるだろう。

②授業の内容・進め方

「授業の内容・進め方」では、「宿題・課題」(3.62)が昨年と同様に科目の中で最下位であった。また「宿題・課題」は全体平均値(3.81)より低い値であった。しかし、棒グラフで示された年度比較のデータ(「⑥教養教育科目」)から明らかのように、教養教育科目は「予習・復習」を除いて、ほぼすべての項目にわたって改善の兆しが見られる点の特筆に価する。商学部・政経学部の文京キャンパスへの全面移転による教育環境の向上の効果が現れてきたと考えられる。

③学生の満足度

教養教育科目の「満足度」は、昨年の3.78を上回る3.86という値であった。この値は全体の平均値(3.92)よりは低いが、工学部専門科目の「満足度」(3.65)と商学部専門

科目の「満足度」(3.82)を上回り、政経学部専門科目の「満足度」(3.86)と同じ値であった。1クラスあたりの受講者数が学部の専門科目と比して、圧倒的に多い教養教育の科目のこの数値は、教養教育科目を担当する教員の努力が実を結んだためであると思われる。さらに、「満足度」の値が、平成24年度をピークにして、25、26、27年度と、下降し続けていた状況に歯止めがかかったことも特筆に値する。「満足度」の値の維持、さらなる向上のための創意工夫が望まれる。

④難易度・進度

「難易度」は3.41であり、全体平均値(3.45)とほぼ同じである。また「進度」は昨年と同じく3.24であり、全体平均値(3.27)をわずかに下回った。このことから教養教育科目は、授業の進度はやや速めだが、学生の理解度に合わせた授業を実施していると判断できる。この二つの項目は、概ね適正の範囲内にあり、5学部専門科目と比較しても適正值により近い結果となっている。

B. 教養教育科目各群に関する現状評価

教養教育科目各群の現状を見ていくにあたり、大教室での多人数授業の講義科目が中心のA系列・B系列・C系列(第1群～第9群)と、履修登録者数を100人以下に制限して授業を行うD系列(第10群)の科目とを分けて所見を記す。なおA～Dの系列外に「共通」というカテゴリーの科目として「歴史の中の拓殖大学」「職業と人生」「防災と安全」の3科目があるが、これらの科目のデータは存在しないため昨年と同様に評価は割愛する。

○A系列・B系列・C系列(第1群～第9群)について

第1群～第9群の編成と名称は以下の通りである。

A系列(人間を考える)

第1群(人間の探究)、第2群(文学・芸術)、第3群(身体と運動)

B系列(社会を考える)

第4群(歴史・民族)、第5群(社会のしくみ)、第6群(近代社会の変容)

C系列(自然と環境を考える)

第7群(自然の認識)、第8群(技術の進歩)、第9群(環境と人間)

各群の現状を見ていくにあたり、あらかじめ留意しておくべき点がある。それは各群のアンケート実施科目数に今年もばらつきがあり、そのため各群同士を比較することに客観性が担保されにくいという問題である。この問題は一昨年度、昨年度の評価においても指摘されていたが、今年も同じ状況にある。最多の科目数が第1群の12であるのに対し、最小の科目数は第9群の2である。とはいえ、次に少ない第8群の科目数も3であるので、第9群のみを評価の対象から除外することは適切ではない。そこで以上の点に留意した上で、今年もすべての群を対象として現状評価を行うこととする。

①学生の受講態度

「出席状況」では第8群が最上位(4.69)、第2群が最下位(4.47)である。その差は0.22であり、群毎に大きな開きはない。「ノート・メモ」では第9群が最上位(4.27)、第8群が最下位(3.17)である。この項目が4点台であった群は第1群(4.11)、第7群(4.03)、第9群(4.27)の3群(昨年度は1群)となった。ノートをしっかり取らせる授業が教養教育科目で増えたことがわかる。

「予習・復習」では第9群が最上位(1.75)、第4群が最下位(1.38)であるが、すべての群で1点台であることから明らかなように、教養教育科目では「予習・復習」を必要とする授業が非常に少ないことを示している。「質問」では第6群が最上位(1.55)、第5群が最下位(1.29)である。教養教育科目全体の平均値は1.46であり群毎の差は少ない。

②授業の内容・進め方

「授業の狙い」は第3群が最上位(3.98)、第4群が最下位(3.15)である。「講義要項との進み具合」は第1群と第8群が最上位(4.02)、第4群が最下位(3.46)となっている。「声の大きさ」では第9群が最上位(4.17)、第4群が最下位(2.96)である。「教材等の効果」では第3群が最上位(4.13)、第4群が最下位(3.16)である。「教室内の雰囲気」では第5群が最上位(4.00)、第4群が最下位(3.47)である。「宿題・課題」では第8群が最上位(3.78)、第4群が最下位(3.21)である。「理解しやすさ」では第3群が最上位(3.79)、第4群が最下位(2.99)である。「見方・考え方が深まる」では第1群が最上位(3.88)、第4群が最下位(3.13)となっている。

「授業の内容・進め方」では第3群の健闘が目立つ。第3群は全8項目中、4項目で最上位を占めている。これと対照的に第4群は全8項目、すべての項目で最下位である。また昨年、5項目で最下位であった第9群が「講義要項と進み具合」で最上位となっている。今年に限って評すれば第4群の不振が目につく。しかし、アンケートの結果は年度によって大きな違いが出ることもあるので、次年度も値を注視したい。

③学生の満足度

「満足度」では第3群が最上位(3.97)、第6群が2位(3.95)、第4群が最下位(3.20)となっている。昨年、最下位であった第9群が2点台の値であったのに対して、今年最下位である第4群の値は3点台であったことは、教養教育科目全体の「満足度」の底上げがなされたという評価もできるかもしれない。

④難易度・進度

「難易度」が適正值(3.00)にもっとも近いのは第6群(3.26)であった。これに対して適正值からもっとも遠いのは第7群(3.75)、次が第9群(3.67)であった。この結果から読み取れるのは、自然科学系から成るC系列が、文系学部学生の占める割合が高い本学の学生にとっては、どうしても難しく感じられるということであろう。止むを得ない面もあるが、C系列担当者にとっては創意工夫が求められる課題であろう。

「進度」では、適正值にもっとも近いのは第6群(3.18)であり、適正值からもっとも遠いのは第9群(3.45)であるが、ほぼ適正な範囲内に収まっていると判断できる。

○D系列（第10群）について

①学生の受講姿勢

第10群は日本語のコミュニケーション力を高める科目によって構成されている。第10群の「出席状況」は4.67、「ノート・メモ」は3.72という結果であり、学生の受講姿勢は第1群～第9群の傾向とほぼ一致しているといえる。「予習・復習」は1.55、「質問」は1.49と、教養教育科目全体の平均値を今年は上回った。

②授業の内容・進め方

「授業の内容・進め方」では、第10群が「宿題・課題」の項目以外のすべての項目で4点台を記録し、最上位を占めている。この結果は、第10群の担当者の努力の結果であると同時に、履修者数を100人以下に制限して、演習型の授業を展開する同群の各科目の特性がよく活かされた成果であると判断できる。

③学生の満足度

「満足度」でも第10群は全群中、最上位（4.27）の値を示している。この結果についても上述のコメントが同様にあてはまると思われる。

（Ⅲ）課題

以上の現状評価を踏まえた上で、教養教育科目に関する課題について述べる。そのさい、教養教育科目全体の課題と、群毎におけるそれとを分けて検討することにする。

A. 教養教育科目全体の課題

現状評価の項で触れておいたが、年度比較のグラフ（「⑥教養教育科目」）から明らかのように、教養教育科目は、ほぼすべてのアンケート項目に関して改善傾向が見られた。商学部・政経学部の文京キャンパスへの全面移転の効果が少しずつ現われてきたのではないかと推測される。さらにこの傾向を継続させていくために文京キャンパスの教室に備えられている最新の設備のさらなる活用、大人数の履修生を相手にしたアクティブ・ラーニングの導入など、教養教育科目担当の教員の授業改善への取り組みを今後も継続して強化する必要がある。また、本年度の夏休みに行われた八王子国際キャンパスの教室リニューアル工場の効果も今後は徐々に現われてくると予想される。

本年度は商学部・政経学部の文京キャンパス移転の2年目にあたり、授業を取り巻く様々な諸環境（時間割、教室割など）が、落ち着くのを次年度も見極める必要があるだろう。文京キャンパスの図書館、ミーティング・ルーム、専任教員の研究室、講師室の位置や機能を学生が把握し、これらの施設を学習のために有効に使えるようになるまでには、いましばらく時間がかかることも予想されるからである。また八王子国際キャンパスでは教養教育科目が主に使用する100人教室にパソコンとモニターが設置され、パワーポイントなどを使用した授業が可能となったことにも言及しておきたい。

アンケートの個別の項目では、「狙いの明確さ」、「声の大きさ」（この項目の名称は「聞こえやすさ」と改めてはどうだろうか、声が大きければ聞き手にとって聞きやすいと

は限らないからである)、「教室内の雰囲気」、「宿題・課題」といった項目は、比較的速やかに対処が可能ではないかと思われる。特に「宿題・課題」の項目は学生の「受講態度」の中の「予習・復習」の項目と関連する項目である。ブラックボードの積極的な活用などによって、教室外での学生の学習活動を活発にする必要があると考える。

B. 教養教育科目各群の課題

第1群～第9群の中で特筆すべきは第3群の健闘であろう。「授業の内容・進め方」では8項目中、4項目で最上位であった。

第4群は「講義への興味」が26.1と高い群であるにも拘らず、「満足度」が3.20と全群中最下位となっている。この結果は学生の期待度が高かったことの裏返しとして解釈することができる。第4群の担当教員の奮起を期待したい。

同様のことは自然科学系の科目から成る第7群、第8群、第9群についても言える。この3つの群は「講義への興味」が、それぞれ28.6、23.8、25.9と比較的高い値を示しているのに対し、「満足度」は3.30、3.72、3.73とあまり高い値ではない。授業担当者には学生の期待を裏切らないような授業の工夫が求められる。または学生にとってC系列の科目の「単位の必要」度は総じて高く、同系列の科目は「時間帯が空いていたから」受講したという数値が26.0、26.1、19.4と低くなっているという特徴も指摘しておく。

第1群、第2群、第5群、第6群は「授業の内容・進め方」および「学生の満足度」に関わる多くの項目が中位を占めている。ただ、すべての群について言えることだが、アンケート結果は年度ごとの変動が激しく、入学してくる学生のレベルや関心に左右される面も大きい。中期的な視野でデータを分析する必要もあるだろう。

第10群は「講義への興味」が19.1と群の中で最下位にも関わらず、満足度は4.27と高い値になっている。また「授業の内容・進め方」および「学生の満足度」に関わる、ほぼすべての項目において最上位を占めており、この結果は、履修者数の制限を行っているという点を考慮に入れても、授業担当者の努力なしには考えられない成果であろう。課題としては、「予習・復習」の項目の値の低さ(1.51)をどう改善していくか、という点を今年も挙げることができる。

(IV) まとめ

教養教育科目は大教室での多人数による講義の授業が中心であり、この点で少人数・クラス別授業形態をとる科目に比べて不利な条件を背負いながら、比較的健闘していると言える。また、年度比較のグラフ(「⑥教養教育科目」)から明らかなように、教養教育科目はここ数年の低調路線を脱却して、上向きの改善傾向が見られた。この傾向を継続してゆくために担当教員にはさらなる授業改善の試みが求められる。

平成27年度の商学部・政経学部の文京キャンパスへの全面移転に伴い、教養教育科目は文京と八王子国際の二つのキャンパスで行われることとなった。教養教育科目のアンケート結果の分析も、「キャンパス別」という項目を加える必要も出てくるだろう。いずれにせよ、アンケートの結果のこのような分析を機会に、授業担当者には授業内容、配列、方法、教材さらには評価などにおけるさらなる創意工夫を求めたい。

以上

6. 教養教育科目（外国語科目）

1. アンケートの実施状況

本年度の「授業改善のためのアンケート」は平成28年6月20(月)から7月13日(火)に行われた。ここでの「外国語科目」とは、商学部、政経学部、外国語学部、の12言語の授業を意味する。科目の内訳は、英語、アラビア語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、インド・パキスタン語、インドネシア・マレーシア語、ロシア語、スペイン語、日本語である。

2. 項目別における集計結果（設問項目別に全体の平均値と比較）

I -1「学生の出席状況」

昨年の平均値が**4.57**であったのに対し、今年は**4.69**と**0.12**上回ったものとなった。一昨年の**4.47**よりも高い。前期実施分は後期実施分よりも平均値が高く出る傾向がある。前回は後期に実施されたことを考慮すれば、実質的にはほぼ横ばいと予想される。

今年の全体の平均値**4.67**（昨年の全体平均値**4.51**）も若干ではあるが上回っている。日本語の**4.77**が、最も高い値となった。

I -2「ノート・メモ」

外国語科目は**4.12**となり、昨年の平均値**4.05**から**0.07**の上昇となった。昨年と同様、今年も全体の平均値（**4.11**）を上回っている。ただし第二外国語が比較的高い数値を出しているのに対し、英語は**3.96**と全体平均値より低く、昨年度の英語の平均値（**3.96**）と同じ値であり、改善が望まれる。

I -3「予習・復習」

今年度の外国語科目の値は**1.98**となっており、全体の平均値**1.81**と比較して**0.17**と、昨年度同様上回っている。また前年度の値が**1.94**であったので、数値は若干上がっている。しかし**2.00**の値は毎回の予習・復習が**30**分以上であることを意味しており、依然として十分な値とは言えない。予習・復習の内容をより一層具体的に指示することが、求められる。

I -5「質問・オフィスアワー等」

今年度の値は**1.57**で、全体の平均値**1.61**と比較し、**0.04**下回っている。前年度は全体の平均値を上回っていたので、この点でも後退している。しかし実体としては、ほとんど質問が行われていないことになる。その中でも日本語が**2.35**と突出して平均を上回っている。留学生の積極性と日本人学生の控えめな姿勢が、数値として表れている。

II -1「狙いの明確さ」

全体の平均値**3.95**に対し、外国語科目の平均値は**4.06**となっている。昨年は全体が**4.00**、外国語科目は**4.05**であったため、全体の平均値に対する外国語科目の値の差は**ほぼ**同じである。就職活動への生かし方や検定試験など、より一層具体的な情報提供を行っていく必要がある。

II -3「講義要項との進み具合」

全体の平均値が**4.01**であるのに対して、**4.08**となった。僅差ではあるが、全体を上回る結果となった。しかし前年度は**4.10**であったので、若干数値が後退している。シラバスに沿った授業運営をより一層徹底する必要がある。

II -5「声の大きさ」

全体の平均値**4.07**に対し、外国語科目の平均値は**4.15**となっており、**0.08**上回っている。昨年の外国語科目平均値は**4.19**であったため、前年を下回っている。外国語学習にとって、「声の大きさ」は発音練習等で重要な要素となるので、高い数値を維持することを目標とすべきである。

II -6「教材などの効果」

外国語科目の平均値は**4.05**で、全体の平均値**4.07**に対し**0.02**下回る結果となった。昨年の外国語科目の平均値は**4.09**、全体の平均値は**4.04**であったため、評価が逆転している。外国語科目にとって教材の効果は重要な要素となるので、早急な改善を期待したい。

II -7「教室内の雰囲気」

外国語科目の平均値は**4.17**で、全体の平均値**4.00**を**0.17**上回った。昨年の値（外国語科目**4.11**、全体**4.04**）を上回り、全体の平均値との差も広がる結果となっている。

外国語科目は昨年度まで2年連続で低くなっていたがこの傾向に歯止めがかかったことは評価できる。今後も、学習者が不安なく発話できるような環境構築への継続的な取り組みが望まれる。

II -8「宿題・課題」

全体の平均値が**3.81**であったのに対し、外国語科目の平均は**4.02**であった。昨年の値（全体**3.84**、外国語科目**3.99**）と比較すると、全体の平均値は下がったが、外国語科目の平均は僅かながら上昇した。毎回の予習・復習が平均30分程度なので、学生の意識改革も必要であるが、外国語科目の平均を下回る言語については、適切な宿題・課題を課すことが求められる。

II -9「理解しやすさ」

外国語科目の平均値が**3.84**、全体の平均値**3.73**で、外国語科目が**0.11**上回っている。初めて学習する外国語において、理解しやすさは重要な項目となる。昨年の外国語科目の平均値は**3.82**であり、全体は**3.78**であったため、差が開く結果となった。また昨年度は特にスペイン語が**3.29**と値が低かったが、今年度は**3.58**と改善が見られた。ただし、依然として平均より低い値となっているため一層の改善が望まれる。

II -10「見方・考え方が深まる」

外国語科目の平均値**3.69**は、全体の平均値は**3.75**であった。昨年度も外国語科目が全体の平均値よりも若干低かったが（外国語**3.69**、全体**3.79**）、この項目でも昨年度スペイン語

の値が3.42と低かったが、今年度は3.51と改善が見られた。ただし依然として全言語で一番低い値となっており、改善への一層の取り組みが望まれる。

Ⅲ 「満足度」

全体の平均値**3.92**に対し、外国語科目の平均値は4.01となり、**0.09**上回った。しかしながら昨年の外国語科目の値4.02を下回っている。平均値に及ばない特に3言語（英語、中国、スペイン語）については、スタッフ全員が現状を認識した上で、改善に取り組む必要がある。

3の回答が適切である項目

Ⅱ -2「難易度」

全体の平均値が3.45で、外国語科目も3.41、両方とも前年比を上回った。（全体3.42、外国語科目3.42）この項目は値が低いほど難易度が下がることになるが、昨年と比較して外国語科目の難易度はほぼ変わっていないと考えられる。

Ⅱ -4「進度」

全体の平均値が**3.27**であったのに対し、外国語科目の平均値は**3.25**で、両方とも前年比を僅かに上回った。（昨年全体平均値3.24、外国語科目平均値3.22）レベルに合った進度調整が必要とされる。

Ⅰ -4「受講動機」回答の分布

多くの言語において、昨年度同様、「単位が必要」と「時間帯が空いている」が多くのパーセンテージを占めている。「教員にひかれて」また「講義への興味」の値が低いのは、必修の第二外国語が入学前に選択されるため、事前の情報が入手困難であることに起因すると思われる。

3. 本年度の集計結果の評価について

- ① 「学生の出席状況」、「ノート・メモ」、「予習・復習」、「狙いの明確さ」、「講義要項との進み具合」、「教室内の雰囲気」、「宿題・課題」、「理解しやすさ」は、前年度の値を上回っており、今後もこの傾向を維持すべきである。
- ② 「質問（オフィスアワー等）」、「声の大きさ」、「教材等の効果」、「満足度」の項目が、昨年の値を下回った。
- ③ 「見方・考え方が深まる」については、昨年度と同じ結果となった。
- ④ 昨年度は、一昨年度と比べ、下回る項目のほうが多かった。今年度は逆に上回る項目が多かった。この傾向を維持すべきである。しかしながら、今年度はアンケートを前期に実施したため、評価が肯定的になる傾向があることも考慮すべきである。

4. 課題

- ① 「学生の出席状況」の値については、昨年度同様状況が好転しつつあるように見受けられる。キャンパスが文京に移転になったことが有利に働いていると考えられる。

しかし特に第二外国語が半期科目であることから、単位を取得できなかった受講生が後期に出席を取りやめ、全体の出席率を押し下げる傾向もあるため、学生の出席状況を観察することが必要である。

学生支援センターと協力し、数回欠席した時点で欠席者に連絡を取るという試みを全体的に広げていき、脱落しかけた受講者の授業復帰支援を行うことを勧めたい。これによって、外国語科目の出席状況の改善のみならず、大学全体の退学者問題の改善にも寄与できるのではないかと考える。

② 「ノート・メモ」の項目が全体の平均値を上回っているが、これは語学という科目の性質上によるものと考えられる。

「ノート・メモ」の改善に関しては、教員の板書のやり方も関係している。「自由記述欄」で板書の改善に対する要望もしばしば挙げられており、組織的な改善への取り組みが必要である。

③ 「予習・復習」については、全体の平均を上回っているものの、毎回の予習復習が依然として30分程度であるのは、明らかに少ない。専門科目の学習時間または個々の学生の生活状況も勘案しながら、現実的にどれ程より多くの学習時間を確保できるか検討する必要がある。また言語に触れる時間を増やすことの効果を、具体的なデータで示す必要があると考える。

④ 「質問・オフィスアワー等」の値が低い点については、多くの授業を講師（非常勤）に委託している現状では解決が難しい問題である。授業の最後の分を質問時間に当てる、講師控室の場所を周知させることなどが、当面の改善策として考えられる。

⑤ 「狙いの明確さ」、「講義要項との進み具合」については、全体の平均値、および前年度の値を上回った。教員の中でシラバスとの授業の整合性に対する意識が高まってきていることの表れと推察でき、今後もこの傾向を維持していくことが望まれる。

⑥ 「声の大きさ」、「教材などの効果」は昨年度を下回る結果となった。語学に重要なこの2項目の評価が下がったのは問題であり、この結果を教員間で共有する必要がある。

「教室内の雰囲気」の値は昨年より改善した。引き続き学生、そして学生同士が協働しやすい環境作りに取り組むことを期待したい。

⑦ 「宿題・課題」については、「予習・復習」の場合と同じように、昨年に比べ数値は改善している。③で示した通り、他の科目等とのバランスを考えながら、現実的な学習時間の提示を行う必要がある。

⑧ 「理解しやすさ」は前年度を上回り、「見方・考え方が深まる」については変化がなかった。両方ともに、スペイン語の値が依然として低いが、前年度と比較し改善が見られた。引き続き、スペイン語の改善への取り組みを期待したい。

⑨ 「満足度」については、僅かとはいえ前年度を下回った。「集計結果」で示した通り、言語間でばらつきがあるので、個別の数字を各言語の担当責任者に周知し、改善を促す必要がある。

⑩ 「難易度」、「進度」については、ほぼ同じか適切な値から若干遠ざかった値となっている。特に値が高い言語についてはクラス間で差が出ることはないよう調整を促す必要がある。

⑪ 「受講動機」の回答の分布については、昨年度同様消極的理由、すなわち「単位が必要」と「時間帯が空いている」が多くのパーセンテージを占めている。改善策としては大学のホームページで情報を提供するという方法が考えられる。これについては一昨年度から、履修の手引きの内容をホームページに掲載した。引き続き授業の様子や海外の提携大学、個人研修奨学金、海外研修の情報などを掲載し、受講生が入学前により多くの情報を得られるように工夫したい。

⑫ 昨年度の全体値と比較すると、全体的に数値の改善が見られた。しかし上述のようにアンケートが前期に行われたことで、数値が良くなる傾向にあることを考慮すべきである。アンケートが後期に実施された場合、評価に違いが出ることも予想される。各言語におけるスタッフミーティングの場などを通して情報を共有し、各項目について具体的な対策を行っていくことが重要であると考え。

以 上

6. 教養教育科目（スポーツ・トレーニング科目）

(A) 評価

I. 受講する姿勢や動機について

I-1 「学生の出席状況」

平均値（平成 27 年度調査は 4.58、平成 26 年度 4.59、平成 25 年度 4.65、平成 24 年度 4.51、平成 23 年度 4.58、平成 22 年度 4.51、平成 21 年度 4.47、平成 20 年度 4.53）。出席率 80%以上と答えた学生は 94%であった。平成 27 年度調査は 88%、平成 26 年度 88%、平成 25 年度 91%、平成 24 年度 88%、平成 23 年度 90%、平成 22 年度 88%、平成 21 年度 88%、平成 20 年度 90%であった。平成 26 年度より工学部のみ必修科目となった。商・政経学部は平成 26 年度より必修科目からははずれている。直近 9 年間の数値にほぼ変化はなかったのであるが、平成 28 年度調査では 94%という極めて高い数値となった。工学部学生の授業出席に対する真面目な姿勢が窺える。非常に高い出席状況である。

I-2 「健康・運動への関心」

平均値 4.26（平成 27 年度調査は 4.13、平成 26 年度 4.23、平成 25 年度 4.27、平成 24 年度 4.21、平成 23 年度 4.15、平成 22 年度 4.20、平成 21 年度 4.08、平成 20 年度 4.11）。平成 27 年度は「強く関心を持つが 45.03%、そう思うが 31.41%」で 76%、平成 26 年度は「強く関心を持つが 51.34%、そう思うが 26.82%」で 78%、平成 25 年度 81%、平成 24 年度 78%、平成 23 年度 78%、平成 22 年度 80%である。

昨年度までの過去 5 年間は約 80%の学生が「健康・運動」に関心を持っていると回答した。平成 28 年度も「強くそう思う 47.83%、そう思う 33.60%」で 81%の学生が自身の健康・運動に強い関心を持っている。健康が生活の柱であることは言を俟たないが、81%という高い数値は大変に良い傾向である。しかし、約 20%の学生が健康・運動に関心を持っていない。100%に限りなく近づかなければいけない項目であろう。

I-3 「積極的参加」

平均値 4.53（平成 27 年度調査は 4.52、平成 26 年度 4.40、平成 25 年度 4.48、平成 24 年度 4.37、平成 23 年度 4.30、平成 22 年度 4.35、平成 21 年度 4.28、平成 20 年度 4.21）。「強くそう思う 62.45%、そう思うが 29.64%」で 92%、平成 27 年度は「強くそう思う 64.06%、そう思うが 25.52%」で 90%、平成 26 年度は「強くそう思う 58.20%、そう思うが 27.34%」で 86%、平成 25 年度は「強くそう思う 60.82%、そう思うが 29.13%」で 90%、平成 24 年度では 87%、平成 23 年度調査も 87%と、今年度はわずかに数値が据えた。昨年度も微増している。良い傾向が窺える。積極的に授業に参加する意思を大勢の学生が持っているようである。

I-4 「受講動機の回答比率」

③の「単位が必要だから」が 48%と最も高かった。次いで⑤の「講義要項を読んで興味を持ったから」が 30%で、③と⑤で 78%を占めた。工学部の必修科目であるため、③の数値が高くなることは当然であると思えるが、⑤の「興味を持ったから」の数値もかなり健闘したと考える。昨年度は③が 50%、⑤が 32%でトータル 80%であった。漸減している

が、大きな問題ではないと思える。

Ⅱ. 授業の内容や進め方について

Ⅱ-1 「狙いの明確さ」

平均値 4.51（平成 27 年度調査は 4.34、平成 26 年度 4.37、平成 25 年度 4.36、平成 24 年度 4.33、平成 23 年度 4.25、平成 22 年度 4.33、平成 21 年度 4.23、平成 20 年度調査 4.21）。「強くそう思う 58.10%、そう思う 34.39%」で 93%、平成 27 年度調査では「強くそう思う 53.13%、そう思う 29.17%」で 82%、平成 26 年度調査では「強くそう思う 54.41%、そう思う 30.65%」で 85%、平成 25 年度調査では「強くそう思う 53.30%、そう思う 31.30%」で 85%、平成 24 年度は 83%、平成 23・22 年度も 84%と、ほぼ同様の数値が昨年度までは継続していたのであるが、今年度は 93%と昨年度を 11 ポイントも上回った。担当教員の努力の成果であると考えたい。「狙いの明確さ」についての学生の評価は非常に高いと思える。

Ⅱ-2 「難易度」

平均値 3.11（平成 27 年度調査は 3.10、平成 26 年度 3.08、平成 25 年度 3.18、平成 24 年度 3.15、平成 23 年度 3.17、平成 22 年度 3.26、平成 21 年度 3.20、平成 20 年度 3.20）。③の「ちょうど良い」が 73%、平成 27 年度は「ちょうど良い」が 79%、平成 26 年度は「ちょうど良い」が 74%、平成 25 年度は「ちょうど良い」が 70%、平成 24 年度は「ちょうど良い」が 73%、平成 23 年度が 72%で、今年度調査では「ちょうど良い」と感じている学生は昨年度より漸減（6 ポイント）したが、例年通りの数値であり特に大きな問題は感じない。

Ⅱ-3 「進度」

平均値 3.15（平成 27 年度調査は 3.14、平成 26 年度 3.05、平成 25 年度 3.15、平成 24 年度 3.09、平成 23 年度 3.06、平成 22 年度 3.19、平成 21 年度 3.14、平成 20 年度 3.12）。「ちょうど良い」が 84%、平成 27 年度は「ちょうど良い」が 88%、平成 26 年度は「ちょうど良い」が 86%、平成 25 年度は「ちょうど良い」が 83%、平成 24 年度は「ちょうど良い」が 89%、平成 23 年度は 87%であった。今年度も大変に良好な傾向を示している。今後も継続して高い評価が与えられるよう努力していきたい

Ⅱ-4 「説明方法・分かりやすさ」

平均値 4.22（平成 27 年度調査は 4.20、平成 26 年度 4.17、平成 25 年度 4.15、平成 24 年度 4.22、平成 23 年度 4.11、平成 22 年度 4.23、平成 21 年度 4.02、平成 20 年度 4.08）。「強くそう思う 48.03%、そう思う 27.95%」で 76%、平成 27 年度は「強くそう思う 48.96%、そう思う 25.00%」で 74%、平成 26 年度は「強くそう思う 51.91%、そう思う 18.70%」で 71%、平成 25 年度は「強くそう思う 45.75%、そう思う 26.36%」で 72%、平成 24 年度では 74%、平成 23 年度では 71%、平成 22 年度は 77%、平成 21 年度 69%、平成 20 年度 71%と、この項目もここ数年ほぼ横ばい状態となっている。もちろん良好な傾向が窺えるわけであるが、まだまだ教員自身の改善努力が必要な項目になっていると考えられる。更に良い評価を来年度は見せられるようにしたいものである。

Ⅱ－５ 「話し方や声の聞き取りやすさ」

平均値 4.40（平成 27 年度調査は 4.50、平成 26 年度 4.52、平成 25 年度 4.45、平成 24 年度 4.48、平成 23 年度 4.38、平成 22 年度 4.45、平成 21 年度 4.36、平成 20 年度 4.41）。「強くそう思う 55.16%、そう思う 30.56%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 66.67%、そう思う 18.23%」で 85%、平成 26 年度は「強くそう思う 65.10%、そう思う 23.14%」で 88%、平成 25 年度は「強くそう思う 61.73%、そう思う 23.30%」で 85%、平成 24 年度は「強くそう思う 65.84%、そう思う 23.47%」で 89%、平成 23 年度は 86%、平成 22 年度 89%であった。この項目の値も今後ともまだ教員各自が努力し、設定目標値に到達させなければいけないと考えられる。

Ⅱ－６ 「学生とのコミュニケーション」

平均値 4.30（平成 27 年度調査は 4.34、平成 26 年度 4.37、平成 25 年度 4.25、平成 24 年度 4.38、平成 23 年度 4.32、平成 22 年度 4.44、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30）。「強くそう思う 50.59%、そう思う 30.83%」で 81%、平成 27 年度は「強くそう思う 56.48%、そう思う 23.32%」で 80%、平成 26 年度は「強くそう思う 58.30%、そう思う 23.94%」で 82%、平成 25 年度は「強くそう思う 49.58%、そう思う 29.78%」で 79%、平成 24 年度は「強くそう思う 56.74%、そう思う 26.59%」で 83%、平成 23 年度は 82%、平成 22 年度は 86%の学生が「学生とのコミュニケーション」の項目を高く評価している。例年と比べ大きな変化はないが、ここ 6 年間はこの項目の設定目標値 85%をクリアできていない。

Ⅱ－７ 「リーダーシップ」

平均値 4.38（平成 27 年度調査は 4.42、平成 26 年度 4.42、平成 25 年度 4.36、平成 24 年度 4.42、平成 23 年度 4.36、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.32、平成 20 年度 4.32）。「強くそう思う 51.79%、そう思う 35.06%」で 87%、平成 27 年度は「強くそう思う 62.50%、そう思う 20.31%」で 83%、平成 26 年度は「強くそう思う 59.39%、そう思う 24.14%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 54.08%、そう思う 29.76%」で 84%、平成 24 年度は「強くそう思う 56.85%、そう思う 29.27%」で 86%である。平成 23 年度は 85%で、平成 22 年度は 87%であった。もちろん悪い評価ではないが、未だに一度も設定目標値である 88%をクリアできていない。今年度は平成 22 年度以来の 87%という高い評価であった。「民主的・協動的リーダーシップ」は指導スキルには欠かせないものである。今後とも努力し鋭意努力し、評価の向上を目指さなければいけない項目と考えられる。

Ⅱ－８ 「授業の雰囲気」

平均値 4.43（平成 27 年度調査は 4.55、平成 26 年度 4.42、平成 25 年度 4.42、平成 24 年度 4.48、平成 23 年度 4.37、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.34、平成 20 年度 4.36）。「強くそう思う 56.13%、そう思う 31.23%」で 87%、平成 27 年度は「強くそう思う 68.75%、そう思う 18.75%」で 88%、平成 26 年度は「強くそう思う 60.54%、そう思う 23.75%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 55.93%、そう思う 31.36%」で 87%、平成 24 年度は「強くそう思う 58.80%、そう思う 30.15%」で 89%、平成 23・22 年度は 86%である。この項目も過去と比較してみても大きな変化はない。毎年高い水準はキープしている。この項目に影響を与える要素は、学生間の集団力学、施設設備、必要備品などであると考えられ

るが、教員の指導スキルが最も影響する項目でもある。設定目標値は高く 90%である。しかし、未だに達成はできていない。鋭意努力し、更に向上を目指す必要がある項目のひとつと考えられる。

Ⅱ－9 「理解しやすさ」

平均値 4.40（平成 27 年度調査は 4.44、平成 26 年度 4.41、平成 25 年度 4.38、平成 24 年度 4.37、平成 23 年度も 4.37、平成 22 年度 4.41、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30）。「強くそう思う 55.34%、そう思う 30.83%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 59.07%、そう思う 26.94%」で 86%、平成 26 年度は「強くそう思う 59.39%、そう思う 24.52%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 53.73%、そう思う 31.53%」で 85%である。平成 24 年度は「強くそう思う 55.09%、そう思う 31.13%」で 86%、平成 23 年度は 84%、平成 22 年度は 86%であった。平成 27 年度、平成 24 年度、平成 22 年度に続き達成目標値の 85%をクリアした。実技が中心の授業であるから「理解しやすさ」は当然のことであるとの認識もあろうが、トレーニングに関する知識には若干複雑な要素があり、説明に工夫が必要である。今後とも高い評価をキープしていくために、さらに努力していかねばならない項目であろう。

Ⅱ－10 「知識・技術が身につく」

平均値 4.31（平成 27 年度調査は 4.30、平成 26 年度 4.27、平成 25 年度 4.25、平成 24 年度 4.23、平成 23 年度 4.26、平成 22 年度 4.28、平成 21 年度 4.13、平成 20 年度 4.16）。「強くそう思う 47.62%、そう思う 36.90%」で 85%、平成 27 年度は「強くそう思う 52.08%、そう思う 27.08%」で 79%、平成 26 年度は「強くそう思う 51.92%、そう思う 26.92%」で 79%、平成 25 年度は「強くそう思う 47.63%、そう思う 32.20%」で 80%、平成 24 年度は「強くそう思う 44.74%、そう思う 37.59%」で 82%、平成 23・22 年度はともに 82%であった。今年度は 85%という高い数値を記録した。高い評価を継続して得ている項目ではあるが、ここ数年では群を抜いて高い評価となった。重要な項目であるのでさらに評価が向上するように努力する必要がある。今後も継続して目標値 80%をクリアしていきたいと考えている。

Ⅱ－11 「健康・体力維持に役立つ」

平均値 4.34（平成 27 年度調査は 4.42、平成 26 年度 4.38、平成 25 年度 4.33、平成 24 年度 4.33、平成 23 年度 4.36、平成 22 年度 4.38、平成 21 年度 4.22、平成 20 年度 4.19）。「強くそう思う 48.81%、そう思う 37.30%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 59.90%、そう思う 23.44%」で 83%、平成 26 年度は「強くそう思う 58.08%、そう思う 25.77%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 50.93%、そう思う 33.79%」で 85%、平成 24 年度は「強くそう思う 50.47%、そう思う 35.08%」で 85%、平成 23 年度 85%、平成 22 年度が 86%であった。以前は約 80%前後の数値であったが、6 年前より継続して数値は達成目標値 85%前後をクリアしている。今後とも継続していきたい数値であると考えている。現在目標値は 85%に設定しているが、90%に目標値を設定しなおすべきかもしれない。この項目の評価は体育実技の生命線である。高い評価をキープできるように今後とも鋭意努力していきたい。

Ⅲ総合的に見て、この授業に満足していますか

平均値 4.44（平成 27 年度調査は 4.53、平成 26 年度 4.47、平成 25 年度 4.42、平成 24 年度 4.43、平成 23 年度 4.39、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.34、平成 20 年度 4.35）。「強くそう思う 56.57%、そう思う 31.87%」で 88%、平成 27 年度は「強くそう思う 65.63%、そう思う 22.40%」で 88%、平成 26 年度は「強くそう思う 64.23%、そう思う 21.92%」で 86%、平成 25 年度は「強くそう思う 59.22%、そう思う 26.62%」で 86%、平成 24 年度は「強くそう思う 60.04%、そう思う 26.45%」で 86%である。これで過去 5 年間は 86%を超えている。達成目標値は 90%である。90%に近い数値が今回の調査でも得られているが、未だに達成目標値はクリアされていない。継続して鋭意努力していきたいと考えている。

Ⅳ. スポーツ・トレーニング用の独自の設問項目

Ⅳ-1 「希望種目」

平均値 4.40（平成 27 年度調査は 4.47、平成 26 年度 4.49、平成 25 年度 4.35、平成 24 年度 4.28、平成 23 年度 4.15、平成 22 年度 4.19、平成 21 年度 4.09、平成 20 年度 4.22）。8 種類のスポーツ種目を選択できるように準備している。8 種類あれば十分に満足できる選択が必ずできるとは言い難いにしても、ほぼ希望のスポーツ種目が選択できるのではないだろうか。平均値 4.40 はそれを物語っていると考えられる。なるべく希望種目が選べるように、継続してできる限りの配慮を考えていきたい

Ⅳ-2 「時間帯」

平均値 4.37（平成 27 年度調査は 4.44、平成 26 年度 4.36、平成 25 年度 4.06、平成 24 年度 3.92、平成 23 年度 3.93、平成 22 年度 3.97、平成 21 年度 3.80、平成 20 年度 3.92）。数値は高いが授業の主体となる工学部学生は必修科目として時間帯が設定されてしまっている。従って時間帯は学生の満足を十分には得ていないと考えている。特に国際学部は 1 時限目に実技授業が設定されている。体育実技の時間帯としては相応しいとは思われない。現在の授業時間設定は工学部の必修科目ということを考えればやむをえないものである。また、平均値 4.37 という高い評価を素直に受け入れても良いのかもしれない。

Ⅳ-3 「次年度の履修希望」

平均値 3.76（平成 27 年度調査は 3.82、平成 26 年度 3.81、平成 25 年度 3.68、平成 24 年度 3.47、平成 23 年度 3.56、平成 22 年度 3.60、平成 21 年度 3.51、平成 20 年度 3.54）。2 年次以降に体育実技を履修したい学生の比率は、良い傾向を示していると考えられる。「希望種目」「時間帯」の設問と同様に 1 年生のみに限定して調査する必要性は感じるが、④の「そう思う」に近い評価は、ほぼほぼ満足すべき数値であるように思われる。

2) 課題

- ① 平成 17 年度の達成値を参考にして、平成 18 年度以降の「達成する目標値」を設定した（表 1 参照）。この数値は努力目標値であり決して義務目標値ではない。また数字の根拠となる理論も明確には説明できない。しかし、「努力目標数値」と考え、時間をかけて努力していくと根拠のある数値を見つけることができるであろうという

前提のもとで設定している。「希望種目」「時間帯」「次年度履修希望」には「達成目標値」を設定してはいない。

- ② 表1の達成値はアンケートの調査項目で、「⑤強く思う、④思う」と回答した学生の割合である。但し、「難易度」「進度」については、「③ちょうど良い」と解答した学生の割合である。また、表の項目の「達成・未達成・増減」は、達成目標値を達成した項目は◎印、未達成は×印で表し、そして、今回の調査が前年度に比べて増加した場合は↑、減少した場合は↓、横這いは→で表している。数値は小数点以下は四捨五入している。

表1 「年度別達成値」と「達成目標値」の推移

	調査項目	23年度 達成値	24年度 達成値	25年度 達成値	26年度 達成値	27年度 達成値	28年度 達成値	達成 目標値	◎達成
I-1	学生出席状況	90%	88%	91%	88%	88%	94%	95%	×↑
I-2	健康・運動関心	78%	78%	81%	78%	76%	81%	80%	◎↑
I-3	積極的参加	87%	87%	90%	86%	90%	92%	85%	◎↑
II-1	狙いの明確さ	84%	83%	85%	85%	82%	93%	80%	◎↑
II-2	難易度	71%	73%	70%	74%	79%	73%	80%	×↓
II-3	進度	87%	89%	83%	86%	88%	84%	85%	×↓
II-4	説明方法	71%	74%	72%	71%	74%	76%	75%	◎↑
II-5	話し方・声の大きさ	86%	89%	85%	88%	85%	86%	87%	×↑
II-6	コミュニケーション	82%	83%	79%	82%	80%	82%	85%	×↑
II-7	教員のリーダーシップ	85%	86%	84%	84%	83%	87%	88%	×↑
II-8	授業の雰囲気	86%	89%	87%	84%	88%	87%	90%	×↓
II-9	理解しやすさ	84%	86%	85%	84%	86%	86%	85%	◎→
II-10	知識・技術の習得	82%	82%	80%	79%	79%	85%	80%	◎↑
II-11	健康・体力維持	85%	85%	85%	84%	83%	86%	85%	◎↑
III	総合的な満足度	88%	86%	86%	86%	88%	88%	90%	×→
IV-1	希望種目								
IV-2	時間帯								
IV-3	次年度履修希望								

総括

- ① 「達成目標値」をクリアした項目：7項目
- ② 「達成目標値」をクリアできなかった項目：8項目
- ③ 「達成目標値」に一層の努力を要する項目：「学生出席状況」、「難易度」、「説明方法」、「話し方・声の大きさ」、「コミュニケーション」、「教員のリーダーシップ」、「授業の雰囲気」の6項目

備考

◆ 平成 29 年度の努力目標設定

平成 28 年度と平成 27 年度を比較すると、達成目標値をクリアした項目数が 3 項目増加した。教員が共通意識を持ち、努力をした結果は数値に正確に表れると思える。その意味では各教員の努力の成果が結果としてあらわれたのであろう。更なる努力次第で未達成項目の達成は可能と前向きに考え、来年度もまた頑張りたい。平成 27 年度も「体育教員室」に努力目標として「説明方法を改善しよう」のポスターを継続して掲示した。学生の評価結果としては十分に効果があったと思える。文京キャンパスにおける体育実技授業は平成 27 年度より教職科目履修者のみである。トレーニング場としては少々狭い空間であるが、素晴らしい施設が文京キャンパスには整えられている。近い将来、教職科目履修者だけではなく一般学生の履修も可能にならないかと考えている。

◆ 討議のための参考資料として「表 2」を作成した。「表 1」の補完として利用できる。

表 2 「各年度の平均値の推移」

	調査項目	21 年度 平均値	22 年度 平均値	23 年度 平均値	24 年度 平均値	25 年度 平均値	26 年度 平均値	27 年度 平均値	28 年度 平均値
I-1	学生出席状況	4.47	4.47	4.58	4.51	4.65	4.59	4.58	4.80
I-2	健康・運動関心	4.08	4.08	4.15	4.21	4.27	4.23	4.13	4.26
I-3	積極的参加	4.28	4.28	4.30	4.37	4.48	4.40	4.52	4.53
II-1	狙いの明確さ	4.23	4.23	4.25	4.33	4.36	4.37	4.34	4.51
II-2	難易度	3.20	3.20	3.17	3.15	3.18	3.08	3.10	3.11
II-3	進度	3.14	3.14	3.06	3.09	3.15	3.05	3.14	3.15
II-4	説明方法	4.02	4.02	4.11	4.22	4.15	4.17	4.20	4.22
II-5	話し方・声の大きさ	4.36	4.36	4.38	4.48	4.45	4.52	4.50	4.40
II-6	コミュニケーション	4.29	4.29	4.32	4.38	4.25	4.37	4.34	4.30
II-7	教員のリーダーシップ	4.32	4.32	4.36	4.42	4.36	4.42	4.42	4.38
II-8	授業の雰囲気	4.34	4.34	4.37	4.48	4.42	4.42	4.55	4.43
II-9	理解しやすさ	4.29	4.29	4.37	4.37	4.38	4.41	4.44	4.40
II-10	知識・技術の習得	4.13	4.13	4.26	4.23	4.25	4.27	4.30	4.31
II-11	健康・体力維持	4.22	4.22	4.36	4.33	4.33	4.38	4.42	4.34
III	総合的な満足度	4.34	4.34	4.39	4.43	4.42	4.47	4.53	4.44
IV-1	希望種目	4.09	4.09	4.15	4.28	4.35	4.47	4.47	4.40
IV-2	時間帯	3.80	3.80	3.93	3.92	4.06	4.36	4.44	4.37
IV-3	次年度履修希望	3.51	3.51	3.56	3.47	3.68	3.81	3.82	3.76

以上

7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

授業評価の対象となる教職課程・社会教育主事・日本語教員養成基礎講座の科目数は、教職課程講座28科目、日本語教員養成基礎講座4科目であり、合計32科目であった。今回は、社会教育主事講座の評価科目はなかった。

「Ⅲの満足度」について、2講座の科目全体で見ると、今年度の平均値は4.11であった。これは、昨年度、一昨年度の平均値4.23、4.24と比較するとやや低い数値となった。その背景には、授業評価の実施時期との関連が考えられる。今年度は前期に実施したが、昨年度、一昨年度は後期に実施しており、後期に実施した年度の数値の方が高い傾向が出ているからである。この傾向は、教職課程・社会主事講座・日本語教員養成基礎講座科目にとどまらず、他の科目群にも当てはまる全体的な傾向である。直近で前期に授業評価を実施した平成25年度の数値は3.99となっており、評価時期を揃えて比較すると、むしろ満足度は上がっていることになる。

昨年度の「評価と課題」において、各講座の授業改善が進んでいるとの分析がなされたが、今年度も、改善の傾向には変わりがないといえる。

教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目の評価及び課題について

○教職課程について

I 受講する姿勢や動機について

I-1 教職科目全体での「学生の出席状況」については、平均値は4.55（標準偏差0.67）であり、昨年度も4.55（標準偏差0.66）でほとんど変わりがなく、高い数値である。また、出席率が90%以上の学生が約64%、80%以上の学生が約26%となっている。

出席状況は、昨年度指摘されていた、90%以上が増え、80%以上が減る傾向がさらに進んだといえる。授業評価を実施した前期には、履修の継続を決めかねている出席状況の不安定な学生が見られることから、後期に比べると、出席状況の自己評価がやや低くなる可能性がある。しかし、今回、昨年度とほとんど同じく高い数値が示されたことは、教職科目の履修学生の出席状況は全体的に良好であることの証左である。

現状では、大多数の学生はほとんど休まず履修しているので心配する状況ではない。出席状況の良好な傾向は、科目群全体の傾向でもあるが、教職科目については、教員免許を取得し教師を目指すという明確な目標があり、目的意識の高い学生が履修しているから、と考えられる。

しかし、逆に、新たな進路の選択などにより、途中で履修を辞退する場合もある。また、運動部学生では、試合等でやむを得ない欠席もみられる。教職課程履修を目指す運動部学生は、卒業に必要な単位数を大幅に超える科目の履修のために頑張っているが、他方で、部活動のためと理由付けをして安易に欠席する学生も散見される。欠席届を提出すれば欠席の回数が多くてもよいと誤解している学生や、授業前に次回の授業の欠席届が授業担当者に提出されない場合もある。これらの点について、学期初めのガイダンスや、授業時に学生に注意を促すことが必要である。

I-2 「授業内容についてノートやメモをとるか」については、平均値は3.96（標準偏差1.06）であり、昨年度の4.14（同1.04）、一昨年度の4.11を下回った。ノートやメモをとる学生が「90%以上」及び「80%以上」と答えた学生の合計も約68%となっており、

昨年度、一昨年度と比べて8ポイントほど低下した。

この傾向については、次の「予習・復習」「質問」などの設問の数値結果なども勘案すると、学生の学修意欲の低下によるとは考えにくい。授業の進め方は授業担当者によって多様であるが、中学校、高等学校で生徒にノートをとらせる指導をすることになる学生たちには、積極的な取り組み姿勢を求めている。

I-3 「予習・復習」をするかについては、平均値は1.73（標準偏差1.03）であり、昨年度1.59（同0.85）、一昨年度は平均値1.63（標準偏差0.91）に比べて、やや高くなった。「1時間以内」と答えた学生の割合は約84%となっており、それも「30分以内」が約56%に上ることを考えると、学生の予習・復習の状況は良くない。ただ、昨年度「1時間以内」の割合が約87%であったことに比べると、やや改善された。この数値は、これでも過去5年のなかでは、最も高い。

学生からすると、各学部の学修に加えて、多くの教職科目を履修していることから、時間割には空き時間がない状況で、予習・復習に時間を割けていないといった弁明もあるかもしれない。しかし、生徒の学習を促す立場に立つ教員を目指す学生がこの状況では、問題であろう。授業担当者として、予習や復習を促すための課題や宿題として課すなど、引き続き授業に工夫を凝らす努力が求められている。

I-4 「受講の動機」については、③「単位が必要だから」の平均値が約68%（昨年度、一昨年度とも約70%）であり、例年の通り、圧倒的に高い。次いで、⑤「講義要項を読んで」が約15%、④「教員にひかれて」が約10%などとなっている。

教員免許取得のために学生が科目を履修している状況から考えて、③「単位が必要だから」が多いのは当然である。そのうえで、⑤「講義要項を読んで」や④「教員にひかれて」選択を考える学生の行動が見て取れる。「教職論」など履修学生が多く、教科の種類にかかわらず履修が必要な教職科目については、同一科目を複数設置している場合があるが、教科教育法のように、授業担当者が一人という科目も少なくない。したがって、④「教員にひかれて」を回答できるような選択肢がない科目も多いのが現実である。授業担当者が一人であれば、なおさら学生の関心や意欲を喚起できる魅力ある授業づくりに邁進すべきことは言うまでもないことである。

教職課程事務局では、毎年、学生が学部の専門科目と重複して教職科目を選択・履修できなくなるようなことのないよう腐心をしている。こうした事務局の努力に敬意を表する。

I-5 「質問に行く（オフィスアワー等）」については平均値は、1.57（標準偏差1.02）であり、昨年度の1.52（標準偏差値0.97）、一昨年度の1.46（標準偏差値0.91）よりもわずかながら改善された。

全体的に数値が高くない要因として、教職課程の科目は全学部を対象とし、授業担当者も非常勤講師の先生が多いことが考えられる。他方で、教員志望の強い学生は、オフィスアワーなどに質問・相談に来る場合もあり、一部学生に対しては授業担当者が日常的に対応しているのも事実である。今後は、さらに、学生とのコミュニケーションを密にし、「履修カルテ」などを用いて相談等に気軽に応える関係を築くことが必要であろう。

II 授業の内容や進め方について

II-1 「授業の狙いの明確さ」については、平均値は4.17（標準偏差0.93）であり、昨年度の4.22（同0.91）、一昨年度の4.21（標準偏差0.86）と比べて大きな変化はなく、実

施時期が同じであった平成 25 年度の 4.05 に比べると上がっている。学生には教職課程を履修しているという明確な目的意識があり、授業の狙いは多くの学生に理解されていると考えることができる。

- Ⅱ－2 「授業の難易度」については、平均値は 3.41（標準偏差 0.7）であり、昨年度の 3.34（標準偏差 0.62）、一昨年度の平均値 3.29（標準偏差 0.60）と比べると、上昇傾向が窺える。③「ちょうどよい」という学生（約 61%）がほとんどであるが、この数値は、昨年度と比べてやや減少した。他方で、④「やや難しい」も約 28%、⑤「難しい」も 7% いた。

毎年、授業担当者は、履修学生の理解の状況を見定め、微調整を図りながら授業を進めている。今後も、授業の途中ででも学生の反応を見ながら、わかりやすい授業を心掛けていく基本姿勢を大切にしていきたい。

- Ⅱ－3 「講義要項に沿った授業」については、平均値は 4.15（標準偏差 0.87）であり、昨年度の 4.27（同 0.84）、一昨年度の 4.21（標準偏差 0.82）に比べてやや低くなっている。ただ、数値は低いわけではなく、ほぼ講義要項に沿って授業がなされているといえる。

講義要項は、授業担当者が学生に示す授業進行の約束である。年間授業計画の作成が求められる中学校や高等学校の教員を目指そうとする教職課程履修の学生に、その意義を周知するためにも、講義要項に沿った授業の実施を引き続きすすめたい。講義要項をあまり読んでいない学生もいるようなので、学生への指導も徹底する必要がある。

- Ⅱ－4 「授業の進度」については、平均値は 3.21（標準偏差 0.63）であり、昨年度の 3.11（同 0.51）、一昨年度の昨年度の 3.13（標準偏差 0.49）と比べて大きな変化はない。③「どちらとも言えない」が約 76%をしめている。

Ⅱ－2 「授業の難易度」と関連する設問であるが、履修学生は授業の進度に困難を感じることはないといえる。

- Ⅱ－5 「話し方や声の聞き取りやすさ」については、平均値は 4.17（標準偏差 1.03）であり、昨年度の 4.34 よりは低下し、一昨年度の 4.15 並みになった。

低下したとはいえ、絶対値は低いとはいえない。それでも、学生の理解度にかかわることから、授業中の学生の反応に注意を払い、要望にはしっかりと対応していく必要がある。

- Ⅱ－6 「教材等の有効性」については、平均値は 4.18（標準偏差 0.97）であり、昨年度の 4.21（同 0.91）、一昨年度の 4.11（標準偏差 0.96）と大きくは変わらない。

文京キャンパスでは、昨年度から新校舎 E 館が使用されているが、それ以前からの C 館とともに最新機器を備えた環境が整っている。ICT 教育が求められるなか、今後も教育機器を積極的に活用した授業の改善がのぞまれるところである。

- Ⅱ－7 「学習にふさわしい雰囲気」については、4.25（標準偏差 0.89）であり、昨年度の 4.34（同 0.87）、一昨年度の 4.28（標準偏差 0.89）と比べて大きくは変わらない。

全体の評価結果を見ると、履修学生の多い科目ほど、数値が低下する傾向にある。しかし、教職課程の科目では、静謐な教育環境が保たれているといえる。比較的履修学生数が少ないうえに、教職の授業であることを授業担当者も学生に意識させ、学生もその意識をもって授業にのぞんでいるからではないだろうか。

- Ⅱ－8 「宿題・課題の適切さ」については、平均値が 3.87（標準偏差 1.00）であり、昨年度の 3.98（同 0.98）、一昨年度の 3.96（標準偏差 1.02）よりやや低下したが、おおむね

適切さは認識されている。

教職課程の科目では、レポートや指導案の作成を宿題・課題として課す担当者が多い。学生には負担と感ずることも予想されるが、こうした宿題・課題が適切であると一定程度は理解されていると考えることができる。他方で、I-3「予習・復習」の設問では、あまり予習・復習の時間をとっていないと回答している学生が多いことから、宿題・課題は予習・復習とは別だという意識をもっているのであろう。予習・復習を意図した宿題の提示など、学修の定着に向けた工夫が求められる。

II-9「学習内容の理解」については、平均値が3.89（標準偏差0.96）であり、昨年度の4.05（同0.91）、一昨年度の4.01（標準偏差0.91）に比べるとやや低下した。理解していると肯定的に評価した（⑤+④の合計）学生は約67%となっており、昨年度より6ポイント低下した。否定的に評価した学生は①②合わせて6%台であった。

II-2「授業の難易度」やII-4「授業の進度」などの設問ともかかわっていると考えられるが、履修学生が理解しやすい授業を目指してさらなる授業改善に精励することが求められる。もっとも、中学生や高校生ではない大学生の学びには、ただ理解しやすいだけでなく、課題を提示して学生の追究に委ねる手法もありうる。その場合でも、学生が宿題や復習などを通して理解を深める道筋を授業担当者が準備し、明示するなどの必要がある。

II-10「ものの見方や考え方が深まる」については、平均値は4.05（標準偏差0.92）であり、昨年度の4.08（同0.96）、一昨年度の3.86（標準偏差1.02）と比べて、大きくは変わらない。各学部専門科目の同一設問の平均値と比べても高く、おおむね良好な結果となっている。

この設問は、教育観や指導観、教科観、生徒観といった「観」にかかわっている。「観」の深まりは、教職課程の科目指導にとって、教員養成にとってきわめて重要な部分である。

今後、視野の広い、志の高い教員を目指して教職課程の指導を行っていきたい。

III「総合的な満足度」は、授業改善にむけての最重要な評価項目であるが、今年度の平均値は4.09（標準偏差0.95）であり、昨年度の4.23（同0.88）、一昨年度の4.24（標準偏差0.86）と比べてやや低下した。⑤「強くそう思う」、④「そう思う」の合計は約75%であり、昨年度に比べて約5ポイント下がる一方で、③「どちらともいえない」が約20%を占めている。

全体としては、教職課程の科目の授業に満足している学生が多いことがわかる。しかし、5人に1人は満足していないのであり、今後は、学生全員が満足できるような授業を目指して、工夫改善を行うよう心掛ける必要がある。

教職課程の科目においては、前期に実施した今年度は、昨年度（後期実施）の調査よりも平均値がやや下がる項目が見られた。0.1ポイントを超えて低下した項目と平均値は、次の通りである。

I-2「授業内容についてノートやメモをとるか」3.96（昨年度4.14）、II-3「講義要項に沿った授業」4.15（同4.27）、II-4「授業の進度」3.21（同3.11）（数値が高い方が進度が早いという評価になる）、II-5「話し方や声の聞き取りやすさ」4.17（同4.34）、II-8「宿題・課題の適切さ」3.87（同3.98）、II-9「学習内容の理解」3.89（同4.05）。

こうした今年度の数値を、同じく前期に実施した平成 25 年度と比べると、Ⅱの「授業の内容や進め方について」の設問では、Ⅱ-2「授業の難易度」3.41（平成 25 年度 3.37）以外は上回っている。その点では、毎年の授業改善の積み重ねが浸透してきているといえよう。

しかし、授業評価の実施時期にかかわらず、すべての学生が満足する授業の実現に向けて改善を図っていくことは当然のことである。そこで、第一に、各科目の授業担当者が授業開始時に学生に動機づけを図るだけでなく、年度初めの教職課程の全体ガイダンスを利用して、学生に対して講義要項の確認を促したり、宿題や課題の意義について周知したりするなどの指導をすすめたい。第二に、各科目の授業担当者が、授業の進捗や内容レベルに対して注意を払いながら、学生とのコミュニケーションを図るなど積極的な働きかけを行っていく必要がある。

現在、文部科学省は学習指導要領改訂の作業を進めており、教職課程の授業にも発表される最新の内容を反映させる必要がある。新学習指導要領に盛り込まれる「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善などについても、学生が学びを深めることができるよう、授業内容の改善に一層努めていきたい。

○日本語教員養成基礎講座について

日本語教員養成基礎講座の科目は全部で 12 あり、そのうち、2016 年度前期に授業が行われたものが 5 科目、そのうち、「授業改善のためのアンケート」が実施されたものは 4 科目であった。

アンケート結果を見ると、Ⅲ「総合的に見て、この授業に満足していますか。」の平均値が 4.36（標準偏差 0.82）であり、例年同様、総合的に見て、本講座の授業が高い評価を得ていることがわかる。

以下、アンケート結果を項目別に見ていく。

Ⅰ「受講する姿勢や動機について」

1「あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。」、2「あなたは授業での口頭説明や板書内容などについて、ノートあるいはメモをとっていますか。」については、ともに平均値が 4.0 を超えており（1の平均値は 4.67（標準偏差 0.57）、2の平均値は 4.07（標準偏差 1.08）、授業態度が熱心な受講生が多いことがうかがえる。

一方、3「あなたはこの科目について、毎回どのくらい予習あるいは復習をしていますか。」については、平均値が 1.55（標準偏差 0.95）であり、これは、ほぼまったく予習・復習をしていないか、していても 1 時間に満たないものが多いことを示している。また、4「授業時間以外に先生へ質問に行くこと（オフィスアワー等）がありますか。」については、平均値が 1.74（標準偏差 1.18）であり、多くの者が質問に行っていないようである。ただし、質問に行く者がまったくいないわけではないようである（標準偏差が比較的高いことにそれが現れている）。

4「この授業を受講した動機はなんですか。」については、「この時間帯が空いていたから」を選んだものが最も多く（53.3%）、続いて「単位が必要だから」（32.2%）、「講義要綱を読んで興味を持ったから」（8.9%）、「単位取得が楽だから」（5.6%）となっている（「教員にひかれて」は 0.0%）。この結果を、教職課程と比べてみると、「単位が必要だ

から」が際立って低く（教職課程は 72.7%）、「この時間帯が空いていたから」が比較的高い（教職課程は 11.7%）ことがわかる。

この結果から、本講座の受講生は、それほど強い動機づけがあつて授業をとっているわけではないようすがうかがえる。そもそも日本語教員については公的な資格（免許）制度がなく、本講座を修了しても必ずしも日本語教員の資格をとったと認められるわけではない。そのことが「単位が必要だから」の数字の低さに現れているように思うが、見方によっては、それでも、「この時間帯が空いていたから」と言つて、一定の受講生が集まり、比較的熱心に授業に参加し、授業の満足度も高いというのは、本講座の需要の高さを物語るものではないかと思う。

II 「授業の内容や進め方について」

この設問については、いずれも評価が高く、本講座の授業が高い評価を得ていることがうかがえる。

細かく見ると、2・4以外の設問では（2・4では、選択肢③が「ちょうど良い」となる）、8を除き、平均値が 4.0 を超えている。1「授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。」は平均値 4.26（標準偏差 0.86）、3「講義要項に沿って授業が行われていますか。」は平均値 4.19（標準偏差 0.84）、5「話し方や声は聞き取りやすいですか。」は平均値 4.47（標準偏差 0.82）、6「教材等（教科書・配布資料・板書・OHP・パワーポイント・ビデオ）は授業内容を理解するのに有効ですか。」は平均値 4.16（標準偏差 0.86）、7「教室内は学習にふさわしい雰囲気には保たれていますか。」は平均値 4.43（標準偏差 0.83）、9「内容はよく理解できましたか。」は平均値 4.22（標準偏差 0.83）、10「この授業を通じてものの見方や考え方が深まりましたか。」は平均値 4.25（標準偏差 0.84）となっている。8「この授業は、宿題・課題等が適切に出されていると思いますか。」については、II（2・4を除く）の設問の中で、平均値が 3.78 と最も低い。しかし、標準偏差が 1.09 と最も高くなっていることから、この数字は、宿題・課題等に対する態度・取り組みに、個人差が比較的大きいことをも示しているように思われる。

2「授業の難易度はどうですか。」、4「授業の進捗はどうですか。」については、選択肢③が「ちょうど良い」であるが、これを選んだ者が多く（2の平均値は 3.23（標準偏差 0.48）、4の平均値は 2.97（標準偏差 0.33））、ほとんどの者が難易度・進捗ともに「ちょうど良い」と思っているようすがうかがえる。

以上をまとめると、本講座は、受講生の動機づけがそれほど高くないにもかかわらず、受講生に熱心な者が多く、授業に対する評価も高いといえる。これは、担当教員の授業に対する工夫や努力によるところも大きいのではないかと考える。

今後の課題は、授業内容をきちんと理解し、ものの見方や考え方をさらに深めるためにも、宿題や課題を課すとともに、予習や復習、教員への質問などを積極的に行うように、受講生に働きかけていくことを行うことであろう。これが、さらなる授業改善につながると思う。

以上

アンケート様式

- 講義等科目用
- 工学部・実験・実習科目用
- スポーツ・トレーニング科目用

平成28年度 「授業改善のための学生アンケート」 工学部・実験・実習科目用

このアンケートは、あなたの授業担当教員が学生諸君と共に授業をよりよいものにする目的で実施するものです。建設的な気持ちで、以下の問いにお答え下さい。

授業科目等		担当教員名	
-------	--	-------	--

整理番号	授業科目分類コード	教員コード	曜日	時限	期別

※アンケートの回答はすべて5段階で評価して○に黒色の鉛筆で丁寧にぬりつぶしてください。

学年	1年	2年	3年	4年	その他										
	○	○	○	○	○										
学科	経営	国語	会計	法政	経済	英米	中国	スペイン	機械	電子	情工	デザイン	国際	その他	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

【選択肢の凡例】 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全くそう思わない

I	受講する姿勢や動機について	5	4	3	2	1		II-3 授業の進捗はどうか。 ⑤速すぎる ④やや速い ③ちょうど良い ②やや遅い ①遅すぎる	⑤	④	③	②	①
I-1	あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。	⑤ 90%以上	④ 80%以上	③ 60%以上	② 40%以上	① 40%未満		II-4 説明は分かりやすいですか。	⑤	④	③	②	①
								II-5 話し方や声は聞き取りやすいですか。	⑤	④	③	②	①
I-2	あなたはこの授業のために事前準備を行っていますか。	⑤	④	③	②	①		II-6 教材等(実験機材・教科書・配付資料・板書・OHP・パワーポイント・ビデオ・模型)は授業内容を理解するのに有効ですか。	⑤	④	③	②	①
I-3	あなたはこの授業のレポート作成にまじめに取り組んでいますか。	⑤	④	③	②	①		II-7 教材(実験機材・テキスト・配付資料・OHP・ビデオ・模型など)の使用は適切ですか。	⑤	④	③	②	①
I-4	あなたの受講態度(遅刻状況、授業への集中度、私語の有無などの総合評価)はどうか。 ⑤非常に良かった ④良かった ③普通 ②悪かった ①非常に悪かった	⑤	④	③	②	①		II-8 教室内は学習にふさわしい雰囲気 に保たれていますか。	⑤	④	③	②	①
								II-9 授業の内容はよく理解できましたか。	⑤	④	③	②	①
II	授業の内容や進め方について	5	4	3	2	1		II-10 この授業のテーマに関する知識 あるいは技術が身につきましたか。	⑤	④	③	②	①
II-1	授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。	⑤	④	③	②	①		II-11 この授業を通じてものの見方や 考え方が深まりましたか。	⑤	④	③	②	①
II-2	授業の難易度はどうか。 ⑤難すぎる ④やや難しい ③ちょうど良い ②やややさしい ①やさすぎる	⑤	④	③	②	①		III 総合的に見て、この授業に満足 していますか。	⑤	④	③	②	①

自由意見欄 (自由意見欄が不足する場合は、裏面に記入してください)

○この授業で良かった点は、なんですか。

○この授業で改善してほしい点があれば書いてください。

○この教室の環境(教室の大きさ・エアコン・照明・防音・備品など)について意見や要望があれば具体的に書いてください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

平成28年度 「授業改善のための学生アンケート」 スポーツ・トレーニング用

このアンケートは、あなたの授業担当教員が学生諸君と共に授業をよりよいものにする目的で実施するものです。建設的な気持ちで、以下の問いにお答え下さい。

授業科目等		担当教員名	
-------	--	-------	--

整理番号	授業科目分類コード	教員コード	曜日	時限	期別

※アンケートの回答はすべて5段階で評価して○に黒色の鉛筆で丁寧にぬりつぶしてください。

学年	1年	2年	3年	4年	その他										
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>										
学科	経営	国語	会計	法政	経済	英米	中国	スペイン	機械	電子	情工	デザイン	国際	その他	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

【選択肢の凡例】 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全くそう思わない

I	受講する姿勢や動機について	5	4	3	2	1	II-5	話し方や声は聞き取りやすいですか。	5	4	3	2	1
I-1	あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。	90%以上	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満	II-6	教員と学生との友好的なコミュニケーションがありますか。	5	4	3	2	1
							II-7	教員は授業運営に必要なリーダーシップを発揮していますか。	5	4	3	2	1
I-2	あなたは自分の健康と運動・栄養・休息に関心を持っていますか。	5	4	3	2	1	II-8	この授業は身体活動にふさわしい雰囲気には保たれていますか。	5	4	3	2	1
I-3	あなたはこの授業でやる気を持って積極的に取り組んでいますか。	5	4	3	2	1	II-9	授業の内容はよく理解できましたか。	5	4	3	2	1
I-4	この授業を受講した動機はなんですか。最大3つまで挙げてください。(ただし、この科目が必修科目である場合は、回答の必要はありません。) ⑤講義要項を読んで興味を持ったから ④教員にひかれて ③単位が必要だから ②単位取得が楽だから ①この時間帯が空いていたから	5	4	3	2	1	II-10	この授業のテーマに関する知識あるいは技術が身につきましたか。	5	4	3	2	1
							II-11	この授業は学生生活及び健康・体力維持に役立ちましたか。	5	4	3	2	1
II	授業の内容や進め方について	5	4	3	2	1	III	総合的に見て、この授業に満足していますか。	5	4	3	2	1
II-1	授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。	5	4	3	2	1	IV	学部等設問項目	5	4	3	2	1
II-2	授業の難易度はどうですか。⑤難しい ④やや難しい ③ちょうど良い ②やややさしい ①やさすぎる	5	4	3	2	1	IV-1	履修したスポーツ種目の選択と内容はあなたの希望にそっていましたか。	5	4	3	2	1
II-3	授業の進度はどうですか。⑤速すぎる ④やや速い ③ちょうど良い ②やや遅い ①遅すぎる	5	4	3	2	1	IV-2	受講した時間帯は適切でしたか。	5	4	3	2	1
II-4	説明は分かりやすいですか。	5	4	3	2	1	IV-3	次年度以降、あなたの好きな「生涯スポーツ応用演習」(自由科目)を履修したいですか。	5	4	3	2	1

自由意見欄 (自由意見欄が不足する場合は、裏面に記入してください)

○この授業で良かった点は、なんですか。

○この授業で改善してほしい点があれば書いてください。

○この教室の環境(アリーナ・グラウンド・トレーニングルーム・更衣室・シャワールームおよび用具<ボール・ラケット等>)について意見や要望があれば具体的に書いてください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

平成28年度

授業改善のための学生アンケート報告書

－全体集計－

第I部

平成29年3月発行

編集・発行 拓殖大学 FD委員会

〒112-8585 東京都文京区小日向3丁目4番14号

電話 03-3947-7299 (学務部 学長事務室)